

鳥取県立中央病院

業 績 集

第 42 集



2023

巻 頭 言



鳥取県立中央病院 院長 廣岡 保明

鳥取県立中央病院は2024年2月に創立75周年を迎えました。当初（1949年2月）184床、8診療科でスタートしましたが、現在（2024年4月）では518床、34診療科、10センター、職員数1170人と、鳥取県東部圏域の基幹病院として発展してきました。現在に至るまで多くの苦難を乗り越えてこられた諸先輩、関係各位に心より敬意と感謝を申し上げます。

当院の理念は『質の高い医療を提供し患者の生命と健康を守ります』です。これを実現するため、高度急性期医療（がん、救急、生殖・不妊、等）の推進、身体に優しい治療（放射線治療、ロボット手術、血管内治療、等）や検査（スペクトラルCT、前立腺生検TRINITY、等）の充実、患者に優しく（待ち時間、言葉遣い、等の患者対応）、働きやすく（モチベーション向上策、ハラスメント対応、等）、地域に必要な病院（地域病院への診療支援、市民講座、等）、などの対策を実行しております。また、2024年度には2台目のダヴィンチ、心臓カテーテル治療（TAVI）の導入予定です。

さて、2023年～2024年当初の出来事としては、ロボット手術（ダヴィンチ）の適応を泌尿器科、外科、呼吸器外科、以外に婦人科にも広げると共に、山陰初の新しいがん放射線治療（放射線同位元素ルタテラ内服）等、より患者に優しい治療を追求しております。また、水頭症外来や助産師外来を好評のうちに始め、2024年4月より感染症専門医に赴任いただき感染症・総合内科外来が始まっております。さらに、医療従事者育成のため、院内にシミュレーションセンターを開設置しました。消化器内視鏡や内視鏡治療、超音波検査等のトレーニングシミュレーター、新生児用の気道管理トレーナー、等も充実しており、医師、研修医、看護師のみならず、院外からも多くの医療従事者が研修にきており、これからの鳥取県東部圏域における医療研修に大いに役立っているところです。

多くの皆様のご協力のお陰で、本年度も業績集をホームページに滞りなく公開することが出来ました。われわれ医療人は患者さんに寄り添って思いやりの心を醸成すると共に、常に最新の医学、看護、薬学、検査、放射線、理学療法、臨床工学、心理、等々の学問と実践を追求し、それを患者さんに還元していく役目を担っております。そして、その役目を果たすためにも、この業績集は大いに参考になるのではないかと考えております。

われわれ職員は今後も引き続き一丸となって鳥取県東部圏域の医療の質向上を目指していく所存です。皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

鳥取県立中央病院業績集 第42集

目次

巻頭言

施設認定, 個人資格, 学会評議員ほか (2023年4月~2024年3月) 1

臨床研修医名簿, コメント 29

誌上発表論文等, 研究業績目録 (2023年1月~12月)

・緩和ケア内科	33
・呼吸器内科	33
・消化器内科	34
・心臓内科	35
・血液内科	39
・糖尿病・内分泌・代謝内科	43
・脳神経内科	45
・腎臓内科	46
・リウマチ・膠原病内科	46
・小児科	47
・心臓血管外科	48
・呼吸器・乳腺・内分泌外科	49
・外科	51
・脳神経外科	55
・皮膚科	55
・整形外科	56
・泌尿器科	56
・産婦人科	58
・放射線科	59
・麻酔科	61
・救急集中治療科	61
・災害科	66
・歯科口腔外科	66
・病理診断科・臨床検査科	67
・看護局	68
・薬剤部	71
・中央放射線室	72
・中央検査室	74
・臨床工学室	76
・リハビリテーション室	77

・ 栄養管理室	78
・ 感染防止対策室	79
・ 臨床心理士室	79

臨床統計（2023年1月～12月）

・ 各診療科統計	81
消化器内科／呼吸器内科／血液内科， 心臓内科， 脳神経内科（脳卒中センター）， 小児科， 外科／消化器外科， 脳神経外科， 形成外科， 皮膚科， 耳鼻いんこう科， 整形外科， 心臓血管 外科／呼吸器・乳腺・内分泌外科， 泌尿器科， 産婦人科， 眼科， 放射線科， 麻酔科， 救急集 中治療科， 歯科口腔外科， 病理診断科	
・ 各センター・各部門統計	
救命救急センター， 周産期母子センター， 血液浄化室， 薬剤部， 中央放射線室， 中央検査室， リハビリテーション科， 栄養管理室， 手術センター， 患者支援センター（医事部門・地域連 携センター・がん相談支援センター・臨床心理士室）， 健診センター	
・ 病理解剖症例一覧	
・ 医療安全対策室	
・ 感染防止対策室	
・ 化学療法室	
・ 院内がん登録	

院内研究会・CPC（2023年1月～12月）

・ 緩和ケア内科	153
・ 小児科	153
・ 歯科口腔外科	153
・ 感染防止対策室	153
・ 中央放射線室	157
・ 中央検査室	157
・ 栄養管理室	159
・ 薬剤部	159
・ 臨床心理士室	161
・ CPC（臨床病理検討会）	162

業績集規約	186
-------	-----

施 設 認 定
個 人 資 格
学 会 評 議 員 ほ か

(2023年4月～2024年3月)

施設認定（2023年4月～2024年3月）

<認定・指定病院の状況>

日本医療機能評価機構	日本医療機能評価機構認定 3rdG : Ver.2.0
卒後臨床研修評価機構	認定施設
厚生労働省・鳥取県	臨床研修病院（基幹型・協力型）
	臨床修練指定病院
	歯科研修協力施設
	地域がん診療連携拠点病院
	エイズ拠点病院
	地域周産期母子医療センター
	基幹災害拠点病院
	原子力災害拠点病院
	DMA T 指定医療機関
	第二種感染症指定医療機関
	地域医療支援病院
肝疾患専門医療機関	
日本臓器移植ネットワーク	脳死からの臓器提供病院
日本骨髄バンク	非血縁者間骨髄採取認定採取施設
世界保険機構・国連児童基金	赤ちゃんにやさしい病院（Baby Friendly Hospital）
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	マンモグラフィ検診施設画像認定
日本臨床衛生検査技師会	精度保証施設認定
国立研究開発法人国立がん研究センター	認定がん相談支援センター
日本脳卒中学会	一次脳卒中センター（PSC）

<学会指定病院の状況>

日本内科学会	認定医制度教育関連病院
日本消化器病学会	専門医制度指導施設
日本消化器内視鏡学会	専門医制度指導施設
日本消化管学会	胃腸科指導施設
日本肝臓学会	認定施設
日本呼吸器学会	認定施設
日本呼吸器内視鏡学会	関連認定施設
日本糖尿病学会	認定教育施設
日本血液学会	認定血液研修施設
日本造血細胞移植学会	非血縁者間造血幹細胞移植認定移植施設
日本循環器学会	認定循環器専門医研修施設

日本不整脈学会・日本心電図学会	認定研修施設
日本心血管インターベンション治療学会	認定研修施設
日本神経学会	専門医制度准教育施設
日本リウマチ学会	教育認定施設
日本脳卒中学会	認定研修教育病院
日本精神神経学会	専門医制度研修施設
日本外科学会	外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会	専門医修練施設
日本食道学会	食道外科専門医認定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構	基幹施設
関連 11 学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会	血管内治療実施施設
関連 10 学会構成ステントグラフト実施管理委員会	ステントグラフト実施施設（腹部・胸部）
呼吸器外科専門医合同委員会	専門医制度認定修練施設
日本乳癌学会	認定医・専門医制度関連施設
日本脳神経外科学会	専門医研修プログラム 研修施設
日本整形外科学会	専門医研修施設
日本形成外科学会	専門医認定施設
日本小児科学会	専門医認定施設
	鳥取大学小児科専門研修プログラム連携施設
日本周産期・新生児医学会	周産期（新生児）専門医 指定研修施設
	周産期母体・胎児専門医 基幹研修施設
日本小児循環器学会	小児循環器専門医修練施設群
日本小児神経学会	専門医研修関連施設
日本小児外科学会	教育関連施設 B
日本産科婦人科学会	専門医制度専攻医指導施設
	婦人科腫瘍登録施設
	周産期登録施設
	体外受精・胚移植に関する登録施設
	ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設
	顕微授精に関する登録施設
	医学的適応による未受精卵子，胚（受精卵）の凍結・保存に関する登録施設
	妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）
日本産婦人科腫瘍学会	指定修練施設 B
日本生殖医学会	認定研修施設
婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構	登録参加施設
日本女性医学学会	認定研修施設

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構	連携施設
出生前検査認証制度等運営委員会	NIPT を実施する医療機関（基幹施設）
日本泌尿器科学会	拠点教育施設
日本眼科学会	専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会	専門医研修施設
日本医学放射線学会	専門医修練機関
日本 IVR 学会	専門医修練認定施設
日本麻酔科学会	認定病院
日本臨床腫瘍学会	認定研修施設
日本がん治療認定医療機構	認定研修施設
日本プライマリ・ケア学会	認定医研修施設
日本臨床栄養代謝学会	NST 稼働認定施設
	NST 専門療法士認定教育施設
日本病態栄養学会	栄養管理 NST 実施施設
	専門医研修認定施設
日本栄養療法推進協議会	NST 稼働施設
日本病理学会	研修認定施設 B
日本臨床細胞学会	認定施設, 教育研修認定施設
日本超音波医学会	認定超音波専門医研修施設
日本口腔外科学会	認定研修施設
日本病院総合診療医学会	専門医研修施設
特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会	精度保証施設認定
日本皮膚科学会	専門医研修施設
日本内分泌外科学会専門医制度	認定施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会	専門研修連携施設
日本腎臓学会	研修施設
日本透析医学会	教育関連施設
日本高気圧環境・潜水医学会	認定施設
日本救急医学会	救急科専門医プログラム機関医療施設
日本集中治療医学会	専門医研修施設
日本腹部救急医学会	腹部救急認定医・教育医制度認定施設
日本急性血液浄化学会	認定指定施設
日本航空医療学会	指定施設
日本胃癌学会	認定施設 A

個人資格（2023年4月～2024年3月）

緩和ケア内科

日本内科学会	認定医	浦川 賢
	総合内科専門医	浦川 賢
	指導医	浦川 賢
日本緩和医療学会	認定医	浦川 賢

呼吸器内科

日本内科学会	認定医	杉本勇二, 澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
	総合内科専門医	澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
	指導医	杉本勇二, 澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
日本呼吸器学会	専門医	杉本勇二, 澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
	指導医	杉本勇二, 上田康仁
日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医	澄川 崇
ICD 制度協議会	日本感染症学会推薦 ICD 認定医	杉本勇二
	日本呼吸器学会推薦 ICD 認定医	上田康仁
日本臨床腫瘍学会	がん薬物療法専門医	澄川 崇, 上田康仁
	指導医	上田康仁
日本がん治療認定医機構	認定医	上田康仁
肺がん CT 検診認定機構	認定医	上田康仁

消化器内科

日本内科学会	認定医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範, 岡田智之, 岩本 拓, 濱本 航
	総合内科専門医	柳谷淳志, 前田和範
	指導医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
日本消化器病学会	専門医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範, 岩本 拓, 岡田智之, 濱本 航
	指導医	柳谷淳志, 前田和範
日本消化器内視鏡学会	専門医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範, 岩本 拓, 岡田智之
	指導医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
日本消化管学会	胃腸科専門医	柳谷淳志
	指導医	柳谷淳志
日本肝臓学会	専門医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
	指導医	柳谷淳志, 前田和範
日本がん治療認定医機構	認定医	田中 究, 柳谷淳志

血液内科

日本内科学会	認定内科医	田中孝幸, 小村裕美, 橋本由徳
	総合内科専門医	田中孝幸, 小村裕美, 橋本由徳
	指導医	田中孝幸, 小村裕美, 橋本由徳
日本血液学会	専門医	田中孝幸, 小村裕美, 藤本信乃, 橋本由徳
	指導医	田中孝幸, 橋本由徳
日本造血・細胞療法学会	移植認定医	田中孝幸, 橋本由徳
鳥取大学医学部	臨床教授	田中孝幸, 橋本由徳

糖尿病・内分泌・代謝内科

日本内科学会	認定医	檜崎晃史, 村尾知良
	総合内科専門医	檜崎晃史, 村尾知良
	指導医	檜崎晃史, 村尾知良
	中国支部評議員	檜崎晃史
日本糖尿病学会	専門医	檜崎晃史, 村尾知良
	指導医	檜崎晃史
日本糖尿病協会	指導医	檜崎晃史, 村尾知良
日本病態栄養学会	専門医	檜崎晃史
	指導医	檜崎晃史
	NST コーディネーター	檜崎晃史
日本臨床栄養代謝栄養学会	NST 専門療法士認定教育施設指導医	檜崎晃史
	認定医	檜崎晃史
日本体育協会	公認スポーツドクター	檜崎晃史
日本プライマリ・ケア連合学会	認定医	村尾知良
	指導医	村尾知良
日本糖尿病・妊娠学会	評議員	檜崎晃史
日本小児思春期糖尿病学会	評議員	檜崎晃史

脳神経内科

日本内科学会	認定医	下田 学, 竹内裕彦, 種田健太
	総合内科専門医	下田 学
	指導医	下田 学
日本神経学会	専門医	下田 学
	指導医	下田 学
日本脳卒中学会	専門医	下田 学
鳥取県	身体障害者指定医	下田 学

腎臓内科

日本内科学会	認定医	宗村千潮, 寶意翔太郎
	内科専門医	小川将也
	総合内科専門医	宗村千潮
	指導医	宗村千潮, 寶意翔太郎
日本消化器病学会	専門医	寶意翔太郎
日本腎臓学会	専門医	宗村千潮, 寶意翔太郎, 小川将也
	指導医	宗村千潮, 寶意翔太郎
日本透析医学会	専門医	宗村千潮, 寶意翔太郎, 小川将也
日本ヘリコバクター学会	H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医	寶意翔太郎

リウマチ・膠原病内科

日本内科学会	認定医	長谷川泰之
	総合内科専門医	長谷川泰之
	指導医	長谷川泰之
日本呼吸器学会	専門医	長谷川泰之
日本アレルギー学会	専門医	長谷川泰之
日本リウマチ学会	専門医	長谷川泰之
	指導医	長谷川泰之

精神科

日本精神神経学会	専門医	松尾諒一
	指導医	松尾諒一
日本認知症学会	専門医	松尾諒一
	指導医	松尾諒一
厚生労働省	精神保健指定医	松尾諒一
	精神腫瘍学基本教育指導者	松尾諒一
日本医師会	認定産業医	松尾諒一

心臓内科

日本内科学会	認定医	吉田泰之, 那須博司, 菅 敏光, 小倉一能, 赤坂俊彦
	総合内科専門医	那須博司, 小倉一能
	指導医	吉田泰之, 那須博司, 菅 敏光, 小倉一能
日本循環器学会	認定循環器専門医	那須博司, 菅 敏光, 小倉一能, 赤坂俊彦
日本心血管インターベンション治療学会	名誉専門医	吉田泰之
	専門医	那須博司

	指導医	那須博司
	認定医	赤坂俊彦
日本不整脈学会	認定専門医	菅 敏光, 小倉一能
日本糖尿病学会	糖尿病専門医	吉田泰之
日本救急医学会	専門医	樋口 遼
日本経カテーテル心臓弁症治療学会	TAVR 実施医 (SAPIEN)	赤坂俊彦
日本周術期経食道心エコー認定委員会 (JB-POT)	認定医	赤坂俊彦
日本心不全学会	心不全緩和ケアトレーニング修了	赤坂俊彦

小児科

日本小児科学会	専門医	宇都宮靖, 田村明子, 戸川雅美, 堂本友恒, 倉信裕樹, 萩元慎二, 前垣義弘, 宇山 祥, 熊崎健介
	指導医	宇都宮靖, 田村明子, 堂本友恒, 倉信裕樹, 萩本慎二
日本腎臓学会	腎臓専門医	宇都宮靖
日本周産期・新生児医学会	専門医	田村明子, 堂本友恒, 萩本慎二
	指導医	田村明子, 堂本友恒
日本小児循環器学会	専門医	倉信裕樹
日本小児神経学会	小児神経専門医	戸川雅美, 前垣義弘
日本小児救急医学会	SI メンバー	倉信裕樹
日本小児感染症学会	認定医	宇都宮靖
ICD 協議会	インフェクションコントロールドクター	宇都宮靖

外科

日本外科学会	指導医	廣岡保明, 建部 茂, 尾崎知博
	外科専門医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 多田陽一郎, 内仲 英
	外科認定医	建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博
日本消化器外科学会	指導医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博
	消化器外科専門医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 多田陽一郎, 内仲 英
	消化器がん外科治療認定医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 多田陽一郎, 内仲 英
日本内視鏡外科学会	技術認定 (消化器・一般外科)	建部 茂 (食道), 蘆田啓吾 (大腸), 尾崎知博 (胃)
	ロボット支援手術認定プロクター	建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博

日本食道学会	食道外科専門医	建部 茂
日本食道学会 日本がん治療認定医機構	食道科認定医	建部 茂, 尾崎知博
	暫定教育医	建部 茂
日本がん治療認定医機構 日本肝胆膵外科学会	がん治療認定医	建部 茂
	高度技術指導医	廣岡保明
日本臨床栄養代謝学会	認定医	尾崎知博
ダビンチサージカルシステム	認定	建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博
日本乳癌学会	専門医	廣岡保明
日本腹部救急医学会	認定医	多田陽一郎
日本臨床細胞学会	専門医	廣岡保明
日本ロボット外科学会	専門医	尾崎知博
日本救急医学会	専門医	和田大和
日本航空医療学会	認定指導医	和田大和
鳥取大学医学部	臨床教授	建部 茂
鳥取大学医学部附属病院	連携診療教授	建部 茂
日本集中治療医学会	専門医	和田大和

小児外科

日本外科学会	専門医	黒田征加
日本小児外科学会	専門医	黒田征加
日本周産期・新生児医学会	認定外科医	黒田征加

整形外科

日本整形外科学会	専門医	村田雅明, 村岡智也, 村上大気, 山下尚寛
	認定脊椎脊髄病医	村田雅明
	認定スポーツ医	村岡智也, 村上大気, 山下尚寛
日本脊椎脊髄病学会	脊椎脊髄外科指導医	村田雅明
	専門医	村田雅明
日本スポーツ協会	公認スポーツドクター	村岡智也
日本医師会	認定産業医	村田雅明

形成外科

日本形成外科学会・日本専門医機構	形成外科専門医	坂井重信
日本形成外科学会	専門医	坂井 香
	形成外科学会領域指導医	坂井重信
	皮膚腫瘍外科分野指導医	坂井重信

	小児形成外科分野指導医	坂井重信, 坂井 香
	再建・マイクロサージャリー分野指導医	坂井重信
	頭蓋顎顔面外科分野指導医	坂井重信
	創傷外科分野指導医	坂井重信
	熱傷分野指導医	坂井重信
日本創傷外科学会	専門医	坂井重信, 坂井 香
日本頭頸顎顔面外科学会	専門医	坂井重信
日本熱傷学会	熱傷専門医	坂井重信, 坂井 香
American Burn Association (アメリカ熱傷学会)	ABLS Provider Course 認定	坂井重信, 坂井 香
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	坂井 香, 坂井重信
日本褥瘡学会	認定褥瘡医	坂井重信
日本医師会	認定健康スポーツ医	坂井重信
日本体育協会	公認スポーツドクター	坂井重信

脳神経外科

日本脳神経外科学会	専門医	田淵貞治, 吉岡裕樹
	指導医	田淵貞治, 吉岡裕樹
日本脳卒中の外科学会	技術指導医	田淵貞治
日本脳卒中学会	専門医	田淵貞治, 吉岡裕樹
	指導医	田淵貞治
日本神経内視鏡学会	技術認定医	田淵貞治, 吉岡裕樹
日本脳神経血管内治療学会	専門医	吉岡裕樹
日本小児脳神経外科学会	認定医	吉岡裕樹
日本医師会	認定産業医	田淵貞治
鳥取大学医学部	臨床教授	田淵貞治

心臓血管外科／呼吸器・乳腺・内分泌外科

日本外科学会	指導医	前田啓之, 宮坂成人
	外科専門医	前田啓之, 宮坂成人, 藤原義和, 城所嘉輝, 門永太一, 仁井陸冬, 池田陽祐, 野坂祐仁, 森本健一
	認定医	前田啓之, 宮坂成人
日本胸部外科学会	認定医	前田啓之, 宮坂成人
日本心臓血管外科専門医認定機構	心臓血管外科専門医	宮坂成人, 藤原義和, 仁井陸冬, 池田陽祐
	修練指導者	宮坂成人
日本呼吸器外科専門医認定機構	呼吸器外科専門医	前田啓之, 城所嘉輝

日本呼吸器外科学会	胸腔鏡安全技術認定医	前田啓之
	ロボット支援手術プロクター	城所嘉輝
ダヴィンチサージカルシステム	認定	前田啓之, 城所嘉輝
日本内分泌外科学会	内分泌外科専門医	前田啓之
日本甲状腺学会	日本甲状腺学会専門医	前田啓之
日本乳癌学会	認定医	前田啓之, 門永太一
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	前田啓之, 城所嘉輝, 門永太一
日本ステントグラフト実施基準管理委員会	腹部ステントグラフト実施医	宮坂成人, 藤原義和, 仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一
	指導医	宮坂成人, 藤原義和, 仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一
	胸部ステントグラフト実施医	藤原義和, 仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一
	指導医	藤原義和, 仁井陸冬
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医師	前田啓之, 宮坂成人, 城所嘉輝, 門永太一, 野坂祐仁
厚生労働省	麻酔科標榜許可医	前田啓之
日本医療情報学会	医療情報技師	前田啓之
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医	仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一
	指導医	仁井陸冬, 池田陽祐
日本血管外科学会	血管内治療認定区	仁井陸冬
鳥取大学医学部	臨床教授	前田啓之, 宮坂成人
	臨床准教授	城所嘉輝, 門永太一
鳥取大学医学部附属病院	連携診療准教授	前田啓之, 宮坂成人
日本医療リンパドレナージ協会	リンパ浮腫医師対象理論講習会終了	門永太一

泌尿器科

日本泌尿器科学会	指導医	村岡邦康
	専門医	川本文弥
日本専門医機構	泌尿器科専門医	村岡邦康
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	泌尿器腹腔鏡技術認定医	村岡邦康
	ロボット支援手術認定プロクター（膀胱・前立腺）	村岡邦康
日本内視鏡外科学会	技術認定医	村岡邦康
日本排尿機能学会	専門医	川本文弥
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士	村岡邦康
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	村岡邦康

日本内科学会	認定内科医	川本文弥
日本医師会	認定産業医	川本文弥
ICD 協議会	認定 ICD	川本文弥
ダビンチサージカルシステム	認定	村岡邦康, 川本文弥
厚生労働省	臨床修練指導医	村岡邦康, 川本文弥
鳥取県	難病指定医 (泌尿器科)	村岡邦康
鳥取大学医学部	附属病院連携診療教授	村岡邦康

産婦人科

日本産科婦人科学会	専門医	高橋弘幸, 竹中泰子, 荒田和也, 野中道子, 上垣 崇, 山根恵美子, 圓井孝志
	指導医	高橋弘幸, 竹中泰子, 野中道子, 上垣 崇, 山根恵美子
	生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入可能な臨床遺伝専門医	高橋弘幸
日本専門医機構	産婦人科専門医	高橋弘幸, 竹中泰子, 上垣 崇
日本産婦人科医会	母と子のメンタルヘルスケア研修会 (入門編) 指導者	高橋弘幸
日本周産期・新生児医学会	周産期専門医 (母胎・胎児)	高橋弘幸
	周産期 (母体・胎児) 指導医	高橋弘幸
	新生児蘇生 A コース 終了	高橋弘幸, 竹中泰子, 山根恵美子, 圓井孝志
	新生児蘇生 A コース・インストラクター	高橋弘幸
日本超音波医学会	超音波専門医	高橋弘幸
	超音波指導医	高橋弘幸
日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会	臨床遺伝専門医 (生殖医療・遺伝性腫瘍)	高橋弘幸
日本婦人科腫瘍学会	婦人科腫瘍専門医	野中道子
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	野中道子
日本臨床細胞学会	細胞診専門医	野中道子
ダビンチサージカルシステム	認定医	野中道子
	助手	上垣 崇
日本生殖医学会	生殖医療専門医	上垣 崇
厚生労働省	臨床修練指導医	高橋弘幸, 竹中泰子, 荒田和也, 野中道子, 上垣 崇
厚生労働省医政局	災害時小児・周産期リエゾン	高橋弘幸, 竹中泰子, 上垣 崇, 山根恵美子

鳥取県	災害医療コーディネーター	高橋弘幸
	DMAT 隊員	高橋弘幸
	周産期医療協議会委員	高橋弘幸
鳥取県医師会	母体保護法指定医師	高橋弘幸, 竹中泰子, 荒田和也, 上垣 崇
	母体保護法指定医師審査委員会委員	高橋弘幸
	難病指定医	高橋弘幸
鳥取県健康対策協議会	母子保健対策専門委員	高橋弘幸
	子宮がん対策専門委員	高橋弘幸
日本母体救命システム普及協議会	ベーシックコース・インストラクター	高橋弘幸, 荒田和也, 上垣 崇
日本女性医学学会	女性ヘルスケア暫定指導医	高橋弘幸
日本母性内科学会	母性内科診療プロバイダー	高橋弘幸
日本女性心身医学	更年期指導士	高橋弘幸
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士(基礎編)	高橋弘幸
日本医療メディエーター協会	医療メディエーター B	高橋弘幸
日本医療安全学会	高度医療安全推進者	高橋弘幸
	ピアサポーター	高橋弘幸
国際用リスクマネジメント学会	医療安全コンサルタント	高橋弘幸
	医療安全トレーナー	高橋弘幸
	医療安全認定情報処理管理者	高橋弘幸
医療安全心理・行動学会	医療安全心理・行動コンサルタント	高橋弘幸
日本医療安全推進学会	医療安全高度専門家	高橋弘幸
上尾中央医科グループ協議会	医療安全管理者養成研修修了	高橋弘幸
日本自治体病院協議会	医療安全管理者養成研修修了	高橋弘幸
日本病院会	医療安全管理者養成研修修了	高橋弘幸
日本医療機能評価機構	JQ 安全管理者養成研修修了	高橋弘幸
医療の質・安全学会	医療安全管理者養成研修修了	高橋弘幸
日本臨床医学リスクマネジメント学会	医療安全管理者養成研修修了	高橋弘幸
全日本病院協会	医療安全管理者養成研修修了	高橋弘幸

地域医療振興協会	医療安全管理者養成研修 修了	高橋弘幸
	医療対話推進者養成研修 修了	高橋弘幸
	部署リスクマネージャー 養成研修修了	高橋弘幸
日本医師会	医療安全推進者養成研修 修了	高橋弘幸
医療安全全国共同行動	医療安全管理者養成研修 修了	高橋弘幸
医療事故・紛争対応研究会	医療事故・紛争対応人材 養成研修修了	高橋弘幸
セコム医療システム株式 会社	医療安全管理者養成研修 修了	高橋弘幸
鳥取大学医学部附属病院	臨床教授	高橋弘幸
	連携診療教授	高橋弘幸

眼科

日本眼科学会	専門医	伊藤久太郎, 谷口行恵
	PDT 認定医	伊藤久太郎
	視覚障害者用補装具適合 判定医	谷口行恵

耳鼻いんこう科

日本耳鼻咽喉科学会	専門医	松田英賢
-----------	-----	------

放射線科

日本医学放射線学会	放射線診断専門医	松末英司, 井上千恵, 松本顕佑
	放射線治療専門医	中村一彦, 谷野朋彦
	指導医	中村一彦, 松末英司, 井上千恵, 谷野朋彦, 松本顕佑
日本核医学会	核医学専門医	松末英司, 井上千恵
	PET 核医学認定医	松末英司, 井上千恵
日本 IVR 学会	専門医	中村一彦, 松本顕佑
日本がん治療認定医機構	認定医	中村一彦
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	中村一彦
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム 隊員	中村一彦
鳥取大学医学部	臨床教授	中村一彦
鳥取大学医学部附属病院	連携診療教授	中村一彦

麻酔科

日本麻酔科学会	認定医	坂本成司, 三浦さおり, 乗本志考
	専門医	矢部成基
	指導医	坂本成司, 高橋俊作
日本専門医機構	麻酔科専門医	坂本成司, 高橋俊作
厚生労働省	麻酔科標榜許可医	坂本成司, 高橋俊作, 矢部成基, 森下央崇, 圓道 豪, 三浦さおり, 乗本志考
ICD 制度協議会	インフェクションコントロールドクター	坂本成司
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医師	三浦さおり
日本医学シミュレーション学会	CVC インストラクター	坂本成司, 高橋俊作, 三浦さおり
鳥取大学医学部附属病院	連携診療教授	坂本成司

救急集中治療科・小児集中治療科

日本救急医学会	救急科専門医	小林誠人, 後藤 保, 松村圭祐
	指導医	小林誠人
日本集中治療医学会	専門医	小林誠人, 後藤 保
日本外科学会	指導医・専門医	小林誠人
日本外傷学会	外傷専門医	小林誠人
麻酔科標榜医		小林誠人, 松村圭祐
日本航空医療学会	認定指導者	小林誠人, 後藤 保, 松村圭祐
日本腹部救急医学会	腹部救急教育医	小林誠人
日本急性血液浄化学会	認定指導者	小林誠人
日本 Acute Care Surgery 学会	認定外科医	小林誠人
社会医学系専門医協会	指導医・専門医	小林誠人
厚生労働省	統括 DMAT	小林誠人
	DMAT 隊員	小林誠人, 後藤 保
	臨床研修指導医	小林誠人, 後藤 保
日本小児科学会	専門医・認定指導医	後藤 保
アメリカ心臓協会	PALS インストラクター	後藤 保
PFCCS	インストラクター	後藤 保

災害科

日本救急医学会	救急科専門医	岡田 稔
日本高気圧環境・潜水医学会	高気圧医学専門医	岡田 稔
厚生労働省	統括 DMAT 隊員	岡田 稔

	日本 DMAT インストラクター	岡田 稔
米国災害支援財団 (NDLSF)	NDLS インストラクター	岡田 稔
鳥取県	鳥取県災害医療コーディネーター	岡田 稔

病理診断科

日本病理学会	専門医	徳安祐輔, 小田晋輔
	指導医	徳安祐輔, 小田晋輔
日本臨床細胞学会	細胞診専門医	徳安祐輔, 小田晋輔
	指導医	徳安祐輔
厚生労働省	死体解剖資格認定	徳安祐輔, 小田晋輔

歯科口腔外科

日本口腔外科学会	指導医	木谷憲典
	専門医	木谷憲典
	認定医	大淵幸与
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医 (歯科口腔外科) 指導医	木谷憲典
厚生労働省	歯科医師臨床研修歯科指導医	木谷憲典, 大淵幸与

看護局

文部科学省・厚生労働省	保健師	田中幸世, 福田真弓, 波多野暁子, 酒本みすぎ, 中西敦子, 岡田奈津子, 堀江亜紀, 安場光穂, 牧野由佳里, 田中有美, 野々口由恵, 漆原加奈子, 岸田幸子, 岩崎絵美子, 南條夏実, 朽本浩紀, 国本麻未, 高田直美, 竹中逸美, 北野雅子, 中野未奈子, 奥田景子, 川元真穂, 山田恵美, 中居順子, 中尾純子, 米上慶子, 伊井野彩子, 米村祐希, 房安直美, 岡本里美, 山根英里子, 花原有花, 沖 智佳, 安田裕美, 上田愛美, 石川真代, 田中理沙, 齊鹿麻美, 小林雅子, 山部貴之, 寛 知佳, 清水寛子, 稲田友紀, 小谷仁美, 光浪 緑, 小川真紗子, 宮脇寛子, 吉田 源, 福岡柚佳, 山本つぐみ, 村上 恵, 迫田可奈, 小原翔子, 森本美怜, 見田知咲, 徳田 瞳, 羽田早希, 中川さつき, 栃本聡子, 足立茉里奈, 谷尾優果, 岸田 綾, 吉村千春, 山本加奈, 森田萌美, 中島知香, 徳安麻弥, 多田あかり, 浜田早耶, 小倉聖子, 荻原知子, 大川実佑, 前田真亜子, 中原早貴, 田中千紘, 土井史絵, 北浦將希, 濱本美穂, 高垣磨緒, 澤 鈴彩
	養護教諭一級	富山綾子, 牧野由佳里, 安場光穂, 川元真穂, 田中 瞳, 寺田絵美

	養護教諭二級	高田直美, 中野未奈子, 竹中逸美, 安田裕美, 小倉聖子, 齊鹿麻美, 山部貴之, 山本若奈, 前田真亜子
	看護教員	萩原陽子, 浦林多恵, 山田大智, 西村民江
	臨地実習指導者	戸田委津枝, 西山あゆみ, 安達直美, 川本照子, 谷口香澄, 杉岡憲子, 福谷真理子, 藤原しのぶ, 坂口純子, 宮崎美也子, 波多野暁子, 吉田一恵, 中西敦子, 細田奈緒美, 高田敦子, 宮本真理子, 北山ヒトミ, 井手野悦代, 坂西紀子, 岡田奈津子, 松島みゆき, 岸野亜希, 池田美智代, 谷口幸恵, 近藤三知代, 山下博子, 林 恵子, 政田智子, 神谷理栄
	介護支援専門員	森下さゆり, 入江眞里, 谷口幸恵
	精神保健福祉士	沖 智佳
厚生労働省	特定行為研修修了者	糸谷恵子, 山根太地, 前田貴斗, 下山英津子, 木下敦子, 河崎 司, 山根有佳子, 中原和恵, 福田浩也, 青木遥奈
	救急救命士	竹田純平
日本看護協会	がん看護専門看護師	池田 牧
	母性看護専門看護師	伊井野彩子
	感染管理認定看護師	北野雅子, 朽本浩紀, 入江眞里
	救急看護認定看護師	堀江亜紀, 山根太地
	不妊症看護認定看護師	橋本万住子
	皮膚・排泄ケア認定看護師	磯江真美, 下山英津子
	クリティカルケア認定看護師	糸谷恵子, 前田貴斗
	新生児集中ケア認定看護師	玉木絢子, 川元真穂
	緩和ケア認定看護師	濱野由紀子
	がん化学療法看護認定看護師	安達直美, 中山優樹
	がん薬物療法認定看護師	木下敦子
	乳がん看護認定看護師	樹下和江
	手術看護認定看護師	安場光穂
	がん放射線療法看護認定看護師	橋本瑞樹
	認知症看護認定看護師	岩成克浩
	認定看護管理者	西山あゆみ, 田中幸世
日本 ACLS 協会	BLS インストラクター	倉信侑子
	BLS リードインストラクター	清水寛子
	PALS インストラクター	清水寛子
	PALS リードインストラクター	倉信侑子

	PEARS リードインストラクター	清水寛子
	PEARS コースディレクター	倉信侑子
京都グリーンケア協会	グリーンサポーター	倉信侑子
鳥取県・労働基準局	受胎調節実施指導員	田中幸世, 小坂明子, 野々口由恵, 竹中逸美, 橋本万住子, 堀江亜紀, 高田直美, 山根英里子, 中野未奈子, 黒田紗希, 安田裕美, 米村祐希, 羽村奈津美, 濱津志帆, 福田愛莉, 笥知佳, 浦林未奈子, 長野 峰, 伊藤朝香, 福田香美, 福田桃未, 松田美穂, 福岡柚佳, 岩藤 彩, 井上美加, 足立茉里奈, 浦上 成, 田中未侑, 表 有香, 坂本しおり, 中原早貴, 森本梨湖, 安達美里, 大川実佑, 前田真亜子
	第1種衛生管理者	田中幸世, 安場光穂, 牧野由佳里, 川元真穂, 齊鹿麻美
	鳥取県糖尿病療養指導士	内海美子
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	坂西紀子, 川部華栄, 石破宏樹, 原田さつき, 安藤あゆみ, 中倉 結
三学会合同	呼吸療法認定士	糸谷恵子, 藤原瑞穂, 川北恵美, 古林弘美, 田中 瞳, 河崎 司, 前田貴斗, 青木遥奈, 井手野悦代, 福谷真理子, 安部和泉, 清水寛子, 平田香菜枝, 国本誠二, 村口豊育, 沖 智佳, 谷口温香, 村上 恵, 山下博子, 山部貴之, 中村恵美
臨床心臓病学教育研究会	循環器専門ナース	糸谷恵子, 中村恵美
日本 IVR 学会	IVR 認定看護師	岸本佳代子, 福田浩也, 森 琴美, 田中真理子, 岩崎絵美子, 清水寛子, 岡田京子, 太田典次, 奥田景子, 新田梨絵, 井川千紗都
日本臨床救急学会	入院時重症患者対応メディエーター要請研修修了者	吉田一恵
日本不妊カウンセリング学会	体外受精コーディネーター	橋本万住子
	不妊カウンセラー	竹中逸美
日本思春期学会	性教育認定講師	橋本万住子
日本生殖心理学会	生殖医療相談士	竹中逸美
四病院団体協議会	感染制御スタッフ	谷口由美, 佐々木美幸, 朽本浩紀, 西村美紀, 北野雅子, 野々口由恵
日本腎臓財団	透析療法従事職員	田中千登世, 小谷仁美
透析療法合同専門委員会	透析技術認定士	藪下直由美
日本内視鏡学会	第一種内視鏡検査技師	山本美幸, 三村祐里, 河村祐子
日本運動器看護学会	学会認定運動器看護師	福田純子
日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー	福田純子
日本医療メディエーター協会	医療メディエーターB	城戸康代

全国自治体病院協議会	医療安全管理者養成研修 修了者	田中幸世, 西山あゆみ, 川本照子, 山本加奈, 衣笠久美子, 杉岡憲子, 田中千登世, 吉田一恵, 波多野暁子
セコム医療システム株式 会社	医療安全管理者養成研修 修了者	牧野由佳里, 成瀬絵梨, 坂口純子, 福田真弓, 岩城妃代子, 中西敦子, 坂西紀子, 安部和泉, 宮本真理子, 松島みゆき, 北山ヒトミ, 平田香菜枝, 松田香織, 池田美智代, 林 恵子
JASPEN	NST 専門療法士	森 琴美, 河崎 司, 岩成克浩, 上田愛美
日本麻酔科学会	周術期管理チーム看護師	山田純子, 吉田和博
日本不整脈心電学会	心電図検定 2 級	糸谷恵子, 齊鹿麻美, 沖 智佳, 中瀬あゆみ
	植込み型心臓デバイス認 定士	林 恵子, 齊鹿麻美, 小林由季, 藤木奈央
	心電図検定 3 級	谷本朱美, 林 恵子
東京商工会議所	福祉住環境コーディネー ター 2 級	谷口幸恵
日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーデ ィネーター	樹下和江
日本造血・免疫細胞療法 学会	同種造血細胞移植後フォ ローアップ (LTFU)	中村悦子, 石田卓也, 木下敦子, 井上真希
	造血細胞移植コーデ ィネーター (HCTC)	中村悦子, 谷本朱美
一般社団法人医療安全全 国共同行動	医療安全管理者養成研修 修了者	浦林多恵
日本ボイラ協会	特定第一種圧力容器取扱 い作業主任者	吉田和博
日本作業環境測定協会	特定化学物質作業主任者	濱田靖枝
一般財団法人ライフ・プ ランニングセンター	リンパ浮腫 (座学)	樹下和江, 竹中逸美
一般社団法人 ICAA 認 定	リンパ浮腫専門医療従事 者資格	稲田友紀
日本静脈学会	弾性ストッキング・圧迫 療法コンダクター	宮坂しおり
大阪商工会議所	メンタルヘルス・マネジ メントⅡ種 (ラインケア コース)	谷口幸恵

中央放射線室

日本診療放射線技師会	臨床実習指導教員	小山 亮, 木原康行, 岸本淳一
	医療画像情報精度管理士	小山 亮, 木村晃史, 木原康行
	放射線管理士	木原康行, 前田哲生
	放射線機器管理士	木原康行, 前田哲生
	Ai 認定診療放射線技師	木村晃史
	画像等手術支援認定診療 放射線技師	田中康隆, 中野健児

日本血管撮影・インターベンション 専門診療放射線技師認定機構	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	木村晃史
日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影認定技師	川上美穂, 木村由紀子, 永尾結奈, 森谷恵理, 宮川未梨
肺がん CT 健診認定機構	肺がん CT 検定認定技師	田中康隆
日本 X 線 CT 専門技師認定機構	X 線 CT 認定技師	上山忠政, 小山翔太郎, 前田哲生, 田中康隆, 岸本淳一, 石賀慎基
	X 線 CT 専門技師	岸本淳一
日本磁気共鳴専門技術者認定機構	日本磁気共鳴専門技術者	小山 亮, 岡本悠太郎
日本救急撮影技師認定機構	救急撮影認定技師	小山 亮, 上山忠政, 田中康隆
医学物理士認定機構	医学物理士	小谷 怜, 森谷恵理
放射線治療品質管理機構	放射線治療品質管理士	木原康行
日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線治療専門放射線技師	木原康行
日本医療情報学会	医療情報技師	赤島啓介
厚生労働省	医療安全管理者	赤島啓介
原子力規制委員会	第一種放射線取扱主任者	澤 和宏, 小谷 怜, 秋山裕之, 福本 晃, 上山忠政, 赤島啓介, 永尾結奈, 前田哲生
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム隊員	小谷 怜
厚生労働省	鳥取 DMAT 隊員	小谷 怜
鳥取県	鳥取 DMAT 隊員	小谷 怜, 福本 晃

中央検査室

日本臨床細胞学会	細胞検査士	前田和俊, 川上智史, 谷上和弥
国際細胞学会	国際細胞検査士	前田和俊, 川上智史
日本超音波医学会	超音波検査士 (消化器)	五百川尚宏, 山本寿恵, 谷口千里, 谷口 悟, 田中恭子, 前田沙紀
	超音波検査士 (循環器)	谷口 悟, 田中恭子, 前田沙紀, 宮脇可奈子
	超音波検査士 (体表)	谷口千里
	超音波検査士 (血管)	前田沙紀
	超音波検査士 (健診)	山本寿恵
日本血管外科学会・日本脈管学会・日本静脈学会・日本動脈硬化学会 4学会構成血管診療技師認定機構	血管診療技師	山本寿恵
日本輸血細胞治療学会	認定輸血検査技師	佐々木崇雄
	I & A 視察員	佐々木崇雄

認定血液検査技師制度協議会	認定血液検査技師	加藤千春, 岡本昌典, 川上智史, 前田麻衣子
日本臨床検査医学会・同学院	二級臨床検査士(血液学)	加藤千春, 前田麻衣子, 岡本昌典
	二級臨床検査士(微生物学)	田中さゆり
	二級臨床検査士(循環生理学)	甲斐遙華
	二級臨床検査士(神経生理学)	林 智子
	緊急臨床検査士	前田和俊, 川上智史, 甲斐遙華, 福田水貴
認定臨床微生物検査技師制度協議会	認定臨床微生物検査技師	田中さゆり
感染制御認定臨床微生物検査技師制度協議会	感染制御認定臨床微生物検査技師	田中さゆり
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	谷口千里
日本臨床衛生検査技師会	認定病理検査技師	前田和俊
	認定認知症領域検査技師	前田和俊
日本サイトメトリー技術者認定協議会	認定サイトメトリー技術者	加藤千春
日本脳神経超音波検査学会	脳神経超音波検査士	谷口 悟
日本不整脈心電学会	植込み型心臓不整脈デバイス認定士	小柴 鷹
	心電図検定2級	西尾英哲
	心電図検定3級	柴田美空
日本心血管インターベンション治療学会	心血管インターベンション技師	甲斐遙華
日本卵子学会	生殖補助医療胚培養士	遠藤英弥, 堀 智恵
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	前田和俊
	鳥取 DMAT 隊員	前田和俊
	臨地実習指導者	加藤千春
鳥取県労働基準協会	特定化学物質作業主任者	前田和俊, 川上智史, 谷上和弥
	有機溶剤作業責任者	前田和俊, 谷上和弥, 福田水貴
日本バイオ技術教育学会	中級バイオ技術者	小柴 鷹
セコム医療システム株式会社	医療安全管理者養成研修修了者	前田沙紀

臨床工学室

日本臨床工学技士会	不整脈治療専門臨床工学技士	小谷友喜
	認定医療機器関連臨床工学技士	秋本恵理子

	認定血液浄化関連臨床工学技士	瀧田 渚
日本体外循環技術医学会	体外循環技術認定士	高野 岳, 小谷友喜, 中村憲明, 山本和毅
日本心血管インターベンション治療学会	心血管インターベンション技師	小谷友喜, 太田 裕, 安部貴大
三学会合同呼吸療法士認定委員会	呼吸療法認定士	高野 岳, 小谷友喜, 中村憲明, 藤原一樹
透析治療法合同専門委員会	透析技術認定士	瀧田 渚, 秋本恵理子
日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	臨床高気圧酸素治療装置操作技師	高野 岳
日本不整脈心電学会	植込み型心臓デバイス認定士	小谷友喜, 太田 裕, 山根香菜美
3学会合同呼吸療法士認定委員会	呼吸療法認定士	高野 岳, 小谷友喜, 中村憲明, 藤原一樹
透析療法合同委員会	透析技術認定士	秋本恵理子, 瀧田 渚
日本高気圧酸素・潜水医学会	臨床高気圧酸素治療装置操作技師	高野 岳
厚生労働省	臨床検査技師	中村憲明
	日本 DMAT	高野 岳, 瀧田 渚
鳥取県	鳥取 DMAT	小谷友喜, 中村憲明

リハビリテーション室

三学会合同呼吸療法士認定委員会	呼吸療法認定士	吉田匡江, 竹田賢彦, 川淵敬太, 下田健朗, 山崎晃生, 若 達人, 松山直樹, 井上雅人, 山根健太, 出口静香, 北村智之, 井上響平
日本リハビリテーション心臓学会	心臓リハビリテーション指導士	上村桂一, 酒井里佳, 松岡洋祐
日本糖尿病療養指導者認定機構	日本糖尿病療養指導士	酒井里佳
東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級	上村桂一
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	若 達人, 山根健太
	介護支援専門員	若 達人, 松山直樹
	臨床実習指導者講習会終了	間庭奨大, 太田 徹, 北村智之, 山根健太, 松岡洋祐, 下田建朗
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム隊員	若 達人, 山根健太
日本理学療法士協会	がんのリハビリテーション研修会修了	井田真一, 坂尻信幸, 小林美穂子, 井上綾子, 衣笠真理恵, 安部奈津未, 尾崎麻衣子, 山崎晃生, 松田章弘, 松山直樹, 太田 徹, 奥矢恵理子, 北村智之, 瀧由紀子, 山根健太, 若 達人
日本摂食嚥下リハビリテーション学会	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	松田章弘, 石上明日美, 安部奈津未

LSVT Global	LSVT LOUD	松田章弘, 石上明日美
日本 ACLS	PEARS プロバイダーコース認定	竹田賢彦, 井上雅人, 中村 博, 桧山耕平, 吉田匡江
日本褥瘡学会	在宅褥瘡予防・管理師	上村桂一
日本言語聴覚士協会	認定言語聴覚士	松田章弘
日本離床研究会	プレアドバイザー	竹田賢彦
日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士	川淵敬太, 間庭奨大, 山根健太
日本静脈経腸栄養学会	NST 専門療法士	石上明日美
日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー	山根健太
東京都健康長寿医療センター研究所	認知症総合アセスメント DASC-21 認定評価者	坂尻信幸, 井上綾子
日本作業療法士協会	AMPS 認定評価者	坂尻信幸, 衣笠真理恵, 中村 博

栄養管理室

日本病態栄養学会	病態栄養専門管理栄養士	田中敬子
	病態栄養認定管理栄養士	宮崎典子
日本臨床栄養代謝学会	NST 専門療法士	岸本和恵, 岡本英津子
	臨床栄養代謝専門療法士 (がん専門療法士)	岸本和恵
日本摂食嚥下リハビリ学会	認定士	岸本和恵
日本糖尿病療養指導士認定機構	指導士	田中敬子, 宮崎典子
鳥取県糖尿病療養指導士認定機構	指導士	田中絢奈
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	宮崎典子
鳥取県	鳥取 DMAT 隊員	宮崎典子
日本病院調理師協会	病院調理師認定	金谷幸子, 奥田博江, 松本理香, 阿部沙織, 徳安美香, 村田菜緒子

医療情報管理室

日本病院会	診療情報管理士	國政清子, 山根頼博, 平野香織, 漆原可奈子
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	山根頼博
国立がん研究センター	院内がん登録実務中級者	齋尾智恵里, 田中美帆

薬剤部

日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	渡邊俊介
	日病薬病院薬学認定薬剤師	浅井 剛, 湯口朋子, 大江和子, 浦尾千恵, 渡邊俊介, 武田康嗣, 田中玖実, 水崎美咲
日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	義仲真理
	漢方薬・生薬認定薬剤師	小谷佐知子

	認定実務実習指導薬剤師	小松珠美, 浅井 剛, 小谷佐知子
	研修認定薬剤師	近藤ちひろ
薬学教育協議会	認定実務実習指導薬剤師	小松珠美, 浅井 剛, 小谷佐知子, 義仲真理
日本臨床栄養代謝学会	NST 専門療法士	近藤ちひろ, 秋山恵理
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	浅井 剛, 浦尾千恵
日本褥瘡学会	認定褥瘡薬剤師	小谷佐知子
日本女性薬剤師会	認定薬剤師	小谷佐知子
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	渡邊俊介
日本災害医学会	Ph DLS プロバイダー	渡邊俊介, 濱崎拓哉
鳥取県	鳥取 DMAT 隊員	秋山恵里, 渡邊俊介, 濱崎拓哉
日本アンチ・ドーピング機構	スポーツファーマシスト	浦尾千恵
日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法履修薬剤師	浅井 剛
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム	渡邊俊介
日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー	濱崎拓哉

歯科外来

日本口腔ケア学会	認定資格 4 級	岸本真紀
鳥取県糖尿病療養指導士認定機構	鳥取県糖尿病療養指導士	岸本真紀
日本歯科衛生士会	災害歯科保健歯科衛生士 コーディネーター	岸本真紀
	認定 糖尿病予防指導	岸本真紀

眼科外来

鳥取県糖尿病療養指導士認定機構	鳥取県糖尿病療養指導士	秋山千夏
-----------------	-------------	------

患者支援センター

厚生労働省	社会福祉士	森次奈穂美, 礒井和也, 岡本彩織, 竹森絵美, 奥田聖子, 谷口未来, 米本 葵, 水谷美月
	精神保健福祉士	森次奈穂美, 礒井和也, 岡本彩織, 竹森絵美, 米本 葵
	介護支援専門員	森次奈穂美, 礒井和也, 竹森絵美
東京商工会議所	住環境コーディネーター	礒井和也 (2 級), 岡本彩織 (3 級)
鳥取県	保育士	谷口未来
福岡県	ホームヘルパー	岡本彩織 (2 級)
鳥取県 労働基準局	一種衛生管理者	礒井和也

日本臨床救急学会	入院時重症患者対応 メディエーター	杉岡憲子, 森次奈穂美
鳥取県	医療的ケア児 コーディネーター	湯谷千里, 谷口温香
3学会合同呼吸療法認定 士認定 委員会	呼吸療法認定士	谷口温香
社会福祉法人聴力障害者 情報文化センター	手話通訳士	田中満寿江

がん相談支援センター

日本看護協会	がん看護専門看護師	池田 牧
	緩和ケア認定看護師	濱野由紀子
厚生労働省	保健師	池田 牧
文部科学省・厚生労働省	公認心理士	藤松義人
日本臨床心理士資格認定 協会	臨床心理士	藤松義人
国立がん研究センター	認定がん専門相談員	池田 牧
労働者健康安全機構	両立支援コーディネーター	池田 牧, 濱野由紀子, 藤松義人
日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーディネーター	池田 牧, 藤松義人

臨床心理士室

文部科学省・厚生労働省	公認心理師	藤松義人, 圓山由香, 中尾 恵
日本臨床心理士資格認定 協会	臨床心理士	藤松義人, 圓山由香
国立がん研究センター	認定がん専門相談員	藤松義人
労働者健康安全機構	両立支援コーディネーター	藤松義人
日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーディネーター	藤松義人
日本臨床救急医学会	入院時重症患者対応メ ディエーター養成講習修 了	圓山由香
厚生労働省	介護福祉士	中尾 恵
公益財団法人 健康体力 づくり事業財団	健康運動指導士	中尾 恵

学会評議員ほか（2023年4月～2024年3月）

呼吸器内科

日本呼吸器学会	代議員	杉本勇二
---------	-----	------

心臓内科

日本心血管インターベンション治療学会	代議員	那須博司
--------------------	-----	------

消化器内科

日本内科学会	中国支部評議員	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
日本消化器病学会	中国支部評議員	柳谷淳志
日本消化器内視鏡学会	学術評議員	柳谷淳志
	中国支部評議員	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範

血液内科

日本内科学会	評議員	小村裕美
	中国支部評議員	田中孝幸
日本血液学会	中国四国地方会評議員	田中孝幸

糖尿病・内分泌・代謝内科

日本病態栄養学会	評議員	檜崎晃史
日本フットケア・足病医学会	評議員	檜崎晃史

腎臓内科

日本内科学会	中国支部評議員	宗村千潮
中国腎不全研究会	理事	宗村千潮

外科

日本胃癌学会	代議員	尾崎知博
日本臨床細胞学会	理事	廣岡保明
日本臨床外科学会	評議員	廣岡保明
Microwave Surgery 研究会	評議員	廣岡保明
日本乳癌学会中四国地方会	理事（世話人）	廣岡保明
中国四国臨床臓器移植研究会	理事	廣岡保明
日本臨床検査医学会中四国支部	理事	廣岡保明

日本超音波医学会中国地方会	運営委員	廣岡保明
鳥取県臨床細胞学会	会長	廣岡保明
鳥取県健康対策協議会	理事	廣岡保明
鳥取大学	名誉教授	廣岡保明
日本内視鏡外科学会	評議員	尾崎知博
日本臨床栄養代謝学会	学術評議員	尾崎知博
日本肝胆膵外科学会	評議員	廣岡保明
山陰医療人材育成支援機構	理事長	廣岡保明

小児外科

日本小児外科学会中四国地方会	世話人	黒田征加
日本小児外科学会近畿地方会	評議員	黒田征加

整形外科

日本脊椎インストゥルメンテーション学会	評議員	村田雅明
中部日本整形外科災害外科学会	評議員	村田雅明

形成外科

日本形成外科学会中国・四国地方会	名誉会員	坂井重信
------------------	------	------

脳神経外科

日本脳循環代謝学会	評議員	田淵貞治
-----------	-----	------

心臓血管外科／呼吸器・乳腺・内分泌外科

日本肺癌学会中国・四国支部	評議員	前田啓之
---------------	-----	------

泌尿器科

日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	代議員	村岡邦康
日本排尿機能学会	代議員	村岡邦康, 川本文弥
西日本泌尿器科学会	評議員	村岡邦康

産婦人科

医療安全心理・行動学会	評議員	高橋弘幸
日本移植医学会	代議員	上垣 崇

小児科

日本小児科学会	代議員	宇都宮靖
中国四国小児腎臓病学会	幹事	宇都宮靖

放射線科

日本 IVR 学会	代議員	中村一彦
-----------	-----	------

救急集中治療科・小児集中治療科

日本救急医学会	評議員	小林誠人
日本集中治療医学会	評議員	小林誠人
日本外傷学会	評議員	小林誠人
日本航空医療学会	理事・評議員	小林誠人
日本腹部救急医学会	評議員	小林誠人
日本急性血液浄化学会	評議員	小林誠人
日本 shock 学会	評議員	小林誠人
日本災害医学会	評議員	小林誠人
日本臨床救急医学会	評議員	小林誠人
日本 Acute Care Surgery 学会	評議員	小林誠人
日本病院前救急診療医学会	評議員	小林誠人
日本救急医学会	近畿地方会幹事	小林誠人
日本集中治療医学会	近畿地方会評議員	小林誠人
日本熱傷学会	近畿地方会世話人	小林誠人
但馬地域メディカルコントロール協議会	顧問	小林誠人
鳥取県メディカルコントロール協議会	委員	小林誠人
京都大学医学部	臨床准教授	小林誠人

災害科

日本救急医学会 中国四国地方会	評議員	岡田 稔
-----------------	-----	------

歯科・口腔外科

日本口腔ケア学会	評議員	木谷憲典
日本口腔外科学会	代議員	木谷憲典

中央検査室

心血管インターベンション治療学会	中国四国コメディカル委員	澤田健一郎
------------------	--------------	-------

栄養管理室

日本臨床栄養代謝学会	学術評議員	岸本和恵
------------	-------	------

がん相談支援センター

鳥取ニューマン理論・実践学習会	代表	池田 牧
-----------------	----	------

臨床心理士室

公益財団法人 健康体力づくり事業財団	会計理事	中尾 恵
--------------------	------	------

臨床研修医名簿
コメント

令和5年度<2年次>



福田 真由
FUKUTA Mayu

鳥取の医療に貢献できる
よう一生懸命研修させて
頂きます。



鈴木 隆将
SUZUKI Takamasa

日々充実した研修生活が
できています。これから
も頑張ります。



大坪 直人
OOTSUBO Naoto

最近ミズノのアイアンを
買いました。90切りでき
るよう、日々精進させて
いただいております。



岡田 哲毅
OKADA Satoki

3年目以降に向けて2年
目の研修も頑張ります。



塩崎 紀子
SHIOZAKI Noriko

鳥取の医療に貢献できる
よう精一杯頑張ります。



大濱 志之
OOHAMA Muneyuki

お忙しい中、様々な先生
方にご指導していただき
ました。今後も頑張ります。



谷田 貴
TANIDA Atsuki

研修医2年目の谷田 貴
です。



野口 陽平
NOGUCHI Youhei

これまで学んだ事を糧に
2年目も引き続き研修に
励みたいと思います。



山根 尚真
YAMANE Syouma

1に筋トレ, 2に筋トレ,
3. 4に筋トレ, 5に筋トレ.



牧田 大瑚
MAKITA Daigo

研修2年目となりました。すでに様々なことを県中で経験できていますが、今年度もより進んだ事柄を経験し成長できればと思います。



三田奈津実
SANDA Natsumi

研修期間が残り1年を切りました。来年には指導医側になっているのかと思うといささか不安ではありますが、今できることをひとつひとつ積み上げていきます。



古川 雅大
FURUKAWA Masahiro

少しでも成長できるよう、真摯に精進していきたいと思います。

令和6年度<1年次>



加納 成優
KANOU Seiyu

わからないことばかりで
ご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、ご指導よろしく願います。



清水 創太
SHIMIZU Souta

初めてのことばかりなので、何事も体当たりで頑張ります。



宇奈手咲子
UNATE Sakiko

至らぬ所も多いですが、精いっぱい頑張りますので宜しくお願い致します。



二子石 想
FUTAGOISHI Sou

二年間一生懸命頑張ります。



秋吉 真衣
AKIYOSHI Mai

一生懸命頑張ります。



八尾 健瑠
YAO Takeru

これから2年間、元気に
一生懸命がんばります。



北尾見優希
KITAO Miyuki

精一杯頑張りますので、
よろしく願いいたします。



小畠 樹
KOBATAKE Itsuki

医師として最高のスタート
を切れるよう頑張ります！



中 耕平
NAKA Kouhei

明るく元気に頑張ります！



西村 綾華
NISHIMURA Ayaka

二年間一生懸命頑張ります。
よろしく願いします。



井上 貴稀
INOUE Takaki

ご迷惑をおかけするかもしれ
ませんが、二年間よろしく
お願いいたします。

業 績 目 録

(2023年1月～12月)

誌上発表論文等，研究業績目録

緩和ケア内科

<講演会・講義・研修会>

1. E-learning の復習・質問療養場所の選択と地域連携
浦川 賢
令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2023. 11
2. がん疼痛の評価と治療
浦川 賢
令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2023. 11
3. 全人的苦痛に対する緩和ケア
浦川 賢
令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2023. 11
4. 療養場所の選択と地域連携
浦川 賢
令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2023. 11
5. Advance Care Planning (ACP) ～ ACP ってなに？なぜ ACP ? ～
浦川 賢
令和 5 年度緩和ケア病棟研修会. 鳥取市, 2023. 12

呼吸器内科

<誌上発表>

1. Clinicogenomic Features and Targetable Mutations in NSCLCs Harboring BRAF Non-V600E Mutations: A Multi-Institutional Genomic Screening Study (LC-SCRUM-Asia).
Sakai T, Matsumoto S, Ueda Y, Shibata Y, Ikeda T, Nakamura A, Kodani M, Ohashi K, Furuya N, Izumi H, Nosaki K, Umemura S, Zenke Y, Udagawa H, Sugiyama E, Yoh K, Goto K.
J Thorac Oncol. 18 : 1538-1549. 2023

<学会地方会・研究会発表等>

1. ネモリズマブ投与開始直後に器質化肺炎を発症した高齢アトピー性皮膚炎の一例
鈴木隆将
第 69 回日本呼吸器学会中四国地方会. 高松市, 2023. 7
2. エクリン汗孔癌の多発肺転移に RET 融合遺伝子陽性肺癌が合併した一例
仲田達弥
第 69 回日本呼吸器学会中四国地方会. 高松市, 2023. 7
3. 結核性胸膜炎として治療歴のある胸膜サルコイドーシスの 1 例
野口健太郎
第 69 回日本呼吸器学会中四国地方会. 高松市, 2023. 7

<講演会・講義・研修会>

1. 乳癌腹膜播種再発として遺伝子パネル検査を施行し、原発性腹膜癌に診断が変更となった
BRCA1 変異陽性症例
上田康仁
第 2 回山陰がんゲノム研究会. 出雲市, 2023. 5
2. 石綿による健康障害とその予防処置
杉本勇二
石綿作業主任者技能講習. 鳥取市, 2023. 7
3. サルコイドーシスの症状と治療について
杉本勇二
鳥取市難病研修会. 鳥取市, 2023. 9
4. 肺癌と COPD について
上田康仁
八頭町健康講座. 鳥取県八頭郡八頭町, 2023. 10

消化器内科

<学会・研究会発表>

1. 手術となった胃体部後壁 II c 病変
柳谷淳志
胃癌症例検討会. 鳥取市, 2023. 2
2. 成人女性にみられた毛髪胃石の 1 例
大坪直人, 濱本 航, 三鴨豪志, 岡田智之, 岩本 拓, 岡本敏明, 前田和範, 柳谷淳志,
田中 究
第 131 回日本消化器内視鏡学会中国史部例会. 松江市, 2023. 11

<講演・講義・研修会>

1. 当院で PRRT を開始した膵神経内分泌腫瘍の 1 症例
濱本 航, 三鴨豪志, 岡田智之, 岩本 拓, 岡本敏明, 前田和範, 柳谷淳志, 田中 究,
中村一彦
神経内分泌腫瘍 Web 講演会 in 鳥取. 米子市, 2023. 9

<学会・研究会の座長>

1. 座長
田中 究
鳥取県東部慢性便秘症 WEB セミナー. 鳥取市, 2023. 5
2. 特別講演座長
田中 究
第 585 回鳥取県東部医師会胃疾患研究会. 鳥取市, 2023. 7
3. ディスカッション 座長

田中 究

CD Conference in 鳥取. 鳥取市, 2023. 9

4. 司会

田中 究

第 510 回山陰消化器研究会. 米子市, 2023. 11

5. 中国支部例会 専攻医奨励賞 食道, 胃セッション 司会

柳谷淳志

第 120 回日本消化器病学会中国支部例会. 松江市, 2023. 11

心臓内科

<誌上发表>

1. これからの老衰死を考える

吉田泰之

鳥取県東部医師会報. 466 : 1, 2023

2. Joy ! しろうさぎ通信「10 年間の振り返り, 理想の二刀流を目指して」

高見亜衣子

鳥取県医師会報. 822 : 59, 2023

<研究会・学会発表>

1. 抗プロラクチン療法にて良好な転帰を辿った周産期心筋症の 1 例

利川太昌, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 小倉一能, 那須博司, 吉田泰之

第 122 回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 松山市, 2023. 6

2. 当院における特発性冠動脈解離症例の検討

樋口 遼, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 高見亜衣子, 吉田泰之

第 122 回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 松山市, 2023. 6

3. 冠動脈解離の遠位部 reentry 作成を試みた際に冠動脈穿孔をきたした一例

那須博司, 井上直也, 高見亜衣子, 樋口 遼, 赤坂俊彦, 小倉一能

TOPIC2023. 東京都, 2023. 7

4. 冠動脈穿孔のカバースtent留置に ST-01 が有効であった一例

井上直也, 那須博司, 樋口 遼, 赤坂俊彦, 吉田泰之

TOPIC2023. 東京都, 2023. 7

5. 当院で経験した中性脂肪蓄積心筋血管症の 1 例

樋口 遼, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 高見亜衣子, 吉田泰之

第 6 回中性脂肪学会学術集会. Web, 2023. 7

6. A successful case with an additional stent deployment for longitudinal deformation stent after unintentional wire extraction and unsuccessful rewiring

赤坂俊彦, 高見亜衣子, 樋口 遼, 小倉一能, 那須博司, 吉田泰之

第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 福岡市, 2023. 8

7. A case of difficult IABP insertion during emergency PCI after Y-graft replacement.

- 井上直也, 那須博司, 樋口 遼, 赤坂俊彦, 吉田泰之
第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 福岡市, 2023. 8
8. 冠動脈解離の遠位部 reentry 作成を試みた際に冠動脈穿孔をきたした一例
高見亜衣子, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 井上直也, 吉田泰之
第 29 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会. 岡山市, 2023. 9
9. 右冠動脈の亜急性心筋梗塞の 3 例
井上直也, 那須博司, 樋口 遼, 赤坂俊彦, 吉田泰之
第 29 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会. 岡山市, 2023. 9
10. Jailed Balloon Technique により冠動脈解離を引き起こした 1 例
樋口 遼, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 高見亜衣子, 吉田泰之
第 29 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会. 岡山市, 2023. 9
11. クライオアブレーションの durability について考えさせられた発作性心房細動の一例
高見亜衣子, 小倉一能, 那須博司, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 吉田泰之
Ablation expert seminar in SANIN. 米子市, 2023. 9
12. 壊疽性膿皮症既往の房室ブロック患者に対してステロイド導入することでペースメーカー留置を施行できた 1 例
野口健太郎, 赤坂俊彦, 高見亜衣子, 樋口 遼, 小倉一能, 那須博司, 吉田泰之
第 123 回日本循環器学会中国地方会. 米子市, 2023. 11
13. 心臓手術歴のない左房前壁心房頻拍に対して左上肺静脈でのクライオアブレーションで停止を得た一例
高見亜衣子, 小倉一能, 那須博司, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 吉田泰之
カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023. 福岡市, 2023. 11
14. Distal Protection Device がステントに絡んだ一例
井上直也, 那須博司, 樋口 遼, 赤坂俊彦, 吉田泰之
中国地区冠動脈造影研究会. 広島市, 2023. 11

<講演・講義・研修会>

1. 最新のリード抜去について
小倉一能
鳥取 Lead management Conference. 米子市, 2023. 3
2. 当院における心不全治療の取り組み
赤坂俊彦
心不全診療 UP TO DATE in 鳥取. Web, 2023. 3
3. 治療に難渋した Recent MI の 1 例
赤坂俊彦
KANEKA Complex Conference in Hiroshima 春. Web, 2023. 4
4. これから到来する心不全パンデミックにどう立ち向かっていくか
赤坂俊彦
地域で診る循環器疾患. Web, 2023. 4
5. 循環器症候学Ⅱ

吉田泰之

鳥取大学医学部講義. 米子市, 2023. 5

6. 虚血専門医から見た ARNI の可能性

赤坂俊彦

ARNI Expert Meeting in 鳥取. Web, 2023. 5

7. 多職種介入により良好な経過をたどる慢性心不全の方 ～本患者さんから、当院ハートチームが学んだこと～

赤坂俊彦

いなばハートフルネット第6回多職種心不全カンファレンス. Web, 2023. 6

8. 糖尿病の大血管障害

吉田泰之

鳥取県糖尿病療養指導士試験受験資格取得のための講習会. 鳥取市, 2023. 10

9. 心不全ステージ AB の治療戦略～ ARNI の可能性～

赤坂俊彦

鳥取県東部医師会学術講演会. Web, 2023. 10

10. 先輩医師（10年目）から後輩へひと言

高見亜衣子

鳥取県若手医師交流会. 米子市, 2023. 10

11. AF 早期発見の重要性について

高見亜衣子

第21回循環器疾患に関する医療連携の会. 鳥取市, 2023. 10

12. 当院で経験した分岐部病変の1例

赤坂俊彦

MCCP ～Meeting focusing on comprehensive PCI techniques for young Physicians～.

Web, 2023. 11

13. 当院における ACS 前後の脂質管理

赤坂俊彦

心血管疾患を考える会. Web, 2023. 11

<学会・研究会の主催・座長>

1. 第4回 Collaboration S

赤坂俊彦

Web, 2023. 3

2. 座長

赤坂俊彦

鳥取県東部医師会学術講演会. Web, 2023. 3

3. Ultra Conference Ryusei Night (春)

赤坂俊彦

Web, 2023. 3

4. Cryoballoon Ablation Best Practice

- 小倉一能
Web, 2023. 3
5. Abbott ラウンドテーブルディスカッション
小倉一能
Web, 2023. 3
6. Cryo Web Discussion
小倉一能
Web, 2023. 3
7. MCCP ～ Meeting focusing on comprehensive PCI techniques for young Physicians ～
赤坂俊彦
Web, 2023. 5
8. Abbott ラウンドテーブルディスカッション
小倉一能
Web, 2023. 6
9. 座長
小倉一能
Heart Rhythm Club 2023. 北海道, 2023. 7
10. 座長
赤坂俊彦
第一回鳥取県若手医師会循環器セミナー. Web, 2023. 9
11. More options for AF management
小倉一能
Web, 2023. 10
12. 座長
小倉一能
第 21 回循環器疾患に関する医療連携の会. 鳥取市, 2023. 10
13. Abbott ラウンドテーブルディスカッション
小倉一能
Web, 2023. 11
14. ACS conference
赤坂俊彦
Web, 2023. 11
15. 座長
赤坂俊彦
心不全連携を考える会 in いなば. Web, 2023. 11
16. 座長
小倉一能
第 9 回リードマネジメント研究会. 愛知県, 2023. 12
17. 座長
小倉一能

Cryo Web Discussion ～発作性心房細動， および持続性心房細動に対する Cryo Balloon を用いた有効性と安全性に関する講演会～. Web, 2023. 12

18. 第二回鳥取県若手医師会循環器セミナー

赤坂俊彦

Web, 2023. 12

血液内科

<誌上発表>

1. Clinical features of acquired erythrocytosis: Low levels of serum erythropoietin in a subset of non-neoplastic erythrocytosis patients
Mori Y, Araki M, Morishita S, Imai M, Eda Hiro Y, Ito M, Ochiai T, Shirane S, Hashimoto Y, Yasuda H, Ando J, Ando M, Komatsu N
Cancer Med. 12:1079–1089. 2023
2. Non-driver gene mutation analysis in a large cohort of polycythemia vera and essential thrombocythemia
Morishita S, Hashimoto Y, Furuya C, Eda Hiro Y, Ochiai T, Shirane S, Inano T, Yasuda H, Ando M, Araki M, Komatsu N
Eur J Haematol. 110:131–136. 2023
3. Reevaluation of cardiovascular risk factors for thrombotic events in 580 Japanese patients with essential thrombocythemia
Furuya C, Hashimoto Y, Morishita S, Inano T, Ochiai T, Shirane S, Eda Hiro Y, Araki M, Ando M, Komatsu N
J Thromb Thrombolysis. 55:263–272. 2023
4. Clinical characteristics of Japanese patients with myelodysplastic/myeloproliferative neoplasm with ring sideroblasts and thrombocytosis
Eda Hiro Y, Ochiai T, Hashimoto Y, Morishita S, Shirane S, Inano T, Furuya C, Koike M, Noguchi M, Usuki K, Shiratsuchi M, Nakajima K, Ohtsuka E, Tanaka H, Kawata E, Nakamae M, Ueda Y, Aota Y, Sugita Y, Ohara S, Yamasaki S, Asagoe K, Yoshida S, Yamanouchi J, Suzuki S, Kondo T, Kanisawa Y, Toyama K, Omura H, Mizuchi D, Sakamaki S, Ando M, Komatsu N
Int J Hematol. 118:47–53. 2023
5. MPL gene mutation is a possible risk factor for thrombosis in patients with essential thrombocythemia in Japan
Furuya C, Hashimoto Y, Morishita S, Inano T, Ochiai T, Shirane S, Eda Hiro Y, Araki M, Ando M, Komatsu N
Hematology. 28:2229131. 2023
6. 骨髄増殖性腫瘍について 本態性血小板血症（ET）Q&A
橋本由徳
骨髄増殖性腫瘍患者・家族会 MPN-JAPAN, 10, 2023
7. 目で見る（図解） 本態性血小板血症 カウンセリング・ブック

インフォームドコンセント サポートライブラリ^⑩

橋本由徳 監修

ノバルティスファーマ株式会社. 東京都, 2023

8. DLBCL の治療後に発症した Myeloid sarcoma の 1 例
川上智史, 田中孝幸, 加藤千春, 橋本佳子, 中本 周
日本検査血液学会雑誌 24 : 276-383, 2023

<学会発表>

1. What can we do for the patients treated in sterile room? Examination of their interviews
Takuya Ishida, Akemi Tanimoto, Yuki Nakayama, Mayumi Nagasuna, Takayuki Tanaka
第 42 回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 名古屋市, 2023. 2
2. MPLW515L 変異を新たに獲得した骨髄異形成症候群の 1 例
神谷 礼, 橋本由徳, 小村裕美, 田中孝幸
第 62 回日本血液学会中国四国地方会. 愛媛市, 2023. 3 Web
3. Chronic kidney disease is a poor prognostic factor in patients with essential thrombocythemia
Yoshinori Hashimoto, Hiromi Omura, Takayuki Tanaka
第 85 回日本血液学会学術集会 Posrer Session. 東京都, 2023. 10
4. Pernicious anemia presenting with microangiopathic hemolytic anemia.
Sho Okamoto, Takayuki Tanaka, Yoshinori Hashimoto, Hiromi Omura
第 85 回日本血液学会学術集会 Posrer Session. 東京都, 2023. 10
5. Consider the future of management of patients with essential thrombocythemia
Yoshinori Hashimoto
第 85 回日本血液学会学術集会コーポレートセミナー. 東京都, 2023. 10
6. Impact of non-driver gene mutations on thrombohemorrhagic events in ET patients in Japan
Chiho Furuya, Soji Morishita, Yoshinori Hashimoto, Tadaaki Inano, Tomonori Ochiai, Shuichi Shirane,
Yoko Edahiro, Marito Araki, Miki Ando, Norio Komatsu
第 85 回日本血液学会学術集会 Oral Session. 東京都, 2023. 10
7. Relevance of the treatment and thrombotic/bleeding events in PV and ET; subanalysis of JSH-
MPN-R18
Eiko Ohya, Keiki Nagaharu, Yuka Sugimoto, Kohshi Ohishi, Isao Tawara, Tomoki Ito, Akihiko Gotoh,
Mika Nakamae, Fumihiko Kimura, Michiaki Koike, Keita Kirito, Hideho Wada, Kensuke Usuki, Takayuki
Tanaka, Takehiko Mori, Satoshi Wakita, Toshiki Saito I, Akiko Kada, Akiko Saito M, Kazuya Shimoda,
Toshiro Kurokawa, Akihiro Tomita, Yoko Edahiro, Yoshinori Hashimoto, Hitoshi Kiyoi, Koichi Akashi,
Itaru Matsumura, Katsuto Takenaka, Norio Komatsu
第 85 回日本血液学会学術集会 Oral Session. 東京都, 2023. 10
8. The identification of predictive parameters for thrombotic events in MPN; sub-analysis of MPN-R18
Keiki Nagaharu, Eiko Ohya, Yuka Sugimoto, Kohshi Ohishi, Isao Tawara, Tomoki Ito, Akihiko Gotoh,
Mika Nakamae, Fumihiko Kimura, Michiaki Koike, Keita Kirito, Hideho Wada, Kensuke Usuki, Takayuki
Tanaka, Takehiko Mori, Satoshi Wakita, Toshiki Saito I, Akiko Kada, Akiko Saito M, Kazuya Shimoda,
Toshiro Kurokawa, Akihiro Tomita, Yoko Edahiro, Yoshinori Hashimoto, Hitoshi Kiyoi, Koichi Akashi,

Itaru Matsumura, Katsuto Takenaka, Norio Komatsu

第 85 回日本血液学会学術集会 Oral Session. 東京都, 2023. 10

9. Clinical features in AYA PV and ET in Japan; secondary data analysis of JSH-MPN-R18

Yuka Sugimoto, Keiki Nagaharu, Eiko Ohya, Kohshi Ohishi, Isao Tawara, Tomoki Ito, Akihiko Gotoh, Mika Nakamae, Fumihiko Kimura, Michiaki Koike, Keita Kirito, Hideho Wada, Kensuke Usuki, Takayuki Tanaka, Takehiko Mori, Satoshi Wakita, Toshiki Saito I, Akiko Kada, Akiko Saito M, Kazuya Shimoda, Toshiro Kurokawa, Akihiro Tomita, Yoko Edahiro, Yoshinori Hashimoto, Hitoshi Kiyoi, Koichi Akashi, Itaru Matsumura, Katsuto Takenaka, Norio Komatsu

第 85 回日本血液学会学術集会 Oral Session. 東京都, 2023. 10

10. Thrombotic and bleeding events in Japanese Adolescent and Young Adult PV and ET – Results from Japanese multicenter retrospective study

Yuka Sugimoto, Keiki Nagaharu, Eiko Ohya, Kohshi Ohishi, Isao Tawara, Tomoki Ito, Akihiko Gotoh, Mika Nakamae, Fumihiko Kimura, Michiaki Koike, Keita Kirito, Hideho Wada, Kensuke Usuki, Takayuki Tanaka, Takehiko Mori, Satoshi Wakita, Toshiki Saito I, Akiko Kada, Akiko Saito M, Kazuya Shimoda, Toshiro Kurokawa, Akihiro Tomita, Yoko Edahiro, Yoshinori Hashimoto, Hitoshi Kiyoi, Koichi Akashi, Itaru Matsumura, Katsuto Takenaka, Norio Komatsu

65th ASH annual meeting. Poster Session. San Diego, California, 2023.12

<講演会・講義・研修会>

1. 山陰両県における血友病診療の取り組み（座長）

田中孝幸

山陰地区血友病セミナー. 松江市・鳥取市 Web, 2023. 1

2. 多発性骨髄腫治療における CQ

橋本由徳

腫瘍免疫微小環境から紐解く Immune-based Therapy の価値. 鳥取市 Web, 2023. 3

3. 市販後調査を活用したアナグレリド治療の実際

橋本由徳

ET camp 2023 in June. 鳥取市 Web, 2023. 6

4. 血液内科医としてのこれまでの歩み（Closing remarks）

田中孝幸

山陰血液疾患フォーラム. 米子市・鳥取市 Web, 2023. 6

5. 高齢者の ET 治療において注意すべき点とは？

橋本由徳

Meet The Expert for ET 2023. 鳥取市 Web, 2023. 7

6. CML 診療の進化（Closing remarks）

田中孝幸

山陰 CML Web Seminar. 松江市・鳥取市 Web, 2023. 7

7. 血管アクセスデバイスとしての末梢挿入式中心静脈カテーテルの位置づけ

橋本由徳

末梢挿入式中心静脈カテーテル（PICC）勉強会. 鳥取市, 2023. 8

8. 実臨床における VEN + AZA 治療の使い方 (座長)
田中孝幸
AML Web Seminar in 鳥取. 鳥取市 Web, 2023. 8
9. 本態性血小板血症患者における血栓症リスクの新たなエビデンス
橋本由徳
Hematology Seminar. 鳥取市 Web, 2023. 9
10. 日常臨床に潜む骨髄増殖性腫瘍
橋本由徳
Japan MPN Day 2023. 鳥取市 Web, 2023. 9
11. 特徴的な臨床症状を呈した PV 患者の 1 例
橋本由徳
PV/CML X conference in Fukuoka city. 鳥取市 Web, 2023. 9
12. 30 分でわかる本態性血小板血症
橋本由徳
ET&VWD WEB Seminar. 鳥取市 Web, 2023. 10
13. PV 患者における症状管理の重要性
橋本由徳
Novartis Hematology Web Seminar. 鳥取市 Web, 2023. 10
14. 骨髄増殖性腫瘍と皮膚症状
橋本由徳
Novartis Web Seminar ~かゆみの奥に潜むものとは~. 鳥取市 Web, 2023. 11
15. JAK2V617F 変異アレルバーデン値を測定する意義
橋本由徳
西日本ベスレミ® 発売記念講演会. 大阪市, 2023. 11
16. 造血幹細胞移植の現状
橋本由徳
厚生労働省 造血幹細胞移植医療体制整備事業 造血幹細胞移植推進地域拠点病院
2023 年 血液疾患と幹細胞移植に関する勉強会. 鳥取市, 2023. 11
17. 血液データから読み解く血液疾患
小村裕美
厚生労働省 造血幹細胞移植医療体制整備事業 造血幹細胞移植推進地域拠点病院
2023 年 血液疾患と幹細胞移植に関する勉強会. 鳥取市, 2023. 11
18. 血栓症低リスク患者における治療戦略
橋本由徳
MPN Seminar in 中国四国. 鳥取市 Web, 2023. 11
19. PV 患者における症状管理の重要性と治療戦略
橋本由徳
Nara Hematology web Seminar. 奈良市, 2023. 11
20. 濾胞性リンパ腫に対する治療戦略 (Opening remarks)
田中孝幸

Follicular Lymphoma Expert Seminar. 松江市・鳥取市 Web, 2022. 11

21. 急性骨髄性白血病のこれからの治療戦略を考える（座長）

田中孝幸

血液腫瘍を考える会 in 鳥取. 米子市・鳥取市 Web, 2022. 11

22. 実臨床における真性多血症の治療戦略

橋本由徳

真性多血症 Web セミナー. 大阪市, 2023. 12

糖尿病・内分泌・代謝内科

<学会発表>

1. 就職のハードル今昔

檜崎晃史

第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, シンポジウム 20 青少年における糖尿病診療の課題を探る. 鹿児島市, 2023. 5

2. SNS による糖尿病社会啓発活動に関する一考察

檜崎晃史

第 10 回日本糖尿病協会年次学術集会. 京都市, 2023. 7

<学会地方会・研究会発表等>

1. 内科医の立場から考える糖尿病の小児思春期トランジション

村尾和良

日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会. 松江市, 2023. 10

2. インスリノーマが疑われたものの確定診断に至らなかった一例

高橋雅子, 檜崎晃史, 村尾和良

日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会. 松江市, 2023. 10

3. 超高齢 2 型糖尿病患者の脂質管理に関する一考察

檜崎晃史, 高橋雅子, 村尾和良, 赤坂俊彦, 那須博司, 吉田泰之

日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会. 松江市, 2023. 10

<講演会・講義・研修会>

1. 糖尿病について学ぼう

村尾和良

八頭町ぐんぐん！血糖改善教室. 八頭町, 2023. 1

2. 肝不全・腎不全の時の栄養管理

檜崎晃史

第 13 回 NST 臨床実地研修修了式. 鳥取市, 2023. 3

3. 糖尿病にまつわるスティグマとアドボカシーについて考える

檜崎晃史

令和 4 年度島根県糖尿病療養指導士第 2 回研修会. 出雲市, 2023. 4

4. 経口 GLP-1 受容体作動薬を上手く使うには～当院での使用経験を踏まえて～
村尾和良
鳥取県東部糖尿病セミナー. 鳥取市, 2023. 6
5. 知ってるようで知られていない糖尿病の話
檜崎晃史
ライオンズクラブ国際協会 336-B 地区 7R・8R, 糖尿病予防講演会鳥取会場. 鳥取市, 2023. 6
6. 在宅栄養指導の重要性と現状
檜崎晃史
鳥取県東部在宅栄養ケアサポートミーティング. 鳥取市, 2023. 7
7. 知ってるようで意外と知らない糖尿病のよもやま話
檜崎晃史
兵庫県ヤングの会定例会. 養父市, 2023. 8
8. 糖尿病屋が糖尿病治療薬を処方するとき頭の中では何を考えているのでしょうか？
檜崎晃史
第 29 回鳥取県東中部糖尿病セミナー. 鳥取市, 2023. 9
9. 糖尿病と足とは深い仲
檜崎晃史
第 4 回 SHIGA フットケア連携セミナー. Web, 2023. 10
10. 「糖尿病」にまつわるえとせとら
檜崎晃史
鳥取県東部圏域糖尿病予防研修会. 鳥取市, 2023. 10
11. 糖尿病のその他の合併症
村尾和良
令和 5 年度鳥取県糖尿病療養指導士受験資格取得のための講習会. 鳥取市, 2023. 10
12. ライフステージ別の療養指導（妊娠・出産）
檜崎晃史
令和 5 年度鳥取県糖尿病療養指導士受験資格取得のための講習会. 倉吉市, 2023. 11
13. 2 型糖尿病治療における SGLT2 阻害薬の使い分け
村尾和良
Kowa Web カンファレンス. 鳥取市, 2023. 11
13. 糖尿病であることを隠さずにいられる社会づくりを目指して
高橋雅子
鳥取県東部医師会糖尿病予防講演会. 鳥取市, 2023. 11
14. 糖尿病の合併症・糖尿病の併発症
檜崎晃史
第 6 回鳥取県糖尿病看護研究会. Web, 2023. 11

脳神経内科

<学会・研究会発表>

1. 脳梗塞が関連したと考えられた片側舞踏運動様不随意運動の一例
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2023. 1
2. 肝細胞癌の脳転移
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2023. 3
3. 抗 MOG 抗体陽性視神経炎の 1 例
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2023. 5
4. 膵インスリノーマが原因と考えられた舞踏運動の 1 例
鳥取県立中央病院脳神経内科 中村知哉, 増田恭隆, 下田 学
鳥取県立中央病院放射線科 松本顕佑
第 113 回日本神経学会中国・四国地方会. 山口市, 2023. 6
5. 抗 MOG 抗体陽性視神経炎の 1 例, 続報
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2023. 9
6. 抗 LRP4 抗体陽性重症筋無力症の 1 例
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2023. 11

<講演会>

1. 鳥取県東部パーキンソン病セミナー
下田 学
鳥取県東部パーキンソン病セミナー. 鳥取市, 2023. 7
2. 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 座長
下田 学
第 45 回難病研修会. 鳥取市, Web. 2023. 10
3. 脳卒中の予防と発症時の対応について
中村知哉
令和 5 年循環器病講演会. 鳥取市 (Web+ 現地ハイブリッド), 2023. 10
4. 脳卒中について～病態と予防を中心に～
下田 学
鳥取県立中央病院市民公開講座 (出前). 鳥取市, 2023. 11
5. 当院脳卒中センターの多職種連携の取り組み
下田 学
循環器病多職種連携従事者研修会. Web, 2023. 11

腎臓内科

<誌上発表>

1. Atypical Anti-Glomerular Basement Membrane Nephritis After the First Dose of the Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 mRNA Vaccine
Hoi S, Ogawa M, Munemura C, Takata T, Isomoto H
Yonago Acta Med. 66 : 300-305, 2023

<学会地方会・研究会発表等>

1. 一般演題 口演 感染関連糸球体疾患 座長
宗村千潮
第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. 岡山市, 2023. 10
2. 術後に自然寛解した S 状結腸癌による二次性微小変化型ネフローゼ症候群の 1 例
野口陽平, 寶意翔太郎, 小川将也, 宗村千潮, 織原純平, 高田知朗, 磯本 一
第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. 岡山市, 2023. 10

<講演会・講義・研修会>

1. 鳥取県東部の CKD 医療連携について～当院の腎臓内科開設 5 年目の現況～
宗村千潮
CKD 医療連携セミナー. Zoom Meeting, 2023. 8
2. 腹膜透析療法の基礎
小川将也
テルモ PD. Web, 鳥取市, 2023. 9
3. 当院における腹膜透析管理の現状
寶意翔太郎
鳥取県腎代替療法セミナー. Web, 2023. 10

リウマチ・膠原病内科

<講演会・講義・研修会>

1. 講演会座長, 代表世話人
長谷川泰之
第 40 回山陰リウマチ性疾患研究会. 松江市, 2023. 8
2. 講演会座長
長谷川泰之
関節リウマチ治療を考える会 in 鳥取. 鳥取市, 2023. 12
3. EGPA の治療と現状
長谷川泰之
EGPA clinical seminar in 鳥取. 鳥取市, 2023. 12

小児科

<誌上発表>

1. 腎膿瘍を合併し、排尿指導で治癒した Hinman-Allen 症候群の 1 例
坂口真弓, 木村昂一郎, 吉野 豪, 萩元慎二, 倉信裕樹, 堂本友恒, 戸川雅美, 田村明子,
宇都宮靖, 圓山由香
日本小児腎臓病学会. 36:33-40, 2023
2. Impact of tracheostomies on the long-term survival of patients with trisomy 13 syndrome
Tamaki S, Iwatani S, Hagimoto S, et al.
Am J Med Genet A. 191 : 2736-2742. 2023
3. Sustained lower bilirubin-binding affinity of albumin in extremely preterm infants.
Hirayama K, Iwatani S, Nakamura H, Hagimoto S, et al.
Pediatr Res. 94 : 1400-1407. 2023

<学会発表>

1. 急性膵炎を合併した先天性胆道拡張症の腹痛に ED チューブ栄養が奏功した一例
倉信裕樹, 黒田征加, 宇山 祥, 坂口真弓, 堂本友恒, 戸川雅美, 田村明子, 宇都宮靖
第 106 回山陰小児科学会. 松江市, 2023. 3
2. 集学的治療により骨折なく下肢関節可動域の改善を認めた Bruck 症候群の一例
黒澤健悟, 山口由起子, 妹尾慎太郎, 藤本正伸, 坂本薫郁, 長谷川俊史, 花木啓一,
難波範行
第 96 回日本内分泌学会学術総会. 名古屋市, 2023. 6
3. 顔貌画像を用いた先天異常症候群診断補助システム (Face2gene) の使用経験
堂本友恒, 田村明子, 木村昂一郎
日本小児科学会鳥取地方会第 76 回例会. 米子市, 2023. 7
4. 熱性痙攣を契機に発見された Gitelman 症候群の男児例
宇山 祥, 矢倉 響, 黒澤健吾, 熊崎健介, 萩元慎二, 倉信裕樹, 堂本友恒, 田村明子,
宇都宮靖, 野津寛大
日本小児科学会鳥取地方会第 76 回例会. 米子市, 2023. 7
5. オクトレオチド持続皮下注射で血糖コントロールをえた先天性高インスリン血症の巨大児の一例
黒澤健悟, 熊崎健介, 宇山 祥, 萩元慎二, 倉信裕樹, 堂本友恒, 戸川雅美, 田村明子,
宇都宮靖, 樋口真司
第 24 回日本内分泌学会中国支部学術総会. 松江市, 2023. 9
6. 機械的咳介助にコンフォートカフ R を用いた高頻度胸壁振動法 (HFCWO) による排痰介助を併
用し無気肺が改善した重症心身障害児の 2 例
戸川雅美, 矢倉 響, 黒澤健吾, 熊崎健介, 宇山 祥, 萩元慎二, 倉信裕樹, 堂本友恒,
田村明子, 宇都宮靖
第 109 回山陰小児科学会. 米子市, 2023. 10
7. 市販感冒薬が原因と考えられた急性間質性腎炎の一例
矢倉 和, 堂本友恒, 矢倉 響, 黒澤健吾, 熊崎健介, 宇山 祥, 萩元慎二, 倉信裕樹,

戸川雅美, 田村明子, 宇都宮靖

第 109 回山陰小児科学会. 米子市, 2023. 10

8. 血栓性微小血管症との鑑別を要した発作性寒冷ヘモグロビン尿症の女児例

宇山 祥, 佐々木崇雄, 矢倉 響, 黒沢健悟, 熊崎健介, 萩元慎二, 倉信裕樹, 堂本友恒,
戸川雅美, 田村明子, 宇都宮靖

第 39 回中国四国小児腎臓病学会. 米子市, 2023. 11

<講演会・講義・研修会>

1. 新生児蘇生法講習会 A- コース

田村明子, 川元真穂

第 75 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2023. 1

2. 新生児蘇生法講習会 A- コース

田村明子, 萩元慎二, 玉木絢子

第 76 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2023. 1

3. 新生児蘇生法講習会 A- コース

田村明子, 玉木絢子

第 77 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2023. 3

4. 当院における FilmArray 呼吸器パネルの検査状況

萩元慎二

鳥取県東部小児科医会第 561 回例会. 鳥取市, 2023. 4

5. West 症候群について

熊崎健介

鳥取県東部小児科医会第 566 回例会. 鳥取市, 2023. 4

6. 新生児蘇生法講習会 S- コース

田村明子, 萩元慎二

第 11 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2023. 7

7. 一般演題 2 (呼吸) 座長

田村明子

第 109 回山陰小児科学会. 米子市, 2023. 10

8. 一般演題循環 1 座長

田村明子

第 67 回日本新生児成育医学会. 横浜市, 2023. 11

心臓血管外科

<学会発表>

1. 高齢者大動脈弁置換術 (SAVR) における出血性合併症を鑑みた術後抗血栓療法

森本健一, 宮坂成人, 坂口祐紀, 藤原義和

第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会. 旭川市, 2023. 3

2. Valsalva 洞動脈瘤拡大により再手術を要し, 原発性血管肉腫の診断に至った 1 例

- 森本健一，宮坂成人，坂口祐紀，藤原義和
第 51 回日本血管外科学会学術総会. 新宿区，2023. 5
3. 非 TAVI 実施施設における高齢者 AS に対する治療戦略
森本健一，宮坂成人，坂口祐紀，藤原義和
第 122 回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 松山市，2023. 6
4. Valsalva 洞原発性血管肉腫の 1 例
森本健一，宮坂成人，坂口祐紀，藤原義和
第 66 回関西胸部外科学会学術集会. 大阪市，2023. 6
5. DOAC 中和剤の術前投与によりヘパリン抵抗性を認めた急性大動脈解離 StanfordA の 1 例
森本健一，宮坂成人，仁井陸冬，藤原義和
日本血管外科学会中国四国地方会第 53 回総会. 広島市，2023. 7
6. 高齢者弁膜症患者における Minimally Invasive Cardiac Surgery (MICS) の術後身体活動に対する影響
森本健一，宮坂成人，仁井陸冬，藤原義和
第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会. 仙台市，2023. 10

呼吸器・乳腺・内分泌外科

<学会発表>

1. 一般病院における呼吸器ロボット支援手術の導入と成績
城所嘉輝，春木朋広，野坂祐仁，前田啓之，中村廣繁
第 15 回日本ロボット外科学会学術集会. 名古屋市，2023. 2
2. 当院における左上縦隔リンパ節郭清の現状と課題
城所嘉輝，野坂祐仁，田中裕子，前田啓之
第 32 回大山呼吸器外科カンファレンス. 米子市，2023. 2
3. Extended sleeve Type C lobectomy を施行した肺門部リンパ節転移を伴う左下葉肺癌の一例
城所嘉輝
基礎から学ぶ肺癌手術セミナー大同窓会 BaCuLu Network ～ Homecoming ～ 2023.
川崎市，2023. 4
4. 術中危機的出血に対する当院での取り組み
野坂祐仁，濱田靖枝，尾田瑞貴，城所嘉輝，前田啓之
第 3 回 JACS-NEXT 中国四国セミナー多職種合同呼吸器外科カンファレンス. 岡山市，2023. 6
5. 5 ヶ月の経過で増大した高異型被包型乳頭癌の一例
門永太一，野坂祐仁，城所嘉輝，田中裕子，前田啓之
第 149 回山陰外科集談会. 米子市，2023. 6
6. 乳癌と膀胱癌の同時性重複癌を認めた HBOC の一例
門永太一，小嶋駿介，宮本竜弥，大島祐貴，松居真司，大野貴志，細谷恵子，窪内康晃，
若原 誠，春木朋広，中村廣繁
第 31 回日本乳癌学会学術総会. 横浜市，2023. 6
7. High grade transformation が疑われた乳がん術後 20 年の晩期再発の一例
城所嘉輝，田中裕子，門永太一，古屋茉優，野坂祐仁，前田啓之，廣岡保明

第 31 回日本乳癌学会学術集会. 横浜市, 2023. 7

8. 当院における RATS 導入と初期成績 -Multi port VATS との比較検討-
城所嘉輝, 春木朋広, 野坂祐仁, 前田啓之, 中村廣繁
第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟市, 2023. 7
9. 術前に奇形腫が疑われた胸腺原発腸型腺癌の一例
城所嘉輝, 宮坂成人, 上田康仁, 松下瑞穂, 野坂祐仁, 前田啓之
第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟市, 2023. 7
10. 術前造影超音波検査と術中インドシアニングリーン腹腔内注入が瘻孔の同定に有用であった横隔膜交通症の一例
野坂祐仁, 城所嘉輝, 田中裕子, 三鴨豪志, 岡本敏明, 前田啓之
第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟市, 2023. 7
11. 各医療機関におけるアレルギー情報の取り扱いについて
前田啓之
第 12 回山陰文化圏医療情報技術研究会. 米子市, 2023. 9
12. アレルギー情報伝達における電子カルテシステムの役割 パネルディスカッション
前田啓之
第 12 回山陰文化圏医療情報技術研究会. 米子市, 2023. 9
13. 若年発症し, 増大傾向を認めた乳腺過誤腫の一例
門永太一, 野坂祐仁, 城所嘉輝, 前田啓之
第 20 回日本乳癌学会中国四国地方会. 広島市, 2023. 9
14. 術前診断困難であった高異型度被包型乳頭癌の一例
門永太一, 野坂祐仁, 城所嘉輝, 田中裕子, 前田啓之
第 85 回日本臨床外科学会総会. 岡山市, 2023. 11
15. 画像ナビゲーション “atrene” を用いたロボット支援下肺区域切除の工夫
城所嘉輝, 野坂祐仁, 門永太一, 前田啓之
第 64 回日本肺癌学会学術集会. 千葉市, 2023. 11
16. 開窓術後, 局所陰圧閉鎖療法 (NPWT) が有用であった気管支断端瘻の一例
野坂祐仁, 城所嘉輝, 門永太一, 前田啓之
第 150 回山陰外科集談会. 出雲市, 2023. 12

<講演会・講義・研修会>

1. 業務の標準化・スリム化をさらに追求しよう
前田啓之
2022 年度クリティカルパス大会. 2023. 2
2. 検診で発見された肺腺癌の 1 例
野坂祐仁, 古屋茉優, 城所嘉輝, 田中裕子, 前田啓之
鳥取県肺癌検診従事者講習会. 米子市, 2023. 2
3. 肺癌の周術期治療～早期肺癌を中心に～
城所嘉輝
肺癌検診従事者講習会 (東部). 鳥取市, 2023. 11

外科

<誌上発表>

1. Impact of frailty and sarcopenia on short-and long-term outcomes in elderly patients undergoing radical gastrectomy for gastric cancer
Osaki T, Tatebe S, Orihara J, Uchinaka E, Ashida K, Hirooka Y, Fujiwara Y
World J Surg .47 : 3250-3261. 2023
2. 新型コロナウイルス感染症の細胞診への影響 日本臨床細胞学会認定施設年報 集計からみた全国調査報告 (原著論文)
佐々木伸也, 若狭朋子, 小山芳徳, 濱川真治, 三宅真司, 荒木邦夫, 池田 聡
長尾俊孝, 廣岡保明
日本細胞誌. 62 : 139-144. 2023

<学会発表>

1. 当科におけるロボット支援下胃切除術の実際
尾崎知博, 建部 茂, 織原淳平, 和田大和, 内仲 英, 多田陽一郎, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 15 回日本ロボット外科学会学術集会. 名古屋市, 2023. 2
2. 胃切除後障害はどのように変容するのか? —術後 1 年にわたる PGSAS 調査より—
尾崎知博, 建部 茂, 織原淳平, 和田大和, 内仲 英, 多田陽一郎, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 95 回日本胃癌学会総会. 札幌市, 2023. 2
3. 胃癌術後麻痺性イレウスにて Mendelson 症候群を引き起こしたが ECMO 導入により救命した一例
尾崎知博, 織原淳平, 和田大和, 内仲 英, 多田陽一郎, 小林誠人, 蘆田啓吾, 建部 茂,
廣岡保明
第 95 回日本胃癌学術総会. 札幌市, 2023. 2
4. 胃癌患者における亜鉛欠乏の臨床的意義
織原淳平, 尾崎知博, 和田大和, 内仲 英, 多田陽一郎, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 95 回日本胃癌学会総会. 札幌市, 2023. 2
5. 救急専門医, 外科専門医取得その先へ
和田大和, 織原淳平, 多田陽一郎, 下原 輔, 宗村佑人, 萩原尊礼, 松村圭祐, 後藤 保,
小林誠人
第 59 回日本腹部救急医学会総会. 沖縄県, 2023. 3
6. Open abdominal management で切除範囲を縮小できた Y 脚裂孔ヘルニア嵌頓の 1 例
多田陽一郎, 織原淳平, 和田大和, 小林誠人
第 59 回日本腹部救急医学会総会. 沖縄県, 2023. 3
7. Bevacizumab 併用化学療法中に魚骨による S 状結腸穿孔をきたした 1 例
織原淳平, 和田大和, 内仲 英, 多田陽一郎, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 小林誠人, 建部 茂
第 59 回日本腹部救急医学会総会. 沖縄県, 2023. 3
8. 若手細胞検査士のキャリアプランとキャリアアップ 地方の公立病院における細胞検査士のキャリアプラン (ワークショップ)
廣岡保明

- 第 64 回日本臨床細胞学会総会. 名古屋市, 2023. 5
9. 胃癌胃切除後 1 ヶ月間で体組成は何か・どのように推移するのか?
尾崎知博, 松永知之, 建部 茂, 内仲 英, 多田陽一郎, 蘆田啓吾, 廣岡保明, 藤原義之
第 38 回日本臨床栄養代謝学会. 神戸市, 2023. 5
10. 胃癌術後補助化学療法が食事に与える影響
木村優花, 尾崎知博, 岸本和恵, 岡本英津子
第 38 回日本臨床栄養代謝学会. 神戸市, 2023. 5
11. ロボット手術を安全に指導するためのチームでの取り組み
尾崎知博, 中村憲明, 高野 岳, 宮本真理子, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 25 回日本医療マネジメント学会学術集会. 横浜市, 2023. 6
12. 地方一般病院で行っているロボット支援胸部食道亜全摘術
建部 茂, 織原淳平, 和田大和, 内仲 英, 多田陽一郎, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 77 回日本食道外科学会学術集会. 大阪市, 2023. 6
13. 胃癌術後 1 ヶ月の体組成変化と当院の術後早期回復に向けた取り組み
尾崎知博, 建部 茂, 織原淳平, 内仲 英, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 60 回日本外科代謝栄養学会. 東京都, 2023. 7
14. 救命救急センター立ち上げによる消化器外科の労働環境改善
多田陽一郎, 織原淳平, 内仲 英, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館市, 2023. 7
15. 小腸穿孔を契機に診断されたクローン病の一例
織原淳平, 建部 茂, 廣岡保明
第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館市, 2023. 7
16. Robot-assisted subtotal thoracic esophagectomy performed in our hospital-Comparison with thoracoscopic subtotal thoracic esophagectomy
Tottori Prefectural Central Hospital Department of Surgery
Tatebe S, Orihara J, Wada Y, Uchinaka E, Tada Y, Osaki T, Ashida K, Hirooka Y
第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館市, 2023. 7
17. 高齢者における消化器手術後の合併症予測因子としての Barthel Index の有用性についての検討
内仲 英, 花木武彦, 松永知之, 山本 学, 徳安成郎, 坂本照尚, 藤原義之
第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館市, 2023. 7
18. 臍性胸水により発見された臍仮性嚢胞破裂に対して臍体尾部切除術を施行した 1 例
織原淳平, 内仲 英, 和田大和, 津田亜由美, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 102 回山陰肝胆膵疾患研究会. 松江市, 2023. 8
19. 大綱に限局した結節性アミロイドーシスに対して腹腔鏡下腫瘍摘出術を施行した 1 例
織原淳平, 和田大和, 津田亜由美, 内仲 英, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 98 回中国四国外科学会総会. 徳島市, 2023. 8
20. 当院における腹腔鏡下再肝切除術症例の検討
内仲 英, 織原淳平, 和田大和, 多田陽一郎, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 102 回山陰肝胆膵疾患研究会. 松江市, 2023. 8
21. 腹腔内感染症に起因する敗血症性ショックを救い上げる

和田大和, 小林誠人

第 34 回日本血液浄化学会学術集会. 名古屋市, 2023. 9

(パネルディスカッション 3 周術期の急性血液浄化法)

22. 周術期リハビリ介入の効果

尾崎知博, 建部 茂, 織原淳平, 和田大和, 津田亜由美, 蘆田啓吾, 廣岡保明

第 53 回胃外科・術後障害研究会. 東京都, 2023. 11

23. 腹腔洗浄液の現状と課題 胃癌の腹洗浄細胞診の臨床 (シンポジウム)

廣岡保明, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 建部 茂, 前田和俊, 川上智史, 谷上和弥, 徳安祐輔,
小田晋輔, 中本 周

第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会. 福岡市, 2023. 11

24. 剥離可能層を意識したリンパ節郭清と Fusion Surgery (学会ブース展示手技動画: ETHICON)

尾崎知博

第 85 回日本臨床外科学会総会. 岡山市, 2023. 11

25. ガス壊疽を伴う広範囲後腹膜膿瘍に対して高気圧酸素治療を併用した 1 例

和田大和, 梅木真奈, 下原 輔, 宗村佑人, 萩原尊礼, 松村圭祐, 橋本恭史, 後藤 保,
小林誠人

第 51 回日本救急医学会総会・学術集会. 東京都, 2023. 11

26. 噴門側胃切除 mSOFY 再建における術後 1 年間の各臨床項目の推移

尾崎知博, 建部 茂, 織原淳平, 津田亜由美, 内仲 英, 蘆田啓吾, 廣岡保明

第 36 回日本内視鏡外科学会. 横浜市, 2023. 12

27. 胸腔鏡下胸管結紮術に ICG 観察は有用である

建部 茂, 織原淳平, 津田亜由美, 内仲 英, 尾崎知博, 廣岡保明

第 36 回内視鏡外科学会総会. 横浜市, 2023. 12

<学会地方会・研究会発表等>

1. 当院で行っている食道癌治療—ロボット手術の役割

建部 茂

第 67 回鳥取県東部医師会医師セミナー. 鳥取市, 2023. 1

2. 当院における腹部救急外科手術の現状

建部 茂

第 8 回山陰外科 DIC フォーラム. 米子市, 2023. 4

<講演会・講義・研修会>

1. 山陰 KAMPO 医療研究会 演者

尾崎知博

米子市・鳥取市, 2023. 2

2. 外科手術上達のための Tips

蘆田啓吾

鳥取低侵襲外科治療研究会講演. 米子市, 2023. 3

3. オブジーボ胃癌 WEB Live セミナー 司会

尾崎知博

米子市, 2023. 5

4. 鳥取大腸がん診療講演会 座長
蘆田啓吾
米子市, 2023. 7
5. 鳥取大腸癌セミナー 座長
蘆田啓吾
米子市, 2023. 9
6. 鳥取制吐療法講演会 ディスカッション
尾崎知博
米子市・鳥取市, 2023. 9
7. 経静脈栄養法について 1) アクセス法 2) プランニングとモニタリング
尾崎知博
第 14 回 NST 臨床実地研修. 鳥取市, 2023. 10
8. 第 6 回山陰消化器癌セミナー ディスカッション
尾崎知博
米子市・鳥取市, 2023. 11
9. 一般演題 (示説) 食道② 座長
建部 茂
第 85 回日本臨床外科学会総会. 岡山市, 2023. 11
10. 食道癌集学的治療における免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) の役割
建部 茂
鳥取東部がん治療講演会. 鳥取市, 2023. 12

<その他>

1. 胃切除後障害の経時的変化に 4 つのパターン Web 掲載
尾崎知博
MEDICAL TRIBUNE. 2023. 3
2. がんは予防できる! ?
廣岡保明
日本海新聞. 2023. 3
3. 学会賞 (日本臨床細胞学会) 受賞
廣岡保明
2023. 6
4. 地域に根ざした医療を創り出すための強い自律性と説明責任
廣岡保明
江原日報 (韓国). 2023. 11
5. 搬送に関する救命士への指示要請に関する内容, ハラスメントに関する内容
廣岡保明
国内多数新聞 (地方). 2023. 12

脳神経外科

<学会・研究会発表>

1. STA-MCA bypass 術後に皮弁壊死を来し患者に負担をかけた 2 症例
長尾裕一郎
第 37 回白馬脳神経外科セミナー. 長野市, 2023. 2
2. 脳動脈瘤壁と前脈絡叢動脈との剥離失敗例
吉岡裕樹
第 37 回白馬脳神経外科セミナー. 長野市, 2023. 2
3. 症例提示
田淵貞治
東部地域脳卒中医療連携ネットワーク研究会. 鳥取市, 2023. 6
4. 外視鏡の手術経験 ～蝶形骨腫瘍とバイパス術～
吉岡裕樹
第 30 回鳥取県脳神経外科懇話会プログラム. 鳥取市, 2023. 7
5. 若手脳外科医の救急疾患の管理と個人的な展望
網崎秀史
神経救急 Expert Web Conference in 鳥取. 鳥取市, 2023. 8
6. 骨病変が主体であった meningioma の 1 例
網崎秀史
鳥取大学医学部脳神経外科関連病院 合同カンファレンス. 鳥取市, 2023. 12
7. 当院一次脳卒中センター (Primary stroke center : PSC) での自動車運転支援の取り組み紹介
井上雅人, 田淵貞治
第 7 回日本安全運転医療学会学術集会. 千葉市, 2023. 12

<講演会座長>

1. 座長
田淵貞治
第 481 回鳥取県東部医師会臨床懇話会. 鳥取市, 2023. 8
2. 循環器病に関する講演会 座長
田淵貞治
第 123 回日本脳循環器学会中国地方会市民公開講座. 鳥取市, 2023. 10
3. 座長
田淵貞治
多職種連携従事者研修会. 鳥取市, 2023. 11

皮膚科

<学会発表>

1. 顔面有棘細胞癌のリンパ節転移に悪性リンパ腫が併発した 1 例

石原啓太郎, 後藤博之

第 141 回日本皮膚科学会山陰地方会. 米子市, 2023. 9

2. 項部に生じた G-CSF および PTHr-P 産生有棘細胞癌の 1 例

石原啓太郎, 後藤博之

第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 宜野湾市, 2023. 9

整形外科

<誌上発表>

1. 関節面が陥没した肘頭骨折に対する double tension band wiring の治療成績
村岡智也, 村田雅明, 村上大気, 山下尚寛, 青木美帆
整形外科と災害外科 72 : 236-238. 2023

<学会発表>

1. A case of dural injury caused by suction drainage tube
津田 歩, 谷島伸二, 永島英樹
Spine Week 2023. e-poster. オーストラリア .メルボルン, 2023. 5
2. 大腿骨大転子骨折に合併した大腿骨転子部不顕性骨折の治療方針
村岡智也, 村上大気, 中村太紀
第 49 回日本骨折治療学会. 静岡市, 2023. 6
3. 大腿骨骨折に対する骨接合術における Ender 釘の適応
中村太紀, 村岡智也, 村上大気
第 49 回日本骨折治療学会. 静岡市, 2023. 6
4. 小児橈骨遠位 1/3 骨幹部骨折に対するプレート固定の治療経験
津田 歩, 村岡智也, 村上大気, 山下尚寛, 村田雅明
第 56 回中国四国整形外科学会. 高松市, 2023. 12

泌尿器科

<誌上発表>

1. Scrotal lymphangioma in a middle-aged man
Kawamoto B, Yamane H, Muraoka K
Urology Case Reports. 19;50:102507. 2023
2. 鳥取県東部前立腺がん地域連携パス運用について
村岡邦康
鳥取県東部医師会報 1 月号. 463 : 21-22, 2023

<学会発表>

1. Clinical outcome of pembrolizumab in castration-resistant prostate cancer with microsatellite

instability-high in our institution

Kawamoto B, Yamane H, Muraoka K

第 110 回日本泌尿器科学会総会. 神戸市, 2023. 4

2. 前立腺肥大症における夜間頻尿と手術適応の関連性

川本文弥, 安川流生, 村岡邦康

第 30 回日本排尿機能学会. 千葉市, 2023. 9

3. Impact of nocturia on surgical decisions for the therapy of benign prostatic hyperplasia in Japanese patients

Kawamoto B, Yamane H, Muraoka K

International Continence Society 53rd Annual Meeting. Tronto, 2023. 9

(鳥取県立中央病院院長表彰)

4. HoLEP 術後の射精障害

村岡邦康, 安川流生, 川本文弥

第 75 回西日本泌尿器科学会. 松山市, 2023. 11

5. ペプチド受容体核医学内用療法 (PRRT) が奏功した神経内分泌前立腺癌の経験

安川流生, 川本文弥, 村岡邦康

第 75 回西日本泌尿器科学会. 松山市, 2023. 11

6. 鳥取大学関連施設におけるロボット支援膀胱全摘除術と開放膀胱全摘除術の治療成績の比較

山根浩史, 森實修一, 本田正史, 村岡邦康, 大野博文, 磯山忠広, 小野孝司, 瀬島健裕,
門脇浩幸, 武中 篤

第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 米子市, 2023. 11

7. 経尿道的前立腺手術に関する質問事項

安川流生

第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 米子市, 2023. 11

8. HoLEP 術後の射精障害の予測因子について

村岡邦康, 安川流生, 川本文弥

第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 米子市, 2023. 11

<学会地方会・研究会発表等>

1. 茎硬化性脂肪肉芽腫の 1 例

安川流生, 川本文弥, 村岡邦康

第 137 回日本泌尿器科学会山陰地方会. 米子市, 2023. 6

2. 尿管原発 squamous cell papilloma と考えられた尿管腫瘍の 1 例

安川流生, 川本文弥, 村岡邦康

第 9 回山陰泌尿器内視鏡研究会. 米子市, 2023. 7

3. リクスⅡを用いた TOT の初期経験

川本文弥, 安川流生, 山根浩史, 村岡邦康

日本女性骨盤底医学会第 25 回学術集会. 東京都, 2023. 8

4. 当院における超音波ガイド下経皮的腎腫瘍生検の臨床的検討

安川流生, 川本文弥, 村岡邦康

<講演会・講義・研修会>

1. 経尿道的尿路結石除去術 (TUL)
村岡邦康
第 26 回鳥取泌尿器手術手技研究会. 米子市, 2023. 8
2. m CRPC の予後と治療成績について
村岡邦康
鳥取県東部地区前立腺癌講演会. 鳥取市, 2023. 12
3. m CRPC のがんゲノム医療の実際
川本文弥
鳥取県東部地区前立腺癌講演会. 鳥取市, 2023. 12

産婦人科

<誌上発表>

1. 巨大子宮筋腫術後に Posterior reversible encephalopathy syndrome (PRES) を発症した一例
高橋弘幸, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 荒田和也, 竹中泰子
現代産婦人科. 71 (2) : 323-327, 2023
2. 子宮マニピュレーター留置により子宮仮性動脈瘤をきたした 1 例
山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 荒田和也, 竹中泰子, 高橋弘幸
現代産婦人科. 71 (2) : 341-345, 2023
3. 子宮頸部円錐切除術による確定診断が困難であった子宮頸部胃型粘液腺癌の 1 例
野中道子, 山根恵美子, 上垣 崇, 荒田和也, 竹中泰子, 高橋弘幸
鳥取医学雑誌. 51 : 33-37, 2023

<学会発表>

1. 特別企画 母乳育児支援状況アンケート調査から考える：中国四国の分娩施設における母乳育児調査の発表を担当して
高橋弘幸
第 31 回母乳育児シンポジウム. 広島市, 2023. 8
2. 生殖補助医療により妊娠に至った性交未経験女性の一例
上垣 崇, 山根恵美子
第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会. 金沢市, 2023. 11

<学会地方会・研究会発表等>

1. 当院における NIPT の現状～新認証制度による影響～
高橋弘幸, 圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子
令和 5 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 米子市, 2023. 5
2. 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するリスク低減卵管卵巣摘出術の経験

- 野中道子, 圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 竹中泰子, 高橋弘幸
 令和5年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 米子市, 2023. 5
3. 子宮マニピュレーター留置により子宮仮性動脈瘤をきたした1例
 藤岡里奈, 山根恵美子, 圓井孝志, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸
 令和5年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 米子市, 2023. 5
4. 当院における生殖補助医療～保険適応後の変化もあわせて～
 上垣 崇, 山根恵美子, 圓井孝志, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸
 令和5年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 米子市, 2023. 5
5. NT肥厚から妊娠14週で胎児重症心疾患が疑われた一例
 高橋弘幸, 圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子, 倉信裕樹, 田村明子
 日本超音波医学学会第59回中国地方会学術集会. 米子市, 2023. 9
6. 妊娠中にコイル塞栓術を施行した未破裂脳動脈瘤の1例
 圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸
 第75回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会. 松江市, 2023. 9

<講演会・講義・研修会>

1. もっと知ってほしいがんと遺伝のこと～HBOCについて正しく知ろう～ トークセッション
 高橋弘幸
 鳥取大学医学部附属病院がんセンター 市民公開講座. 米子市, 2023. 9
2. 産婦人科と臨床倫理
 高橋弘幸
 令和5年度鳥取県医師会母体保護法指定医師研修会. 米子市, 2023. 10
3. 遺伝医療の世界へようこそ ～症例を通して一緒に考える～
 遺伝医療に携わる医療者のやりがい・エピソード発表会 臨床遺伝専門医の立場から
 高橋弘幸
 さんいん遺伝医療ネットワーク発セミナー Vol.1. 出雲市, 2023. 11

<学会・研究会の主催, 座長>

1. 第41回鳥取県母性衛生学会学術集会 一般演題 座長
 高橋弘幸
 第41回鳥取県母性衛生学会学術集会. 米子市, 2023. 1
2. 令和5年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会 一般演題 座長
 高橋弘幸
 令和5年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 米子市, 鳥取市, 倉吉市,
 2023. 5

放射線科

<研究会・学会発表>

1. Percutaneous mesenteric artery stenting for chronic mesenteric ischemia in combination with modern

implantation techniques and dual antiplatelet therapy

中村一彦, 松本顕佑, 萩原尊礼, 井上千恵, 松末英司

第 82 回日本医学放射線学会総会. 横浜市, 2023. 4

2. 大静脈症候群に対するフィルター留置併用下血管内ステント留置術の試み
中村一彦, 松本顕佑, 萩原尊礼, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司
第 52 回日本 IVR 学会総会. 高知市, 2023. 5
3. 脳転移に対して SIB - IMRT を用いた 3 例
谷野朋彦, 中村一彦, 松本顕佑, 井上千恵, 松末英司, 加藤ユキ, 橋本瑞樹, 砂川知広,
木原康行, 小谷 怜
第 24 回山陰放射線腫瘍学研究会. 出雲市, 2023. 6
4. 当院における診療用放射線に係る安全管理体制について
中村一彦, 松本顕佑, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司
第 138 回日本医学放射線学会中国・四国地方会. 倉敷市, 2023. 6
5. 卵巣類内膜境界悪性腫瘍の 1 例
井上千恵, 松末英司, 松本顕佑, 谷野朋彦, 中村一彦, 野中道子, 徳安祐輔, 藤井進也
第 24 回 JSAWI (Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging). 淡路市, 2023. 9
6. The utility of the combined use of 123I-IMP SPECT and VBM-MRI for discriminating dementia with
Lewy bodies from Alzheimer's disease
松末英司, 井上千恵, 下田学, 中村知哉, 松本正太, 松本顕佑, 谷野朋彦, 中村一彦,
藤井進也
第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 徳島市, 2023. 9
一般演題・学術展示 最優秀演題賞受賞
7. 十二指腸癌術後の三度の肝動脈損傷に対してそれぞれステントグラフト内挿術を施行した 1 例
山崎佳大, 萩原尊礼, 松本顕佑, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司, 中村一彦
第 36 回中国四国 IVR 研究会. 岡山市, 2023. 10
8. 上腸間膜動脈および腹腔動脈に対する血管内治療を行い得た慢性腸管虚血の 1 例
中村一彦, 萩原尊礼, 松本顕佑, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司
第 36 回中国四国 IVR 研究会. 岡山市, 2023. 10
9. ステアリングマイクロカテーテルと AZUR Soft3D coil による分枝の塞栓術が有用であった EVAR
術前内腸骨動脈瘤の一例
中村一彦, 萩原尊礼, 松本顕佑, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司
第 36 回中国四国 IVR 研究会. 岡山市, 2023. 10
10. 根治照射を受けた肺癌患者における放射線肺臓炎のリスク因子の検討
谷野朋彦, 中村一彦, 松本顕佑, 井上千恵, 松末英司, 吉田賢史
日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会. 横浜市, 2023. 12

<講演・講義・研修会講師>

1. 上大静脈症候群 最近の話題

中村一彦

第 256 回鳥取県東部胸部疾患研究会. 鳥取市, 2023. 7

<院内講義>

1. 注射について—静脈路の管理について—
中村一彦
2023 年度鳥取県立中央病院新人看護教育研修. 鳥取市, 2023. 5
2. 放射線治療について
中村一彦
2023 年度鳥取県立中央病院がん看護基礎コース研修. 鳥取市, 2023. 8
3. 医療放射線の安全管理について
小山翔太郎, 永尾結奈, 中村一彦
令和 5 年度鳥取県立中央病院医療放射線研修. 鳥取市, 2023. 12

麻酔科

<学会発表>

1. 冠動脈バイパス術後の大動脈解離に対して分離肺換気を用いてグラフト温存が可能であった一例
圓道 豪 1, 細田 健 2, 船木一美 2, 坂本成司 1
1: 鳥取県立中央病院, 2: 鳥取大学医学部附属病院
日本麻酔科学会中国・四国支部第 60 回学術集会. 徳島市, 2023. 9

救急集中治療科

<誌上発表>

1. ヘリ&カー運用の極意: こうすれば効果的で人が集まるかも!?
小林誠人
BeyondER. 1: 54-59, 2023

<学会・研究会発表>

1. 腹腔内感染に伴う敗血症性ショック患者に対する治療戦略, 戦術, その効果
和田大和, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 松村圭祐, 後藤 保, 門馬秀介,
小林誠人
Sun-In Medical Forum (ver. 感染症・敗血症). 鳥取市, 2023. 2
2. 外傷診療体制は多機関, 多職種で構築する
小林誠人, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 松村圭祐, 後藤 保,
門馬秀介
第 50 回日本集中治療医学会. 京都市, 2023. 3
3. 致死的な大量喀血により低酸素血症, 心肺停止直前状態に陥るも VV-ECMO と気管支動脈塞栓術
で救命できた 1 例
橋本恭史, 岡本 勝, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 松村圭祐,
後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人
第 50 回日本集中治療医学会. 京都市, 2023. 3

4. 腹部救急診療における open abdomen management の適応は何で判断するか？
小林誠人, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 松村圭祐, 後藤 保, 門馬秀介
第 59 回日本腹部救急医学会. 宜野湾市, 2023. 3
5. 救急専門医, 外科専門医取得その先へ
和田大和, 織原純平, 多田陽一郎, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 松村圭祐, 後藤 保, 小林誠人
第 59 回日本腹部救急医学会. 宜野湾市, 2023. 3
6. 胆管ステント留置が有効であった内視鏡的乳頭括約筋切開術による十二指腸穿孔の 1 例
宗村祐人, 下原 輔, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 松村圭祐, 後藤 保, 小林誠人
第 59 回日本腹部救急医学会. 宜野湾市, 2023. 3
7. ステント留置が有効であった食道癌穿孔の一例
梅木真奈, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 松村圭祐, 後藤 保, 小林誠人
第 59 回日本腹部救急医学会. 宜野湾市, 2023. 3
8. Acute Care Surgeon を有効に活用する組織体制
小林誠人, 梅木真奈, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 123 回日本外科学会定期学術集会. 東京都, 2023. 4
9. 血行動態モニタリングは必要ですか？
小林誠人
第 34 回日本臨床モニター学会. 高知市, 2023. 4
10. 血漿交換を中心とした後天性 TTP の治療経験
小林誠人
後天性血栓性血小板減少性紫斑病講演会. 岡山市, 2023. 5
11. 地域医療政策は外傷患者の予後を改善する
小林誠人, 梅木真奈, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 37 回日本外傷学会総会. 名古屋市, 2023. 6
12. 一般口演 20 「病院前外傷診療」
小林誠人
第 37 回日本外傷学会総会. 名古屋市, 2023. 6
13. 血行動態モニタリングまだやります ?? この話題
小林誠人
第 3 回 Sun in Medical QQ Forum. Web, 2023. 6
14. ScvO₂ を掘り下げてみた
山根大地, 小林誠人
第 3 回 Sun in Medical QQ Forum. Web, 2023. 6
15. ForSight を使ってみる
高野 岳, 小林誠人

- 第 3 回 Sun in Medical QQ Forum. Web, 2023. 6
16. 教育セミナー 2
小林誠人
第 39 回日本救急医学会中国四国地方会. 松山市, 2023. 7
17. 重症患者受け入れ・重症外傷
小林誠人
第 39 回日本救急医学会中国四国地方会. 松山市, 2023. 7
18. 体外式膜型人工肺を用い緊急バルーン大動脈弁形成術を行った重症大動脈弁狭窄症の 1 例
下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 松村圭祐, 樋口 遼, 後藤 保, 門馬秀介, 赤坂俊彦,
宮坂成人, 小林誠人
第 39 回日本救急医学会中国四国地方会. 松山市, 2023. 7
19. 救急搬送応需率 100%は可能である
小林誠人, 梅木真奈, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 橋本恭史,
後藤 保, 門馬秀介
第 26 回日本臨床救急医学会総会. 東京都, 2023. 7
20. Education
小林誠人
The 6th World Trauma Congress 2023 (WTC2023 TOKYO). 東京都, 2023. 8
21. 血液浄化
小林誠人
第 37 回日本 Shock 学会学術集会. 名古屋市, 2023. 8
22. 救急看護師の立場から
小林誠人
神経救急 Expert Web Conference. Web, 2023. 8
23. 神経救急における救急看護師の役割
山根大地, 小林誠人
神経救急 Expert Web Conference. Web, 2023. 8
24. 鳥取県における集中治療の現状と遠隔 ICU への期待
小林誠人
eICU セミナー. 鳥取市・ハイブリッド, 2023. 9
25. 周術期の急性血液浄化法
小林誠人
第 34 回日本急性血液浄化学会. 名古屋市, 2023. 9
26. 腹腔内感染に起因する敗血症性ショックを救い上げる
和田大和, 小林誠人
第 34 回日本急性血液浄化学会. 名古屋市, 2023. 9
27. 地域メディカルコントロール体制の整備がもたらす効果
小林誠人, 梅木真奈, 下原 輔, 宗村祐人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和, 橋本恭史,
後藤 保, 門馬秀介
第 51 回日本救急医学会. 東京都, 2023. 11

28. ガス壊疽を伴う広範囲後腹膜膿瘍に対して高気圧酸素治療を併用した1例
和田大和, 梅木真奈, 下原 輔, 宗村佑人, 萩原尊礼, 松村圭祐, 橋本恭史, 後藤 保,
小林誠人
第51回日本救急医学会. 東京都, 2023. 11
29. ドクターヘリ
小林誠人
第18回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会. 小田原市, 2023. 12

<講演・講義・研修会>

1. 観察と判断
小林誠人
兵庫県消防学校救急課養成課程講義. 三木市, 2023. 1
2. 急性血液浄化療法をチームでやってみる
小林誠人
北陸地区敗血症 WEB セミナー. Web, 2023. 1
3. 情熱的救命救急 仕事の流儀
小林誠人
鳥取社会福祉専門学校講演. 鳥取市, 2023. 6
4. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話
小林誠人
鳥取市立若葉台小学校講演 (児童). 鳥取市, 2023. 6
5. 情熱的病院前救急診療 - 地域へ, そして次世代へ -
小林誠人
鳥取市立若葉台小学校講演 (PTA). 鳥取市, 2023. 6
6. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話
小林誠人
鳥取市立東郷小学校講演 (児童). 鳥取市, 2023. 6
7. 情熱的病院前救急診療 - 地域へ, そして次世代へ -
小林誠人
鳥取市立東郷小学校講演 (PTA). 鳥取市, 2023. 6
8. プロフェッショナル 情熱的救命医療の流儀～警察学校バージョン
小林誠人
鳥取県警察学校. 鳥取市, 2023. 7
9. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話
小林誠人
鳥取市立用瀬小学校講演. 鳥取市, 2023. 7
10. SHOCK! Trauma!! Burn!?! その対応
小林誠人
鳥取看護専門学校 授業. 鳥取市, 2023. 9
11. 救急医だからこそその出血制御

小林誠人

オンデキサ WEB 講演. Web, 2023. 9

12. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話

小林誠人

鳥取市立青谷小学校講演. 鳥取市, 2023. 9

13. プロフェッショナル 情熱的救命医療の流儀

小林誠人

鳥取県立岩美高等学校 75 周年記念講演. 岩美町, 2023. 9

14. プロフェッショナル 情熱的救命医療の流儀

小林誠人

鳥取県立八頭高等学校キャリア設計講演会. 八頭郡, 2023. 9

15. 医師が出勤する医療での MC

小林誠人

令和 5 年度 病院前医療体制における指導医等研修. Web, 2023. 9

16. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話

小林誠人

岩美北小学校講演. 岩美町, 2023. 12

17. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話

小林誠人

鳥取市立浜坂小学校講演. 鳥取市, 2023. 12

18. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話

小林誠人

鳥取市立世紀小学校講演. 鳥取市, 2023. 12

19. 命を救い上げるドクターヘリの真実 ここだけの話

小林誠人

鳥取市立末恒小学校講演. 鳥取市, 2023. 12

<新聞・テレビ・ラジオ>

1. 鳥取県立鳥取西高等学校創立 150 周年記念特別番組

小林誠人

日本海テレビ. 2023. 11

<学会・研究会の主催>

1. 会長・代表世話人

小林誠人

第 2 回 Sun-In Medical Forum (臨床研究). Web, 2023. 2

<学会・研究会の座長>

1. 座長

小林誠人

災害科

<誌上発表>

1. 「フェイク, AI, 未来」 救急医四方山話

岡田 稔

救急医学 Vol.48 No.1 2024 Jan へるす出版 東京都 2024

<ウェブ・インタビュー>

1. 医療施設における持続的な災害対策体制構築に向けた研究

岡田 稔

東京医科歯科大学病院災害テロ対策室. Web, 2024. 01. 30

歯科口腔外科

<誌上発表>

1. 帯状疱疹について

木谷憲典

鳥取県歯科医師会報. 341 : 55-57. 2023

<学会発表>

1. 舌尖部癌を併発した先天性表皮水疱症の一例

加納優也, 大淵幸与, 木谷憲典

第77回日本口腔科学会学術集会. 岡山市, 2023. 5

2. 重度歯周炎を契機とした歯性感染波及による右側眼窩蜂巣炎の一例

大淵幸与, 加納優也, 木谷憲典

第68回日本口腔外科学会総会・学術大会. 大阪市, 2023. 11

3. 妊娠中に生じた舌膿原性肉芽腫の一例

加納優也, 大淵幸与, 木谷憲典

第68回日本口腔外科学会総会・学術大会. 大阪市, 2023. 11

4. 重度歯周炎を契機とした歯性感

染波及による右側眼窩蜂巣炎の一例

大淵幸与, 加納優也, 木谷憲典

第25回山陰口腔疾患研究会. 鳥取市, 2023. 12

5. 高齢者の下顎癌術後のプレート感染に対しフルカスタムメイドプレートにて再建した一例

木谷憲典 加納優也 大淵幸与

第43回鳥取県臨床歯科医学会. 鳥取市, 2023. 12

<講演・講義・研修会>

1. 地域・在宅看護援助論Ⅲ「在宅における口腔ケア」
岸本真紀
鳥取県立衛生士専門学校 2 年生, 3 年生臨床実習受け入れ, 2023. 1 ~ 12
2. 口腔外科学
木谷憲典, 大淵幸与
鳥取県立衛生士専門学校, 鳥取市, 2023. 5 ~ 11 計 1.5 時間 x 20 回
3. 口腔外科学
木谷憲典
鳥取県立鳥取看護専門学校, 鳥取市, 2023 1.5 時間 x 2 回
4. 高齢者肺炎について
大淵幸与
鳥取県立中央病院市民講座, 鳥取市, 2023. 6
5. 骨粗鬆症について
谷口美帆
鳥取県立中央病院市民講座, 鳥取市, 2023. 10
6. 講義
木谷憲典
鳥取県立看護専門学校, 鳥取市, 2023. 10
7. 口腔衛生（口腔ケア）の必要性と全身への関わりについて
木谷憲典
鳥取県立養護学校, 鳥取市, 2023. 12

<健診>

1. 歯科検診
木谷憲典, 加納優也, 岸本真紀, 谷口美帆, 金尾朋子
鳥取県立鳥取養護学校, 鳥取市, 2023. 6
2. 歯科検診
大淵幸代, 加納優也, 谷口美帆, 金尾朋子, 山本 葉
鳥取県立鳥取養護学校, 鳥取市, 2023. 6

病理診断科・臨床検査科

<学会発表>

1. 捺印細胞診を用いたリンパ節診断体系の構築
徳安祐輔, 小田晋輔, 前田和俊, 川上智史, 松ノ谷尚子, 谷上和弥, 岡田早苗, 中本 周
第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 名古屋, 2023. 6

看護局

<誌上発表>

1. 失神

山根太地

Emer-Log. 36 : 615-622. 2023

2. 点滴開始直後に全身のかゆみと咳，どう判断する？

山根太地

急変時，何をみる？どう判断する？病棟ナースの臨床推論. 62-75, 2023

3. 人工呼吸管理の実践を支える根拠：ガイドライン・プロトコル・バンドルの活用

山根太地

ブラッシュアップ人工呼吸管理. 251-264, 2023.

<研究会，学会発表>

1. 外来治療室で勤務する看護師の患者ケアへの意欲・感心の変化—継続受け持ち制を導入して—

安達直美，木下敦子，房安直美，小林雅子

第37回日本がん看護学術集会. WEB（示説），2023. 2

2. 医療的ケア児の自宅退院に向けた関り—多職種との連携と家族を含めた支援を振り返って—

藤井隆太郎

第19回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会. 米子市，2023. 9

3. 業務効率化への取り組み—他職種と協働したクリニカルパスの見直し—

古田めぐみ

第19回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会. 米子市，2023. 99

（優秀賞）

4. 特定行為研修修了者がスペシャリストたる所以について考察する

山根太地

第25回日本救急看護学会学術集会. 長崎市，2023. 11

<講演・講義・研修会>

1. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兔養護学校小学部. 鳥取市，2023. 1

2. 講義：女性のライフサイクル各期の特徴

橋本万住子

倉吉総合看護専門学校助産学科. 倉吉市，2023. 1

3. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取市立北中学校1年. 鳥取市，2023. 1

4. 性教育講演会

橋本万住子

- 鳥取県立白兔養護学校高等部. 鳥取市, 2023. 2
5. 性教育講演会
橋本万住子
鳥取県立盲学校専攻科. 鳥取市, 2023. 2
 6. 性教育講演会
橋本万住子
鳥取市立千代南中学校 3 年. 鳥取市, 2023. 2
 7. 「輝なんせ鳥取」講座 講演会「家庭でできる性教育ってどんなこと!？」
橋本万住子
鳥取市男女共同参画センター. 鳥取市, 2023. 2
 8. 講義：妊活セミナー
橋本万住子
鳥取看護専門学校 1 年. 鳥取市, 2023. 3
 9. 性教育講演会
橋本万住子
鳥取県立聾学校中・高校生男子. 鳥取市, 2023. 3
 10. 性教育講演会
橋本万住子
鳥取大学附属特別支援学校高等部. 鳥取市, 2023. 3
 11. 令和 5 年度新入職員研修会「ライフプランセミナーと女性活躍推進研修」
橋本万住子
大山乳業農業協同組合. 琴浦町, 2022. 3
 12. ScvO2 を掘り下げしてみる
山根太地
Sun in Medical QQ Forum. オンライン開催, 2023. 6
 13. 性と生の教育 保護者研修会
橋本万住子
鳥取県立白兔養護学校高等部. 鳥取市, 2023. 6
 14. 講義：母性看護学概論「不妊症の基礎知識と最近の動向」
橋本万住子
倉吉総合看護専門学校第 1 看護学科 2 年. 倉吉市, 2023. 6
 15. 人権教育参観日講演会 保護者対象
橋本万住子
鳥取市立修立小学校. 鳥取市, 2023. 6
 16. 講義：母性看護学概論「不妊症の基礎知識と最近の動向」
橋本万住子
倉吉総合看護専門学校第 2 看護学科 2 年. 倉吉市, 2023. 6
 17. 臨床看護総論—放射線療法を受ける患者の看護—
橋本瑞樹
鳥取県立倉吉総合看護専門学校. 倉吉市, 2023. 7

18. 性教育講演会
橋本万住子
鳥取県立倉吉農業高校全学年. 倉吉市, 2023. 7
19. 講義：母性看護援助論Ⅰ
橋本万住子
鳥取県立鳥取看護専門学校2年. 鳥取市, 2023. 7
20. 気づいて動ける急変対応～重要な観察ポイントと対応を学ぼう～
山根太地
鳥取県看護協会教育研修. 鳥取市, 2023. 8
21. 神経救急における救急看護師の役割
山根太地
神経救急 Expert Web Conference in 鳥取. 鳥取市, 2023. 8
22. 看護師の視点—治療計画確認と患者説明の改善へのアプローチ—
橋本瑞樹
第126回日本医学物理師学会学術集会. 広島, 2023. 9
23. 保健体育の授業：1年生：「性感染症・エイズ予防教育」
橋本万住子
青翔開智高等学校. 鳥取市, 2023. 9
24. がん放射線療法に伴う有害事象とマネジメント—粘膜障害と骨髄抑制—
橋本瑞樹
久留米大学認定看護師教育センター. 福岡, 2023. 10
25. 総合的な学習の時間 調べ学習 さくらはる課's「いのちのお話し」
橋本万住子
鳥取市立桜ヶ丘中学校3学年. 鳥取市, 2023. 10
26. 性に関する指導講演会
橋本万住子
鳥取県立鳥取工業高校1学年. 鳥取市, 2023. 10
27. 保健体育の授業：3年生：「妊娠・出産と健康, 人工妊娠中絶」
橋本万住子
青翔開智高等学校. 鳥取市, 2023. 11
28. 性教育講演会
橋本万住子
鳥取県立智頭農林高等学校全校生徒. 八頭郡, 2023. 11
29. いのちの講演会
橋本万住子
鳥取市立北中学校1年. 鳥取市, 2023. 11
30. 2023年度不妊勉強会・相談会「妊活の3原則」webにて動画配信
橋本万住子
鳥取県東部不妊専門相談センター主催. 鳥取市, 2023. 11
31. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兔養護学校高等部. 鳥取市, 2023. 12

32. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兔養護学校小学部. 鳥取市, 2023. 12

33. 性に関する教育

橋本万住子

鳥取県立鳥取盲学校 高等部男子, 高等部女子, 専攻科男子. 鳥取市, 2023. 12

34. 産業保健研修会「女性のライフステージに応じた健康課題について」

橋本万住子

鳥取産業保健総合支援センター主催. 鳥取市, 2023. 12

<院内研修講師>

1. 放射線療法と看護

橋本瑞樹

鳥取県立中央病院新人研修. 鳥取市, 2023. 6

2. がん看護基礎研修

橋本瑞樹

がん看護基礎研修. 鳥取市, 2023. 8

3. がん看護アドバンスト研修

橋本瑞樹

がん看護アドバンスト研修. 鳥取市, 2023. 11

薬剤部

<学会・研究会発表>

1. 褥瘡対策計画書における薬学的管理への取り組み

小谷佐知子, 大島千尋, 小松珠美, 下山英津子, 田中美佐子

第23回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会. 米子市, 2023. 3

<講演会・講義・研修会>

1. 骨粗鬆症・顎骨壊死予防への取り組み～病棟薬剤師の立場から～

濱崎拓哉

第7回鳥取県東部顎骨壊死予防ネットワーク講演会. 鳥取市, 2023. 1

2. レジメン紹介：ロンサーフ+ベバシズマブ（大腸癌）

渡邊俊介

がん薬物療法レジメン研修会. Web, 2023. 2

3. 多職種介入により良好な経過をたどる慢性心不全の方

～本患者さんから、当院のハートチームが学んだこと～

西垣智子

いなばハートフルネット多職種心不全カンファレンス. 日赤病院・web ハイブリッド. 鳥取市,
2023. 6

4. 高齢者肺炎について, 肺炎球菌ワクチンについて
田中玖実
令和5年度鳥取県立中央病院市民講座. 鳥取市, 2023. 6
5. 医療用麻薬について
伊藤ちとせ
鳥取県立中央病院緩和ケア病棟研修会. 鳥取市. 2023. 7
6. 制吐剤の基礎知識について
渡邊俊介
第3回いなば薬薬連携セミナー. Web, 2023. 8
7. 肺がん治療レジメンで知っておきたいこと
渡邊俊介
第9回地域で学ぶがん薬物療法セミナー. Web, 2023. 10
8. 骨粗鬆症について, 骨粗鬆症の薬を知る
濱崎拓哉
令和5年度鳥取県立中央病院市民講座. 鳥取市, 2023. 10
9. 当院のがん化学療法について
渡邊俊介
鳥取県がん薬物療法レジメン研修会. Web, 2023. 12
10. 薬理学
住川東子, 濱崎拓哉
鳥取県立看護専門学校講義. 鳥取市, 2023. 5-9
11. 薬務法
小谷佐知子
鳥取県立看護専門学校講義. 鳥取市, 2023. 7

中央放射線室

<誌上発表>

1. 将来に向かう電子線の放射線治療の再考
砂川知広
日本放射線技術学会雑誌. 79 : 732, 2023
2. 下肢閉塞性動脈疾患に対する異なる2断面同時テストインジェクション法の有用性
上山忠政, 小山 亮, 壹岐 勝
RadFan. 21 : 27-30, 2023

<学会・研究会発表>

1. 放射線治療を安全に提供するために過去に事件事例に学ぶ
木原康行

- 第 14 回放射線治療機器及び医療機器の安全使用のための研修会. Web, 2023. 3
2. TG198 を実践してみよう - 幾何学 QA sec1-
小谷 怜
第 31 回山陰放射線治療技術研究会. Web, 2023. 3
 3. TG198 を実践してみよう - 幾何学 QA sec2-
木原康行
第 31 回山陰放射線治療技術研究会. Web, 2023. 3
 4. TG198 を実践してみよう - 幾何学 QA sec3-
砂川知広
第 31 回山陰放射線治療技術研究会. Web, 2023. 3
 5. 下肢閉塞性動脈疾患に対する異なる 2 断面同時テストインジェクション法の有用性
上山忠政, 小山 亮, 松末英司, 壺岐 勝
クリニカル CT 画像研究会. 東京都, 2023. 5
 6. アンガー型ガンマカメラを用いた心筋血流の定量・予備能評価による異常心筋の抽出
澤 和宏, 川上美穂, 壺岐 勝, 松末英司, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 小倉一能, 那須博司,
吉田泰之
日本心臓核医学会. 長崎市, 2023. 6
 7. 頭部 CT における他機種間のシステム性能評価について
前田哲生
日本放射線技術学会中国・四国支部, 第 24 回夏季学術大会. 広島市, 2023. 7
 8. すべての CT 検査が Spectral イメージです～憧れるのをやめましょう～
上山忠政
鳥取 BIRT Meeting. 倉吉市, 2023. 8
 9. X 線の線量校正 - 測定シートの中身を確認してみよう -
小谷 怜
第 32 回山陰放射線治療技術研究会. 出雲市, 2023. 9
 10. アンギオ造影 CT 後に動脈穿刺を発覚した例
石賀慎基
第 3 回中四国コンソーシアム報告会 web セミナー. Web, 2023. 9
 11. アンガー型ガンマカメラを用いた心筋血流の定量・予備能評価について
澤 和宏
心筋血流 SPECT 画像解析検討会. 松山市, 2023. 10
 12. 骨密度検査を知る
石賀慎基
鳥取県立中央病院市民公開講座. 鳥取市, 2023. 10
 13. ガラス球体ファントムによる横断的中心精度管理手法の検討
砂川知広, 木原康行, 小谷 怜
第 51 回秋季放射線技術学会. 名古屋市, 2023. 10
 14. 2 層検出器 CT における仮想単色 X 線画像の CT 値に関する検討
上山忠政, 前田哲生, 小山 亮, 岸本淳一, 澤 和宏, 壺岐 勝

- 第 19 回中四国放射線医療技術フォーラム CSFRT2023. 山口市, 2023. 11
15. 2 層検出器 CT におけるカルシウム抑制画像の撮影条件による影響の基礎的検討
田中康隆
第 19 回中四国放射線医療技術フォーラム CSFRT2023. 山口市, 2023. 11
16. 2 層検出器 CT におけるヨード濃度値の精度検証について
前田哲生, 上山忠政, 岸本洋一, 小山 亮, 澤 和宏, 壹岐 勝
第 19 回中四国放射線医療技術フォーラム CSFRT2023. 山口市, 2023. 11
17. アブレーション術前心臓 CT と心臓超音波における左房容積の比較
石賀慎基, 木村晃司, 田中康隆, 上山忠政, 壹岐 勝, 小柴 鷹
第 19 回中四国放射線医療技術フォーラム CSFRT2023. 山口市, 2023. 11
18. 耳介ケロイド術後照射におけるボラス材の検討
砂川知広, 木原康行, 小谷 怜
第 19 回中四国放射線医療技術フォーラム CSFRT2023. 山口市, 2023. 11
19. MRI における心電図同期撮像を想定した電極貼り付け位置の検討
永原奈菜, 岡田篤樹, 赤島啓介, 小山 亮, 壹岐 勝
2023 年鳥取県診療放射線技師学術大会・がん検診研究会. 鳥取市, 2023. 12
20. MRI 造影検査における後発医薬品の導入と経過について
岡田篤樹, 永原奈菜, 赤島啓介, 小山 亮, 壹岐 勝
2023 年鳥取県診療放射線技師学術大会・がん検診研究会. 鳥取市, 2023. 12
21. 心筋遅延造影ワークアウト！スペクトラル CT における撮影条件の検討
前田哲生, 上山忠政, 岸本淳一, 小山 亮, 澤 和宏, 壹岐 勝
クリニカル CT 画像研究会. 東京都品川区, 2023. 12

中央検査室

<誌上発表>

- DLBCL の治療後に発生した Myeloid sarcoma の一例
川上智史, 中本 周, 田中孝幸, 加藤千春, 橋本佳子
日本検査血液学会雑誌. 24 : 276-282. 2023

<学会発表>

- 慢性骨髄性白血病と慢性リンパ性白血病を併発した一例
川上智史, 中本 周, 徳安祐輔, 小村裕美, 加藤千春, 前田麻衣子
第 24 回日本検査血液学会学術集会. 名古屋市, 2023. 7
- 末梢血検体でフローサイトメトリー検査と免疫染色を併用し診断した血液疾患の 5 症例
川上智史, 加藤千春, 前田和俊, 岡本昌典, 前田麻衣子, 橋本佳子
第 56 回中四国支部医学検査学会. 松山市, 2023. 9
- 直接 Donath-Landsteiner 試験により発作性寒冷ヘモグロビン尿症と診断した一症例
佐々木崇雄, 川上智史, 杉谷峻樹, 山元拓也
第 56 回中四国支部医学検査学会. 松山市, 2023. 9

4. 濾過法による腫瘍細胞割合濃縮（遺伝子関連検査を意識した検体処理方法の検討）
細胞検査士会要望教育シンポジウム
胸水検体からの遺伝子パネル検査～腫瘍細胞含有率の向上の工夫～
前田和俊，中本 周，徳安祐輔，小田晋輔，廣岡保明，川上智史，谷上和弥
第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会．福岡市，2023．11
5. 芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 2 例の細胞像
川上智史，中本 周，徳安祐輔，小田晋輔，前田和俊，谷上和弥，廣岡保明
第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会．福岡市，2023．11
及び，第 37 回鳥取県臨床細胞学会学術集会．鳥取市，2023．12
6. 芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 2 例の細胞像
川上智史，中本 周，徳安祐輔，小田晋輔，前田和俊，谷上和弥，廣岡保明
第 37 回鳥取県臨床細胞学会学術集会．鳥取市，2023．12

<講演会・講義・研修会>

1. 『遺伝子検査の基礎と関連商品の紹介』 AmoyD x[®] 肺癌マルチ遺伝子 PCR パネル検査を含む商品の紹介
前田和俊
2022 年度第 1 回染色体・遺伝子部門研修会．Web，2023．1
2. 認定資格について学ぼう 遺伝子検査編
前田和俊
2022 年度第 2 回染色体・遺伝子部門研修会．Web，2023．2
3. 肺癌領域の遺伝子検査について学ぼう 肺癌コンパクトパネル[®]Dx マルチコンパニオン診断システム 編
前田和俊
2023 年度 第 1 回染色体・遺伝子部門研修会．Web，2023．8
4. 座長 病理シンポジウム 中四国で取り組もう！
病理検査の品質保証～英知を集結し，課題を突破せよ～
前田和俊
第 56 回 中四国支部医学検査学会．松山市，2023．9
5. ハンズオンセミナー 腹部超音波検査
谷口千里
第 56 回 中四国支部医学検査学会．松山市，2023．9
6. 座長 一般演題（臨床生理部門）
山本寿恵
第 49 回鳥取県医学検査学会．鳥取市，2023．10
7. 担当・講師 血液部門研修会
橋本佳子
鳥取臨床検査技師会 2023 年度第 2 回臨床血液部門研修会．鳥取市，2023．11
8. 遺伝子検査の未来を語る
前田和俊

令和5年度中四国支部染色体遺伝子検査部門研修会. Web, 2023. 12

9. 司会臨床生理部門研修会

谷口 悟

鳥取県臨床検査技師会第2回臨床生理部門研修会. 鳥取市, 2023. 12

10. 講師

前田和俊

鳥取県立歯科衛生専門学校講義. 鳥取市, 2023. 4-11

11. 講師

上原由佳

鳥取県立看護専門学校講義. 鳥取市, 2023. 10-2

臨床工学室

<学会発表>

1. 認定士のたまごの温め方～デバイスナースを増やすために～

小谷友喜

第15回植込みデバイス関連冬季大会 デバイス認定士コミュニケーションセッション. 福島県, 2023. 2

2. 余剰ガス排気設備不要の吸入麻酔薬気化器 (AnaConDa) の導入経験

高野 岳

第33回日本臨床工学会. Web, 2023. 7

3. カテ室で求められる心電図

藤原一樹

第29回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT). 岡山県, 2023. 9

4. 新手術室稼働時に発生した内視鏡トラブルへの対処

中村憲明

第13回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10

5. 同種造血幹細胞移植で骨髄濃縮に難渋した症例

瀧田 渚

第13回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10

6. 急性血液浄化療法運用管理変更によるインシデントの変化

瀧田 渚, 高野 岳

第13回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10

<学会・研究会の主催>

1. 輸液シリンジポンプ管理① 座長

高野 岳

第33回日本臨床工学会. 広島市, 2023. 7

2. VIO3 と排煙装置の重要性～ジェネレーターのパフォーマンスがもたらすもの～ 座長

中村憲明

- 第 13 回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10
3. 医療的ケア児（者）の災害対策 座長
高野 岳
第 13 回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10
 4. 国際救助活動に携わる臨床工学技士 座長
藤原一樹
第 13 回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10
 5. 新規手術支援ロボットの特徴と我々の医工連携の取り組み 座長
高野 岳
第 13 回中四国臨床工学会. 米子市, 2023. 10

リハビリテーション室

<誌上発表>

1. Epimuscular myofascial transmission between the levator scapulae and the upper fiber of the serratus anterior or rhomboid muscles
Kawabuchi K, Yamane K, Maniwa S, Inoue K
Clinical Biomechanics. 112, 2024
2. Changes in Blood flow in the dorsal scapular artery and relationship in rotator cuff tears
Kawabuchi K
JSES international17. 7 : 2356-2360, 2023.

<学会・研究会発表>

1. 乳癌術後，不安軽減を機に肩関節可動域の改善がみられた症例
洪谷綾子
第 31 回鳥取県乳腺疾患研究会. 鳥取市, 2023. 2
2. 高齢難治性褥瘡に対して包括的アプローチおよび住環境調整と介護サービス活用により改善を得た一症例
上村桂一
第 23 回日本褥瘡学会中国四国地方学術集会. 米子市, 2023. 3
3. 腱板断裂における肩甲背動脈血流速度の変化と肩関節機能との関係
川淵敬太
第 11 回日本運動器理学療法学会学術大会. 福岡市, 2023. 10
4. 人工膝関節全置換術（TKA）における Criteria Base Path 導入効果
川淵敬太, 前田啓之
第 23 回日本クリニカルパス学会. 埼玉市, 2023. 11
5. 当院における急性心筋梗塞のクリニカルパス改編の取り組みについて
松岡洋佑, 上村桂一, 酒井里佳, 田中千比呂, 赤坂俊彦
第 9 回日本心臓リハビリテーション学会中国支部地方会. 米子市, 2023. 11
6. 周術期リハの効果 ～胃癌切除症例の検討～

竹田賢彦, 西川晴香, 尾崎知博

第 33 回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会. 仙台市, 2023. 12

7. 走行時の膝関節内側部痛に対して内側側副靭帯浅層線維と内側広筋の組織連結に着目し, 長距離走への競技復帰が可能となった膝内障の一症例

間庭奨大, 川淵敬太

第 22 回 鳥取県理学療法学会. 倉吉市, 2023. 12

8. 半側空間無視の病態理解を促し, 運転再開に至った症例

藤澤拓馬

第 7 回日本安全運転医療学会学術集会. 千葉市, 2023. 12

9. 当院脳卒中センター (Primary stroke center : PSC) での自動車運転支援の取り組み紹介

井上雅人, 田淵貞治

第 7 回日本安全運転医療学会学術集会. 千葉市, 2023. 12

栄養管理室

<講演会・講義>

1. 栄養学Ⅱ 食事療法

宮崎典子

鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2023. 5 ~ 15 時間

2. 栄養学Ⅰ

岸本和恵

鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2023. 9 ~ 14 時間

3. 栄養学Ⅰ

岡本英津子

鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2023. 10 ~ 16 時間

4. 栄養薬剤, 栄養剤, 食品の選択

岸本和恵

第 14 回 N S T 短期集中研修会. 鳥取市, 2023. 10

5. 胃切術後の食事について

宮崎典子

市民講座. 鳥取市, 2023. 8

6. 骨を丈夫にする食事

木村優花

市民講座. 鳥取市, 2023. 10

7. 栄養補給 座長

岸本和恵

第 15 回日本臨床栄養代謝学会中国四国支部学術集会. Web, 2023. 9

8. 高齢糖尿病患者への支援～チームによる関わりを通して～

田中綺奈

第 9 回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー. Web, 2023. 3

9. 胃癌術後補助化学療法が食事を与える影響
木村優花
第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 神戸市, 2023. 5
10. 多職種介入により良好な経過をたどる慢性心不全の方 ～本患者さんから当院のハートチームが学んだこと～ 管理栄養士介入
木村優花
いなばハートフルカンファレンス. 鳥取市, 2023. 6
11. 胃切術後 1 か月の食事調査
岸本和恵
第 60 回日本外科代謝栄養学会, 第 60 回学術集会. 東京都, 2023. 7

感染防止対策室

<講演・講義・研修会>

1. コロナ禍における新たな地域連携と潜む耐性菌の動き
朽本浩紀
ICNU 中国支部オンライン研修会. 鳥取市, 2023. 1
2. 感染予防
朽本浩紀
令和 5 年度看護職員再就業支援研修会. 鳥取市, 2023. 8
3. 感染防止対策 ～感染対策の基本スキル～
朽本浩紀
令和 5 年度介護専門職オンライン研修会. 鳥取市, 2023. 8
4. 感染防止対策 ～感染拡大を防ぐための応用スキル～
朽本浩紀
令和 5 年度介護専門職オンライン研修会. 鳥取市, 2023. 12
5. 手指衛生を改善する取り組み
入江真里, 朽本浩紀
令和 5 年度鳥取県院内感染対策研修会. 米子市, 2023. 12

臨床心理士室

<学会・研究会発表>

1. 鳥取緩和ケア研究会 座長
藤松義人
第 28 回鳥取緩和ケア研究会. 鳥取市, 2023. 11

<講演・講義・研修会>

1. この治療やってもいいですか
藤松義人

- 鳥取県がんフォーラム パネルディスカッション. 米子市, 2023. 1
2. 難病患者がATM（明るく・楽しく・前向き）で生きていくためには
藤松義人
山陰網膜色素変性症協会研修会. 鳥取市, 2023. 4
3. がん診療におけるがん相談支援センターの役割と, 鳥取県におけるがんゲノム医療の実際
藤松義人
鳥取県薬剤師会東部支部学術講演会. 鳥取市, 2023. 11
4. 周産期の心のケア～Aちゃんとの関わりを通して～
圓山由香
周産期心理士ネットワーク中国四国地区グループスーパービジョン. Web+ 対面開催, 2023. 7
5. 施設で取り組むがん患者等への支援, アイスブレイク
藤松義人
2023年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2023. 11
6. 鳥取県東部地区におけるがんゲノム医療の院内連携と地域連携
藤松義人
鳥取県東部地区前立腺癌講演会. 鳥取市, 2023. 12
7. 電話相談事例を用いた症例検討と第4期がん対策基本計画の新要件に向けた体制整備を考える講師
藤松義人
鳥取県がん診療連携協議会相談支援部会研修会. Web, 2023. 12

臨 床 統 計

(2023年1月～12月)

消化器内科

	2021	2022	2023
大腸ポリープ切除術	683	674	750
胃, 十二指腸ポリープ切除術	8	10	12
胃, 十二指腸早期悪性腫瘍切除術	42	56	42
食道早期悪性腫瘍切除術	13	26	27
経皮的胃瘻造形術	41	38	33

呼吸器内科

	2021	2022	2023
気管支ファイバー	131	152	201
超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法	25	27	28

血液内科

	2021	2022	2023
骨髄採取		2	
造血幹細胞移植	6	9	9
同種骨髄移植	2	2	
同種末梢血幹細胞移植		2	
※臍帯血移植			2
自家末梢血幹細胞移植	4	5	7

心臓内科

	2021	2022	2023
心臓カテーテル検査	636	503	444
経皮的冠動脈形成術（症例数）	202	204	229
経皮的カテーテル心筋焼灼術	200	207	267
ペースメーカー（ICD,CRT,CRTDを含む）移植術, 交換術	101	109	82
植込型除細動器移植術（ICD）	4	4	4
心室再同期療法（CRT,CRTD）	3	5	6
経皮的腎動脈形成術	2	0	2
経皮的大動脈弁拡張術	4	1	1

脳神経内科

入院統計

	2021	2022	2023
新入院患者数（件）	432	319	309
平均在院日数（日）	17.6	17.9	17.5

疾患別内訳

	2021	2022	2023
脳血管障害	316	2022年度～は 脳卒中センター として統計	
脳出血			
虚血性脳血管障害	316		
rtPA 使用件数	18		
一過性脳虚血発作	15		
てんかん	27	20	23
髄膜炎・脳炎	14	13	23
末梢神経障害	4	31	17
変性疾患	13	6	12

脳卒中センター

急性期血管内治療延べ件数

	2021	2022	2023
経皮的脳血栓回収術	23	疾患別内訳へ	
経皮的脳血管形成術	13	19	8
経皮的頸動脈ステント留置術	18	23	29

疾患別内訳

	2022	2023
脳血管障害	516	528
脳出血（保存的加療）	85	77
脳出血（手術あり）	31	22
虚血性脳血管障害	82	66
rtPA 使用のみ	24	19
rtPA+ 経皮的脳血栓回収術	21	13
経皮的脳血栓回収術のみ	23	12
一過性脳虚血性発作	14	12

小児科

	2021	2022	2023
食物経口負荷試験実績	52	48	58
小児内視鏡検査			
上部消化管内視鏡	9	6	8
下部消化管内視鏡	2	3	4
※気管支鏡			18

外科／消化器外科

15歳以上	2021	2022	2023
デブリードマン 2. (100 ~ 3000 cm ²)			
ヘルニア手術 1. 腹壁癒痕ヘルニア	1	2	1
ヘルニア手術 2. 半月状線・白線ヘルニア, 腹直筋離開			
ヘルニア手術 3. 臍ヘルニア	3	2	2
ヘルニア手術 5. 鼠径ヘルニア	8	11	2
ヘルニア手術 6. 大腿ヘルニア	1		
ヘルニア手術 8. 骨盤部ヘルニア		1	
ヘルニア手術 9. 内ヘルニア		1	1
リンパ節群郭清術 7. 後腹膜			1
リンパ節生検	4	3	
リンパ節摘出術 1. 長径 3cm 未満	3	2	1
リンパ節摘出術 2. 長径 3cm 以上		1	1
ロボ胸腔鏡食道悪性腫瘍術 (頸・胸・腹部)	13	11	12
ロボ腹腔鏡下胃切除術 2. (悪性腫瘍手術)	15	7	
ロボ腹腔鏡下胃切除術 3. (悪性腫瘍手術)		9	26
ロボ腹腔鏡下胃全摘術 (悪性腫瘍手術)	4	1	4
ロボ腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術			16
ロボ腹腔鏡下噴門側胃切除術 (悪性腫瘍手術)	4	9	9
ロボ腹腔鏡下直腸切除・切断術 (切除術)		2	6
ロボ腹腔鏡下直腸切除・切断術 (切断術)	4	6	2
ロボ腹腔鏡下直腸切除・切断術 (低位前方切除術)	17	16	24
胃局所切除術			
胃, 十二指腸憩室 (開腹)			
胃切開術			1
胃切除術 -1. 単純切除術			
胃切除術 -2. 悪性腫瘍	4	2	1
胃全摘術 1. 単純全摘			
胃全摘術 2. 悪性腫瘍	4	2	3
胃腸吻合術 (ブラウン手術を含む)	5	1	3
胃縫合術 (大網充填術又は被覆術含)		3	1

胃瘻造設術（経皮的内視鏡下造設含）	1	2	3
胃瘻閉鎖術（開腹）			
回腸（結腸）導管造設術	2		
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼（～2cm その他）			
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼（～2cm 腹腔鏡）	2		
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼（2cm～腹腔鏡）	1		
肝切除術（1区域切除（外側除）（1歳上）	1	3	3
肝切除術（2区域切除）（1歳以上）	2	2	2
肝切除術（3区域切除以上）（1歳以上）			
肝切除術（亜区域切除）（1歳以上）	1	1	
肝切除術（外側区域切除）（1歳以上）	2		
肝切除術（部分切除）（1歳以上）		1	3
肝切除術（部分切除・複数回）（1歳以上）	2	1	
肝縫合術			
肝門部胆管悪性腫瘍術2. 血行再建無			
急性汎発性腹膜炎手術	4	23	30
胸腔鏡下（腹腔鏡下含）横隔膜縫合術		1	
胸腔鏡下胸管結紮術（乳糜胸手術）	1		
胸腔鏡下試験開胸術		1	
胸腔鏡下膿胸腔搔爬術			
胸腔鏡食道悪性腫瘍術（頸・胸・腹部）	1		
経肛門の内視鏡下手術（直腸腫瘍）			
経尿道の尿管ステント留置術	1	1	
経皮的針生検法			
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術			
結腸腫瘍、結腸憩室摘出術			
結腸切除術1. 小範囲切除	10	11	4
結腸切除術2. 結腸半側切除	4	3	3
結腸切除術3. 全切除・亜全切除・悪	13	11	13
結腸瘻閉鎖術2. 腸管切除を伴う	1		1
限局性腹腔膿瘍手術3. 虫垂周囲膿瘍			
限局性腹腔膿瘍手術4. その他			1
後腹膜悪性腫瘍手術	1		
抗癌剤静脈注入カテーテル植込：3頭頸部	57		
骨盤内臓全摘術	1		
四肢切断術（大腿）			
子宮付属器腫瘍摘出術（両側）1. 開腹			
子宮付属器腫瘍摘出術（両側）2. 腹腔		1	
試験開腹術	11	20	5
痔核手術（脱肛含）1. 硬化療法			1
痔核手術3. 結紮焼灼，血栓摘出術			
痔核手術4. 根治手術			1

痔瘻根治手術 1. 単純なもの	1		1
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	2	2	
縦隔腫瘍，胸腺摘出術			
小腸腫瘍，小腸憩室摘出術（メッケル憩室炎手術を含む）			
小腸切除術 1. 悪性腫瘍手術以外の切除術	16	15	11
小腸切除術 2. 悪性腫瘍手術			
小腸瘻閉鎖術 2. 腸管切除を伴う			1
食道悪 2. 胸・腹部の操作によるもの			
食道切除後 2 次的再建術（消化管利用）			
食道切除再建術 1. 頸部胸部腹部操作			
食道切除術（単に切除のみ）			
食道縫合術（穿孔・損傷） 2. 開胸手術		1	
食道裂孔ヘルニア手術 1. 経胸又は経腹			1
人工肛門修整術 1. 開腹を伴うもの	1		
人工肛門修整術 2. その他のもの	1		
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加			
人工肛門造設加算（結腸切除術）	4	1	
人工肛門造設加算（直腸切除・切断術）	2	2	
人工肛門造設加算（腹腔鏡下直腸切除術）	4		
人工肛門造設加算 2（低位前方切除術）		2	2
人工肛門造設術	16	8	8
人工肛門閉鎖術 1. 腸管切除を伴わないもの			
人工肛門閉鎖術 2. 腸管切除を伴うもの	7	12	13
腎（尿管）悪性腫瘍手術			
腎摘出術			
創傷処理 1. 筋肉達する（5cm 未満）		2	
創傷処理 4. 筋肉達しない（5cm 未満）			1
創傷処理 5. 筋肉達しない（5～10cm 未満）			
総胆管胃（腸）吻合術			
大網切除術			
大網腸間膜		4	
大網，腸間膜，後腹膜摘出 1. 腸切除無			1
大網，腸間膜，後腹膜摘出 2. 腸切除有		1	1
胆管悪性腫瘍手術（その他）		1	
胆管切開結石摘出（胆嚢摘出含む）	1		1
胆管切開結石摘出 2. 胆嚢摘出含まず			
胆嚢悪性腫瘍手術（肝切（亜区域以上））			
胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢限・リンパ郭清）	3	3	
胆嚢外瘻造設術			
胆嚢摘出術	6	7	7
中心静脈栄養用植込型弁設置 1. 四肢			
中心静脈栄養用植込型弁設置 2. 頭頸部	26		2

虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍伴う）		2	
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍伴わない）			
腸管癒着症手術	11	15	13
腸重積症整復術 2. 観血的なもの			
腸切開術		1	
腸吻合術	5	10	6
腸閉鎖症手術 1. 腸管切除を伴わない			
腸瘻、虫垂瘻造設術		2	1
直腸異物除去術 1. 切除術			
直腸狭窄形成手術			
直腸周囲膿瘍切開術			
直腸腫瘍摘出術 1. 経肛門			
直腸切除・切断術 1. 切除	1	1	1
直腸切除・切断術 2. 低位前方切除		2	1
直腸切除・切断術 3. 超低位前方切除			
直腸切除・切断術 4. 切断	1		
直腸脱手術（経会陰（腸管切除を伴う））			
摘出術 1. 腸切除を伴わないもの			
内視鏡胆道結石除去 2. その他			
乳糜胸手術			
破裂腸管縫合術			2
皮膚切開術 1. 長径 10cm 未満			
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3cm 未満	3	3	
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3-6cm 未			2
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 6cm 以上			
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2-4cm 未満		1	
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2cm 未満			
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 4cm 以上	1	1	
皮弁作成術 2（25～100 cm ² ）			
副腎腫瘍摘出術 1. 皮質腫瘍			
腹腔・静脈シャントバルブ設置術		1	
腹腔鏡下ヘルニア手術（臍ヘルニア）			
腹腔鏡下ヘルニア手術（閉鎖孔ヘルニア）		1	
腹腔鏡下ヘルニア手術 1. 腹壁癒着ヘルニア	10		2
腹腔鏡下ヘルニア手術 2. 大腿ヘルニア	1		
腹腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合	3		3
腹腔鏡下胃局所切除術			
腹腔鏡下胃局所切除術（その他）			
腹腔鏡下胃局所切除術（内視鏡併施）	4	2	4
腹腔鏡下胃切除術 1.（単純切除術）			
腹腔鏡下胃切除術 2.（悪性腫瘍手術）	19	20	10
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）	4	3	

腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術）			
腹腔鏡下胃腸吻合術	6	4	3
腹腔鏡胃吊上げ固定術（胃下垂症）	2		
腹腔鏡下肝切除術 1. 部分切除			
腹腔鏡下肝切除術 2. 外側区域切除	3		2
腹腔鏡下肝切除術 3. 亜区域切除	2	1	
腹腔鏡下肝切除術 4. 1 区域切除（外側）	3		1
腹腔鏡下肝切除術 5. 2 区域切除			
腹腔鏡下肝切除術（部分切除・単回）	9	9	4
腹腔鏡下肝切除術（部分切除・複数）	4	1	
腹腔鏡下肝嚢胞切開術	4	1	2
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	57	54	30
腹腔鏡下結腸切除（小範囲，結腸半側）	8	7	2
腹腔鏡下結腸切除（全切除、亜全切除）			
腹腔鏡下後腹膜腫瘍摘出術	1	1	
腹腔鏡下試験開腹術	5	7	3
腹腔鏡下試験切除術	9	4	3
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡併施）			1
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術			
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍以外）	1	2	1
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術）			
腹腔鏡下食道アカラシア形成手術			
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	1		4
腹腔鏡下人工肛門造設術	14	16	8
腹腔鏡下人工肛門閉鎖術（悪性腫瘍に対する直腸切除術後）		1	
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	39	48	57
腹腔鏡下胆嚢摘出術	97	94	110
腹腔鏡下虫垂切除術（周囲膿瘍なし）	45	29	23
腹腔鏡下虫垂切除術（周囲膿瘍伴う）	6	19	9
腹腔鏡下腸管癒着剥離術	4	1	1
腹腔鏡下直腸切除切断術（切除術）	1	3	2
腹腔鏡下直腸切除切断術（切断術）	2		
腹腔鏡下直腸切除切断術（低位前方切除術）	4	1	
腹腔鏡下直腸脱手術		3	5
腹腔鏡下尿管摘出術	2	1	1
腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術	1		1
腹腔鏡下副腎摘出術			
腹腔鏡下噴門形成術	1		
腹腔鏡噴門側胃切除術（悪性腫瘍）	3		
腹腔鏡下脾摘出術		2	1
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術			
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除（脾温存）			

腹腔鏡結石摘出 1. 胆嚢摘出含む	2	1	
腹腔鏡結石摘出 2. 胆嚢摘出含まず			
腹腔鏡噴門側胃切除術（悪性腫瘍切）			
腹腔膵体尾部腫瘍切除術（脾同時切）	2		1
腹壁腫瘍切開術			1
腹壁腫瘍摘出術 1. 形成術不必要	1		
腹壁瘻手術 1. 腹壁に局限するもの			
噴門形成術			
噴門側胃切除術 1. 単純切除術			
噴門側胃切除術 2. 悪性腫瘍切除術	1		1
肛門形成術 1. 肛門狭窄形成術			
肛門形成術 2. 直腸粘膜脱形成手術	1		
肛門周囲膿瘍切開術		2	1
肛門良性腫瘍・肛門ポリープ・肛門尖圭	1		1
両側方郭清加算 5（切断術）		1	
卵管全摘除術（両側）（開腹）			
裂肛又は肛門潰瘍根治手術			
脾摘出術			
膀胱悪性腫瘍術 6. 経尿道（電解質溶）			
膀胱腸瘻閉鎖術			
膀胱壁切除術	1		
膵全摘術			
膵体尾部腫瘍切除術 1 膵尾イ. 脾同時切除			2
膵体尾部腫瘍切除術 1 膵尾ロ. 脾温存			
膵体尾部腫瘍切除 3. 周辺臓器合併		2	
膵体尾部腫瘍切除術 2. リンパ節・神経	2	3	2
膵頭部腫瘍切除術 1. 膵頭十二指腸切			
膵頭部腫瘍切除術 2. リンパ節・神経		6	3
膵頭部腫瘍切除術 3. 周辺臓器		1	
膵頭部腫瘍切除術 4. 血行再建			2
合 計	707	625	568

脳神経外科

		2021	2022	2023
従来型直達手術	頭蓋内腫瘍摘出術	27	12	14
	脳動脈瘤クリッピング術	7	5	10
	脳動静脈奇形摘出術	3		
	硬膜動静脈ろう直達術			1
	脳血管吻合術	7	12	4
	内頸動脈血栓内膜剥離術	2	5	1
	頭蓋内血腫除去術	1. 硬膜外	2	3

		2. 硬膜下	3	8	10
		3. 脳内	7	13	10
	減圧開頭術		8	4	1
	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術		45	47	49
	穿頭脳室ドレナージ術		4	7	5
	脳室腹腔短絡術（水頭症手術）		18	25	18
	脳膿瘍排膿術，摘出術		1		
	微小神経血管減圧術		1	2	5
	★機能			1	
	脊椎脊髄手術			8	8
	頭蓋骨形成手術		3	2	3
	その他		3	7	10
	小計		141	161	150
脳血管内手術	脳動脈瘤塞栓術		15	18	24
	脳動静脈奇形硬膜動静脈ろう塞栓術		2	1	5
	頸動脈ステント留置術		23	24	28
	経皮的脳血管形成術		9	19	13
	機械的脳血栓回収術		30	33	24
	栄養血管塞栓術		3	2	4
	その他		1	2	
	小計		83	99	106
神経内視鏡手術	内視鏡下腫瘍摘出術		1		
	内視鏡下脳内血腫除去術		10	12	12
	脳室開窓術（水頭症手術）		3		3
	小計		13 (14)	12	15
	合計		237	272	271

★ 2022 年から追加しました

形成外科

	2021						計
	入院手術			外来手術			
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
I. 外傷	66		3			13	82
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で 全身管理を要する非手術例	/						
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	22		3			1	26
顔面軟部組織損傷	1					1	2
顔面骨折	14						14
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷	27					11	38
下肢の外傷	2						2

外傷後の組織欠損（2次再建）						0
II. 先天異常	20					20
唇裂・口蓋裂	3					3
頭蓋・顎・顔面の先天異常	10					10
頸部の先天異常						0
四肢の先天異常	5					5
体幹（その他）の先天異常	2					2
III. 腫瘍	82		3			153
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	68		1			144
悪性腫瘍	11		2			9
腫瘍の続発症						0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）	3					3
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）						0
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1					11
V. 難治性潰瘍	6		5			1
褥瘡						0
その他の潰瘍	6		5			1
VI. 炎症・変性疾患	4		2			8
VII. 美容（手術）						0
VIII. その他	10		4			5
Extra. レーザー治療						0
良性腫瘍でのレーザー治療例						0
美容処置でのレーザー治療例						0
合計	189	0	17	0	0	191
						397

	2022						計
	入院手術			外来手術			
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
I. 外傷	42		6			14	62
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で 全身管理を要する非手術例	/						
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	10		2				12
顔面軟部組織損傷						3	3
顔面骨折	10						10
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷	16		3			10	29
下肢の外傷	6		1			1	8
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	12		1			1	14
唇裂・口蓋裂	5						5
頭蓋・顎・顔面の先天異常	4		1			1	6
頸部の先天異常							0

四肢の先天異常	3						3
体幹（その他）の先天異常							0
Ⅲ. 腫瘍	57		11			128	196
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	43		5			120	168
悪性腫瘍	14		5			8	27
腫瘍の続発症			1				1
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
Ⅳ. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2						2
Ⅴ. 難治性潰瘍			3				3
褥瘡							0
その他の潰瘍			3				3
Ⅵ. 炎症・変性疾患	9		4			8	21
Ⅶ. 美容（手術）							0
Ⅷ. その他	2		12			2	16
Extra. レーザー治療							0
良性腫瘍でのレーザー治療例							0
美容処置でのレーザー治療例							0
合 計	124	0	37	0	0	153	314

	2023						計
	入院手術			外来手術			
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
Ⅰ. 外傷	5					4	9
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で 全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	3						3
顔面軟部組織損傷						1	1
顔面骨折	1						1
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷	1					2	3
下肢の外傷						1	1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
Ⅱ. 先天異常	3					1	4
唇裂・口蓋裂							0
頭蓋・顎・顔面の先天異常	1						1
頸部の先天異常							0
四肢の先天異常	1					1	2
体幹（その他）の先天異常	1						1
Ⅲ. 腫瘍	14					105	119
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	13					103	116
悪性腫瘍	1					2	3

	腫瘍の続発症						0
	腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）						0
	腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）						0
IV.	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1				1	2
V.	難治性潰瘍					3	3
	褥瘡					1	1
	その他の潰瘍					2	2
VI.	炎症・変性疾患	2				2	4
VII.	美容（手術）						0
VIII.	その他					2	2
	Extra. レーザー治療						0
	良性腫瘍でのレーザー治療例						0
	美容処置でのレーザー治療例						0
	合 計	25	0	0	0	0	118
							143

皮膚科

		2021	2022	2023	
入院患者	湿疹・皮膚炎群	2	2	8	
	尋麻疹・痒疹・皮膚そう痒症				
	紅斑症・紫斑・血管炎・血行障害				
	物理・化学的皮膚障害・壊疽	14	21	26	
	中毒疹・薬疹	3	3	4	
	炎症性角化症・非炎症性角化症				
	水疱症および膿疱症	9	12	19	
	紅皮症				
	膠原病	1	3		
	代謝異常症				
	上皮性良性腫瘍	4	16	17	
	上皮性悪性腫瘍	24	56	48	
	非上皮性良性腫瘍	3	11	9	
	非上皮性悪性腫瘍	4	8	6	
	毛髪・爪甲疾患	15	12	10	
	細菌性疾患	16	18	26	
	ウイルス性疾患	5	11	14	
その他	1	4	16		
合 計		101	177	203	
手術名	創傷処理	2	3	2	
	皮膚切開術	21	23	23	
	皮膚，皮下腫瘍摘出術，血管腫摘出術	115	147	152	
	皮膚悪性腫瘍切除術	1. 広汎切除			
		2. 単純切除	39	56	67

	陥入爪手術	8	6	4
	その他		8	3
合 計		185	243	251

耳鼻いんこう科

	2021	2022	2023
皮膚皮下腫瘍摘出術			2
外耳道異物除去術	2	3	
先天性耳瘻管摘出術			
鼓膜切開術	28	39	48
鼓膜チューブ挿入術	39	47	33
鼓膜形成手術	3	9	8
鼓室形成手術	4	6	2
鼻腔粘膜焼灼術	4	17	2
下甲介レーザー手術	2		
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型	2	1	4
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型	2	4	9
鼻中隔矯正術		1	2
咽頭異物摘出術	1	2	2
アデノイド切除術		3	2
口蓋扁桃手術	18	42	37
気管切開術	5	4	3
声帯ポリープ・結節切除術	2	5	1
喉頭悪性腫瘍手術	1	1	2
気切口閉鎖術			1
喉頭気管分離術		1	2
耳下腺腫瘍摘出術	1	1	3
甲状腺部分切除術, 甲状腺腫摘出術		2	7
甲状腺悪性腫瘍手術	3	1	6
頸部郭清術	9	5	3
頸部リンパ節摘出術	5	8	5
内視鏡下鼻中隔手術Ⅱ型(粘膜手術)	35	31	25
内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型(下鼻甲介手術)	2	2	1
顎下腺摘出術		2	1
頸部良性腫瘍手術		1	
扁桃周囲膿瘍切開術		1	1
深頸部膿瘍切開術		2	2
内視鏡的粘膜下層剥離術	5	6	6
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型	4	9	10
胃瘻造設術	1		
上顎洞根治手術	2		1

鼻副鼻腔腫瘍摘出術	1		
外耳道腫瘍手術	1		2
外耳道異物除去術	2	2	
◎喉頭腫瘍摘出術		1	1
◎舌腫瘍摘出術		1	1
◎舌悪性腫瘍手術		1	
◎副咽頭間隙腫瘍摘出術		1	1
◎内視鏡下鼻・副鼻腔手術 I 型		1	
◎内視鏡下鼻中隔手術 I 型（骨・軟骨手術）		4	
●鼻骨骨折整復固定術			6
●食道憩室切除術 1. 頸部手術による			1
●デブリードマン（100 cm ² 未満）			1
●組織試験採取，切採法			1
合 計	184	267	245

◎ 2022 から集計開始

● 2023 から集計開始

整形外科

	2021	2022	2023
創外固定器使用加算			
複雑骨折創外固定器使用加算			
★緊急整復固定加算（骨折観血的手術）			5
一時的創外固定骨折治療術	8	14	9
アキレス腱断裂手術	9	6	6
アキレス腱縫合術			
ガングリオン摘出術（足）		2	
※ガングリオン摘出術（手）		1	
★ガングリオン摘出術 2. その他			1
デブリードマン 1.（100 cm ² 未満）	3	1	
デブリードマン 2.（100 ～ 3000 cm ² ）	3	1	
深部デブリードマン加算	1	1	
デュピイトレン拘縮手術 1. 1 指			
デュピイトレン拘縮手術 2. 2 指から 3 指			
デュピイトレン拘縮手術 3. 4 指以上			
化膿性・結核関節清掃術（膝）		1	2
化膿性・結核関節清掃術（肩）		1	1
化膿性・結核関節清掃術（足）			1
観血整復固定インプラント周囲（大腿）	1	1	2
★観血整復固定インプラント周囲（前腕）			1
観血的関節固定術（指）[刻み]		1	2
観血的関節固定術（手）		1	1

観血的関節固定術（足）	1	2	2
観血的関節授動術（指）[刻み]			1
観血的関節授動術（膝）			
観血的関節授動術（肘）			
非観血的関節授動術（膝）			
観血的関節制動術（肩）			1
関節鏡下関節授動術（肘）	1		
関節鏡下関節授動術（膝）		1	
関節滑膜切除術（関節鏡下）（肩）	1	1	
関節滑膜切除術（関節鏡下）（膝）	26	5	6
※関節鏡下関節滑膜切除術（足）		2	1
関節鏡下関節滑膜切除術（肘）	3	1	2
★関節鏡下関節滑膜切除術（股）			2
関節滑膜切除術（膝）			
関節滑膜切除術（手）			
膝蓋骨滑液嚢切除			
※関節鏡下滑液膜摘出術（足）		1	
★関節鏡下滑液膜摘出術（膝）			1
関節鏡検査（片側）	5	5	7
関節形成手術（手）	2	2	3
関節形成手術（膝）			
関節形成手術（指）[刻み]	1		
内反足手術	1		1
関節鏡下関節鼠摘出手術（足）		1	
関節鼠摘出手術（関節鏡下）（膝）		4	1
関節鼠摘出手術（関節鏡下）（肘）		1	1
関節鼠摘出手術（肘）	2		1
関節鏡下関節内骨折観血の手術（肩）	1		
関節鏡下関節内骨折観血の手術（膝）		1	1
関節鏡下関節内骨折観血の手術（足）	1		
関節鏡下肩関節唇形成術			
関節鏡下肩関節唇形成術（腱断裂件ない）	9	4	4
関節鏡下肩腱板断裂手術（簡単）	10	13	11
関節鏡下肩腱板断裂手術（複雑）			2
※肩腱板断裂手術（簡単）		1	
関節脱臼観血の整復術（肩）		1	
関節脱臼観血の整復術（肩鎖）	1	1	1
関節脱臼観血の整復術（肘）			
関節脱臼観血の整復術（股）		1	
関節脱臼観血の整復術 2.（足）	1		
関節脱臼観血の整復術（手）	1		
※関節脱臼非観血の整復術 3.（手指）		1	

※関節脱臼靦血の整復術（指）[刻み]		1	
関節脱臼非靦血の整復術 1.（股）			1
関節脱臼非靦血の整復術（肘）			
関節脱臼非靦血の整復術（足）			
関節脱臼非靦血の整復術 1.（肩）	1		
関節内異物（挿）除去術（鏡下 / 膝）	1		
関節内異物（挿入物）除去術（肘）	1		
関節内異物（挿入物）除去術（膝）	3		1
関節内骨折靦血の手術（肩）	2		
関節内骨折靦血の手術（指）[刻み]		2	1
関節内骨折靦血の手術（手）	1	1	
関節内骨折靦血の手術（足）	2	3	1
関節内骨折靦血の手術（膝）	4	2	6
関節内骨折靦血の手術（肘）	3	7	4
関節内骨折靦血の手術（股）	1		
肩甲関節周囲沈着石灰摘出術（関節鏡下）	1		
偽関節手術（下腿）			1
偽関節手術（指）			
偽関節手術（上腕）	2		
偽関節手術（大腿）			1
偽関節手術（前腕）	1		
※偽関節手術（手舟状骨）		2	1
※偽関節手術（その他）		2	1
※偽関節手術（手（舟状骨除く））		1	
★偽関節手術（鎖骨）			1
※関節切開術（指）		1	2
筋膜切離術	1		
筋切離術	1	1	
筋膜切開術	1		
筋肉内異物摘出術			
手掌異物摘出術			
血管移植術，バイパス移植術 2. 胸腔内			
※股関節周囲筋腱解離術（変形股関節）		1	
股関節筋群解離術		1	1
骨移植術 1. 自家骨移植	53	59	67
骨移植術 2. 同種骨移植（生体）	1		1
骨移植術 2. 同種骨移植（非生体）	27	33	29
※骨腫瘍切除術（手）		2	
骨腫瘍切除術（指）			1
骨腫瘍切除術（大腿）			
※骨腫瘍切除術（下腿）		4	1
※骨腫瘍切除術（足）		1	

骨腫瘍切除術（上腕）	1		
骨髓炎・骨結核手術（足その他）			
骨髓炎・骨結核手術（大腿）			
骨切り術（下腿）	20	5	3
骨切り術（指）			
骨切り術（前腕）			
骨切り術（足）	1		1
骨切り術（その他）			
※脛骨近位骨切り術		8	6
骨折観血的手術（その他）	1	1	2
骨折観血的手術（下腿）	32	32	27
骨折観血的手術（鎖骨）	7	9	10
骨折観血的手術（指）	7	10	6
骨折観血的手術（手舟状骨を除く）	4	2	7
骨折観血的手術（手舟状骨）	3	2	
骨折観血的手術（上腕）	19	26	28
骨折観血的手術（前腕）	56	49	38
骨折観血的手術（足）	21	14	3
骨折観血的手術（大腿）	76	68	70
骨折観血的手術（膝蓋骨）	6	9	12
骨折観血的手術（寛骨臼）			
※骨折観血的手術（肩甲骨）		1	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（下腿）	1	1	
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指）	18	15	22
骨折経皮的鋼線刺入固定術（手）	2	3	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（上腕）	6	9	3
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	7	7	4
骨折経皮的鋼線刺入固定術（足）	2	1	1
骨折観血の整復術（頬骨）			
骨折非観血の整復術 1.（大腿）			
骨折非観血の整復術 2.（下腿）			
骨折非観血の整復術 3.（鎖骨）	1		
骨折非観血の整復術 3.（手）			
骨穿孔術	2	1	3
骨搔爬術（大腿）			
※骨搔爬術（下腿）		1	1
※骨搔爬術（手）		1	
骨搔爬術（足その他）			1
異物除去			
※足底異物摘出術		1	
骨内異物（挿入物）除去術（その他）	1		
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	20	39	33

骨内異物（挿入物）除去術（肩甲骨）			
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	6	3	3
骨内異物（挿入物）除去術（指）	3	3	5
骨内異物（挿入物）除去術（手）	3	1	4
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	4	6	5
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	21	15	21
骨内異物（挿入物）除去術（足）	5	5	7
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	3	8	3
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	2	7	8
※骨部分切除術（手）		1	1
※骨部分切除術（指）		1	
骨部分切除術（大腿）			
骨部分切除術（足）	2	1	3
※骨部分切除術（下腿）		2	
骨部分切除術（その他）			
四肢ギプスシーネ（上肢（片方））	2	4	1
四肢ギプスシーネ（下肢（片方））	1	5	
四肢ギプスシーネ（足）（片側）		3	1
四肢ギプス包帯（手指及び手）			
※四肢ギプス包帯（半肢）（片方）		1	
※四肢ギプス包帯（上肢）（片方）		1	
※四肢ギプス包帯（下肢）（片方）		1	4
四肢関節離断（股）			
★四肢関節離断術 指（手，足）[刻み]			1
四肢切断術 指（手，足）[刻み]	4		
四肢切断術（下腿）	2	3	2
四肢切断術（大腿）	5	11	3
四肢切断術（前腕）			
四肢切断術			
※四肢切断術（足）		1	
※四肢軟部腫瘍摘出 1.（大腿）		1	
四肢軟部腫瘍摘出術 1.（下腿）		1	1
四肢軟部腫瘍摘出術 1.（肩）			1
四肢軟部腫瘍摘出術 1.（前腕）	1		
四肢軟部腫瘍摘出術 2.（手）		1	
四肢軟部腫瘍摘出術 2.（足）			2
★四肢軟部腫瘍摘出術 1.（躯幹）			1
指伸筋腱脱臼観血的整復術	1		
手根管開放手術	28	28	20
手根管開放手術（関節鏡下）	6	3	6
神経移行術	3	1	3
神経剥離術（その他）	4	7	4

神経縫合術 2. その他のもの	1		1
人工関節再置換（股）			
人工関節再置換（膝）	3		3
人工関節置換術（股）	26	28	40
人工関節置換術（膝）	50	69	82
人工関節置換術（肩）		2	2
人工関節置換術（足）			
人工関節抜去術（股）	1	1	1
人工骨頭挿入術（股）	39	26	34
人工骨頭挿入術（肘）	1		
人工骨頭挿入術（肩）	1	1	
靭帯断裂形成（関節鏡）（十字靭帯）	26	18	25
靭帯断裂形成（関節鏡）（膝側副靭帯）	1		
靭帯断裂形成手術（関節鏡下）（内側膝）		1	
靭帯断裂形成手術（膝側副靭帯）		1	
靭帯断裂形成手術（その他の靭帯）	5	4	2
靭帯断裂形成手術（十字靭帯）	2	1	
靭帯断裂縫合術 1. 十字靭帯			
※靭帯断裂縫合術 2. 膝側副靭帯	2		
靭帯断裂縫合術 3. 指（手，足）	2		3
靭帯断裂縫合術（その他靭帯）	1		
靭帯断裂縫合術（関節鏡下）（十字靭帯）			
靭帯断裂縫合術（関節鏡下）（その他）			
靭帯修復術			
髄液漏閉鎖術			
脊髄硬膜切開術			
脊髄腫瘍摘出術 1. 髄外のもの			
★脊椎悪性腫瘍手術			1
脊椎・骨盤脱臼観血的手術			
脊椎・骨盤内異物（挿入用）	5	9	7
骨盤骨折観血的手術（腸骨翼骨折を除く）	1	3	4
脊椎固定術（後方椎体固定）	19	40	60
脊椎固定術（後方又は後側方固定）	11	3	4
脊椎固定術（前方椎体固定）	2	1	
脊椎固定術，椎弓切除・形成術（形成）	1	3	1
脊椎固定術，椎弓切除・形成術（切除）	39	35	35
多椎間多椎弓加算（椎弓形成）	14	22	24
多椎間多椎弓加算（後方後側方固定）	49	48	27
多椎間多椎弓加算（椎弓切除）	40	56	64
多椎間多椎弓加算（前方椎体固定）			
多椎間多椎弓加算（後方椎体固定）	1	2	5
※頚椎の非観血的整復術（全麻，牽引）		2	3

黄色靱帯骨化症手術		1	
経皮的椎体形成術			1
※寛骨臼骨折靱血の手術		1	1
仙腸関節脱臼靱血の手術	1	3	
腸骨翼骨折靱血の手術			
椎間板摘出術 2. 後方摘出術	37	31	28
椎間板摘出術 3. 側方摘出術			
※体外式脊椎固定術		2	1
先天性股関節脱臼ギブス包帯			
先天性股関節脱臼靱血の整復術			
全層, 分層植皮術 1. (25 cm ² 未満)			
創傷処理 1. 筋肉達する (5cm 未満)	11	5	7
創傷処理 3. 筋肉達する (10cm 以上)	6	4	5
創傷処理. 筋肉達する (20cm ~ 頭頸部)			
★創傷処理 2 (筋肉達する・5cm 未満, 深)			4
創傷処理 2 (5 ~ 10cm, 深)	5	5	
創傷処理 3 (10cm 以上, 深)			
創傷処理 4 (5cm 未満, 浅)	3	2	3
※創傷処理 5 (5 ~ 10cm, 浅)		3	4
創傷処理 6 (10cm 以上, 浅)	1	1	
※創傷処置 (100 平方 cm 未満)		2	
第一足指外反症矯正手術	4	3	6
断端形成術 (要骨形成) (手指)			
断端形成術 (骨形成) (手指)			1
断端形成術 (骨形成) (足指)			
断端形成術 (要骨形成) (その他)			
断端形成術 (軟部形成) (足指) [刻み]	2		
半月板切除術 (関節鏡下)	11	29	23
半月板縫合術	2		
半月板縫合術 (関節鏡下)	18	32	32
皮膚切開術 1. 長径 10cm 未満		3	1
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3-6cm 未満	2	1	
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3cm 未満			
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 12cm 以上		1	
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2-4cm 未満		2	
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2cm 未満			1
皮膚皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径 4cm 以上)	2		1
変形治癒骨折矯正手術 (前腕)			1
変形治癒骨折矯正手術 (指)	1	1	
※指伸筋腱脱臼靱血の整復術		1	
腱移行術 1. 指 (手, 足)	1	3	4
★腱移植術 1. 指 (手, 足)			2

腱移行術 2. その他のもの	1		
腱移植術 2. その他のもの			
腱延長術		1	1
※腱剥離術（関節鏡下含む）		1	
腱鞘切開術		1	
腱鞘切開術（関節鏡下含む）	5	14	17
腓骨筋腱腱鞘形成術	1	3	
※腱滑膜切除術		1	1
腱切離術・腱切除術（関節鏡下による）	3		2
腱縫合術	2	5	5
腱縫合術（指）		1	
★手掌屈筋腱縫合術			1
組織試験採取切採（筋肉）			
組織試験採取切採（骨）	1		
※動脈塞栓除去術 2. その他（観血的）		1	
※画像等手術支援加算（ナビゲーション）		23	135
★脊髄誘発電位測定等加算（モニタリング）			15
合 計	1,082	1,207	1,310

2022 年より※の術式が増えました

2023 年より★の術式が増えました

心臓血管外科

		2021	2022	2023
1) 心・脈管	心膜縫合術			
	心筋縫合止血術（外傷性）			
	心膜嚢胞，心膜腫瘍切除術			
	収縮性心膜炎手術			1
	試験開心術	5	4	2
	心腫瘍，心腔内粘液腫摘出術	1	1	
	冠動脈大動脈バイパス移植術	33	36	26
	冠大動脈バイパス人工心肺不使用	17	22	14
	左室形成術・心室中隔穿孔閉鎖術・左室自由壁修復術	2		2
	弁形成術	13	18	13
	弁置換術	35	29	38
	大動脈弁下狭窄切除術			2
	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む）	39	35	22
	ステントグラフト内挿術	22	37	32
	動脈管開存症手術	2		
	心房中隔欠損閉鎖術		1	1
	心室中隔欠損閉鎖術			

	冠動静脈瘻開胸的遮断術			
	肺動脈塞栓除去手術			
	不整脈手術（メイズ）	13	12	9
	ペースメーカー移植術			
	心・脈管その他		1	3
2) 動脈・静脈・リンパ	上腕動脈表在化法			
	内シャント血栓除去術	17	15	11
	動脈血栓内膜摘出術	3	4	9
	動脈形成術，吻合術	7	5	5
	内・外シャント設置術	56	68	58
	四肢の血管吻合術	3	2	2
	血管移植術，バイパス移植術	21	15	25
	四肢の血管拡張術，血栓除去術	120	61	63
	下肢静脈瘤手術	20	29	20
	動脈・静脈・リンパ その他	18	21	24
	合 計	447	416	382

呼吸器・乳腺・内分泌外科

		2021	2022	2023
0) 皮膚，皮下，その他				
1) 甲状腺，上皮小体， 頸部	甲状腺部切除，甲状腺腫摘出	6	5	6
	甲状腺悪性腫瘍手術	10	9	17
	上皮小体腺腫過形成手術	4	6	1
	パセドウ甲状腺全摘術	1	1	1
	甲状腺，上皮小体，頸部その他	5		
2) 乳腺	乳腺腫瘍摘出術	10	4	4
	乳房切除術			
	乳腺悪性腫瘍手術	50	56	59
	乳腺その他	3		2
3) 胸壁，胸腔，胸膜， 縦隔，気胸，肺， 横隔膜，手掌多汗 症	胸壁膿瘍切開術			
	胸骨切除，胸骨骨折観血手術			
	胸壁悪性腫瘍摘出術			
	胸壁腫瘍摘出術			
	漏斗胸手術	3		
	試験開胸術	1		1
	胸郭形成手術（膿胸手術）	1		3
	※膿胸胸膜胼胝切除術（膿胸手術）			1
	※胸腔鏡下膿胸胸膜・胸膜胼胝切除術 （膿胸手術）			4
	縦隔腫瘍，胸腺摘出術	1	1	
	縦隔悪性腫瘍手術	4	9	

	肺切除術	1		
	胸腔鏡下肺切除術	16	21	18
	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	1	3	
	※胸腔鏡下悪性縦隔腫瘍手術			5
	胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術	2		1
	胸腔鏡下肺縫縮術	3	8	3
	肺悪性腫瘍手術	8	12	24
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	59	84	93
	肺縫縮術			
	気管支形成手術			
	胸部交感神経節切除術	8	4	3
	胸壁, 胸腔, 胸膜, 縦隔, 気胸, 肺, 横隔膜, その他	5	13	4
4) 動脈・静脈・リンパ	リンパ節摘出術	24	19	7
	合 計	226	255	257

※ 2023 年より新設しました

泌尿器科

	2021	2022	2023
腹腔鏡下副腎摘除術	3	3	4
腹腔鏡下根治的腎摘除術	6	8	45
根治的腎摘除術（開放手術）	2	1	
ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	3	5	11
腹腔鏡下腎部分切除術		1	
腎部分切除術（開放手術）	2	1	
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	9	8	7
腎尿管全摘除術（開放手術）			
膀胱全摘除術（開放手術）	11	9	5
腹腔鏡下膀胱全摘除術			
経尿道的膀胱腫瘍切除術	90	76	73
腹腔鏡下尿管管摘出術	1	2	
ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術	21	20	19
根治的前立腺全摘除術	1	1	1
陰茎部分切除術			1
高位精巣摘除術	2	6	5
経皮的尿路結石除去術	5	3	1
経尿道的尿路結石碎石術（レーザー）	45	44	41
経尿道的膀胱結石碎石術	8	13	15
経尿道的前立腺レーザー核出術	24	31	19
経尿道的前立腺切除術	1	4	1
経皮的腎瘻造設術	9	6	4

経尿道的尿管ステント留置術	71	55	46
膀胱瘻造設術	2	5	4
尿失禁手術（ボツリヌス毒素）		4	6
尿失禁手術（TOT 手術）		2	3
精巣捻転手術	3	5	4
合 計	319	313	315

産婦人科

手術統計

	2021	2022	2023
開腹手術	105	91	88
子宮附属器悪性腫瘍（卵巣癌）手術	12	18	19
広汎子宮全摘術	8	2	1
準広汎（拡大）子宮全摘術	11	20	19
単純子宮全摘術	46	33	29
子宮筋腫核出術	4	1	4
附属器手術	22	15	11
その他	2	2	5
腹腔鏡下	70	106	142
子宮全摘術	16	37	51
筋腫核出術	4	5	10
附属器手術（異所性妊娠手術を含む）	50	64	75
その他			6
ロボット支援下			
子宮全摘術			8
腔式・その他	177	141	173
子宮脱手術	8	8	8
円錐切除術	67	35	62
子宮鏡下手術・検査	68	70	69
その他 非開腹手術	34	28	34

生殖医療統計

	2021	2022	2023
不妊症例	114	141	167
妊娠数	33	51	66
流産数	8	8	18
ART 治療周期総数	219	296	379
AIH（人工授精）	51	87	57
IVF（体外受精）	11	14	11
ICSI（顕微授精）	69	112	178
F/T（凍結融解胚）	88	83	133

採卵周期総数		80	126	189
	IVF	11	14	11
	ICSI	69	112	178
移植周期総数		96	94	133
	IVF		2	
	ICSI	8	9	
	F/T	88	83	133
全胚凍結周期		68	72	103
余剰胚凍結周期				
ART 妊娠総数		25	42	51
	AIH	5	6	2
	IVF			
	ICSI		2	
	F/T	20	34	49
ART 流産総数		7	7	16
	AIH		1	
	IVF			
	ICSI			
	F/T	7	6	16

眼 科

	2021	2022	2023
眼瞼内反症手術			
翼状片手術		2	7
眼球摘出術			
角膜縫合術			
光学的虹彩切除術		2	2
緑内障手術	5	4	3
網膜復位術	4	3	4
硝子体切除術	4	1	7
硝子体茎頭顕微鏡下離断術	84	93	79
白内障手術	199	279	293
眼内レンズ挿入術	194	274	288
増殖性硝子体網膜症手術			
硝子体注入術	335	372	525
その他	4	5	8
合 計	829	1,035	1,216

放射線科

①放射線治療

		2021	2022	2023
(1)原発	脳・脊髄	2		5
	頭頸部（甲状腺を含む）	11	5	8
	食道	8	11	15
	肺・気管・縦隔	32	23	28
	定位（体幹部（肺））	5	4	11
	うち肺	36	26	34
	乳腺	11	14	19
	肝・胆・膵	5	3	5
	胃・小腸・結腸・直腸	9	7	8
	婦人科	11	13	7
	泌尿器系	14	22	20
	うち前立腺	12	20	20
	造血器リンパ系	14	22	13
	皮膚・骨・軟部	4	3	9
	その他（悪性）			1
	良性	8	1	
	(2)転移	脳転移	12	9
定位（脳）		1	2	15
骨転移		33	61	55
その他		11	5	13
(3)高精度放射線治療	定位放射線治療（頭部（脳））	1	2	15
	定位放射線治療（体幹部（肺））	5	4	11
	定位放射線治療（体幹部（その他））			1
	IMRT		45	80
(4)特殊治療	ストロンチウム内用療法			
	ゼヴァリン内用療法			
	全身照射	1	4	6
	放射性ヨウ素内用療法（アブレーション治療）	7	5	3
	ラジウム治療	1	1	
	※ルタテラ治療		1	1
放射線治療合計		200	216	249

※ 2022 年より追加

②IVR & 血管造影

血管造影（診断のみ）	2021	2022	2023
(1)肝	1	1	1
(2)その他動脈	8	12	6
(3)その他静脈	1	3	5

(4) ドレーン造影		8	10	20	
血管造影合計		18	26	32	
IVR		2021	2022	2023	
(1)vascular	動注療法	8	18	10	
	動脈塞栓術	動脈瘤	7	9	
		内腸骨動脈	3		2
		血管奇形	2	5	1
		出血	42	47	34
		血流改変	11	12	11
		エンドリーク	8	6	2
	☆血管内ステント留置術	動脈（出血）			2
		動脈（血管形成術）			1
		大静脈			
	TACE	22	27	13	
	リザーバ留置術		1		
	PSE（部分的脾動脈塞栓術）				
	肝内門脈枝塞栓術（PTPE）				
	バルーン閉塞性逆行性静脈瘤塞栓術（BRTO）		2	1	
	静脈瘤塞栓術			1	
	血栓溶解療法			1	
	下大静脈フィルター留置術	1	2	1	
	血管内異物除去術	3		1	
	中心静脈ポート埋め込み術（四肢）	21	34	64	
	中心静脈ポート埋め込み術（頭頸部その他）			1	
	PICC	4	9	18	
	リンパ管造影	2	2	2	
静脈サンプリング	2	1	3		
その他	4	3	1		
(2)non-vascular	ステント留置術	胆道	4	1	1
		気道			1
	経皮経胆道ドレナージ（PTBD）	7	10	5	
	経皮経管胆嚢ドレナージ（PTGBD）	11	8	6	
	経皮的胆道内瘻術	4	2	2	
(3)CT(US)ガイド	CTガイド下肺生検	41	54	65	
	CTガイド下生検（その他）	25	29	26	
	CTガイド下マーキング	1		2	
	CTガイド下ドレナージ	43	44	43	
	CTガイド下治療（その他）	1		1	
	USガイド下ドレナージ	11	17	15	
IVR 合計		288	343	337	
血管造影 & IVR 合計		306	369	369	

☆ 2023 年より分類

③画像診断

		2021	2022	2023
画像診断	CT	21,889	22,621	22,691
	MRI	6,536	6,257	6,216
	RI	1,237	1,381	1,421
画像診断件数合計		29,662	30,259	30,328

麻酔科

		2021	2022	2023
麻酔科管理手術	症例数	2,833	2,962	2,951
	緊急手術	373	362	323
	全身麻酔	2,697	2,762	2,818
	術後硬膜外鎮痛症例	419	437	452
術前状態分類 (ASA)	1	525	501	516
	2	1,446	1,527	1,535
	3	474	544	539
	4	15	24	38
	5		12	
特殊な麻酔	心臓大血管麻酔	164	167	201
	分離肺換気	96	152	167
	開胸・開腹	16	14	17
	帝王切開	133	203	148
	新生児麻酔	4	2	2
	小児麻酔	89	89	99
	85歳以上	226	216	228

救急集中治療科

		2021	2022	2023
時間内 (8:30-17:00)	受診者数	3,415	3,313	3,300
	救命センター入院	329	318	345
	一般病棟入院	866	736	815
	帰宅	2,218	2,259	2,140
	CPAOA	28	52	49
	交通事故	81	94	118
	紹介	915	898	1,009
	救急車搬送数	1,498	1,372	1,328
	ヘリコプター搬送	118	168	133
時間外 (17:00-8:30, 休日)	受診者数	11,712	12,055	12,099
	救命センター入院	625	591	579
	一般病棟入院	1,732	1,608	1,729

	帰宅	9,352	9,856	9,791
	CPAOA	81	109	116
	交通事故	158	246	256
	紹介	953	1,014	1,035
	救急車搬送数	2,647	2,851	2,642
	ヘリコプター搬送	77	122	87
計	受診者数	15,127	15,368	15,399
	救命センター入院	954	909	924
	一般病棟入院	2,598	2,344	2,544
	帰宅	11,570	12,115	11,931
	CPAOA	109	161	165
	交通事故	239	340	374
	紹介	1,868	1,912	2,044
	救急車搬送数	4,145	4,223	3,970
	ヘリコプター搬送	195	290	220

歯科・口腔外科

入院手術	2021	2022	2023
外来全身麻酔	11	8	7
歯根端切除術	6	2	
歯根嚢胞摘出術	9	5	6
顎骨内異物除去術			
リンパ節摘出術		1	
頬粘膜腫瘍摘出術			
口底腫瘍切除術			1
上顎洞根治手術			
術後性上顎嚢胞摘出術			
埋伏歯抜歯術	65	45	
抜歯術（乳歯，前歯，臼歯）	70	18	22
難抜歯加算	14		
埋伏歯下顎完全・水平加算	40		61
口唇腫瘍切除術	1		
口蓋腫瘍切除術	3	2	1
舌腫瘍切除術	7		4
頬粘膜腫瘍摘出術	2		5
頬・口唇・舌小帯形成術	5	1	3
下顎骨折観血の手術	2	6	3
下顎骨非観血の整復固定術		1	1
上顎骨観血の整復固定術			
顎関節脱臼非観血の整復術		1	1
歯槽骨骨折観血の整復術			

除去・骨体固定金属板除去	2	4	4
唾石摘出術（深在性のもの+腺体内）		1	6
顎骨腫瘍摘出術	33	45	57
口腔内消炎術	3	4	1
上顎洞口腔瘻閉鎖術			
顎堤形成術	4	3	3
歯肉，歯槽部腫瘍手術			1
萌出困難歯開窓術	1		3
耳下腺腫瘍摘出術 1. 耳下腺浅葉			
舌繫痕痕性短縮矯正術	2		
骨移植術 1. 自家骨移植			
顎・口蓋裂形成手術（片側・顎裂）			
頬骨骨折観血的整復術	1		
下顎関節突起骨折観血の手術 1. 片側			1
顎関節形成術	1	1	
顎関節授動術（徒手的（パンピング併用））	1		
顎関節授動術（徒手的（関節腔洗浄療法を併用））	1	2	
顎関節脱臼観血の手術	2		
顔面多発骨折観血の手術			3
創傷処理		1	1
浮動歯肉切除術 3（全顎）			
歯肉，歯槽部腫瘍手術 軟組織	1	3	
歯肉，歯槽部腫瘍手術 硬組織	1		
がま腫摘出術			
顎骨のう胞開窓術			2
腐骨除去手術		1	3
口腔外消炎手術	3		
下顎骨形成術 2 短縮または伸長の場合	2	5	4
下顎骨形成術 3 再建の場合			3
下顎骨形成術 4 骨移動を伴う場合			
上顎骨形成術			
扁桃周囲膿瘍切開術			
皮弁作成術			
動脈（皮）弁術			
皮弁離断術			
分層植皮術 2.（25～100 cm ² ）			
粘膜移植術	1		
頬腫瘍摘出術			
顎関節開放授動術			
顎下腺腫瘍摘出術			
歯牙再植術			
歯の移植手術	2		

骨移植術 1. 自家骨移植	1		
広範囲顎骨支持埋入術	2		
下顎隆起形成術	4		2
口腔前庭拡張術			
歯槽骨整形手術・骨瘤除去術			
歯科インプラント摘出術（人工歯根）		1	1
上顎結節形成術（簡単なもの）	1		
外歯瘻手術	1	1	1
鼻前庭嚢胞摘出術		1	
その他			1
小 計	305	163	212
（悪性腫瘍）			
舌悪性腫瘍手術 1. 切除	3	9	5
舌悪性腫瘍手術 亜全摘			
下顎骨悪性腫瘍手術 1. 切除	3		6
下顎骨悪性腫瘍手術 2. 切断	1		
上顎骨悪性腫瘍手術 2. 切除	4	2	
頸部郭清術	3	5	4
口蓋悪性腫瘍切除術	1		1
口底悪性腫瘍切除術		2	1
口腔，顎，顔面悪性腫瘍切除術			
頬粘膜悪性腫瘍切除術		1	2
口唇悪性腫瘍切除術		2	1
顎下腺悪性腫瘍手術		2	
皮弁形成術		1	2
リンパ節群郭清術（頸部深在性）			2
リンパ節摘出術			2
小 計	15	24	26
合 計	320	187	238

外来手術	2021	2022	2023
がま腫摘出術			
がま腫切開術	2		
ヘミセクション		2	1
外歯瘻手術			
下顎隆起形成術		1	
下顎骨折観血的手術		1	1
下顎骨折非観血的整復術		1	
顎関節授動術（徒手の）	7	11	7
顎関節授動術（パンピングを併用した場合）	2	9	11
顎関節授動術（関節腔洗浄併用した場合）			1
顎関節脱臼非観血的整復術	12	8	9

顎骨腫瘍摘出術	11	6	4
顎骨内異物（挿入物を含む）除去術 （簡単なもの（手術範囲が全顎にわたる場合））	1	1	1
顎骨嚢胞開窓術	1	10	9
口蓋腫瘍摘出術 1（口蓋粘膜限局）	2	6	4
口蓋隆起形成術			
口腔外消炎手術（2～5cm未満）			1
口腔外消炎手術（2cm未満）			2
口腔外消炎手術（骨膜膿瘍, 皮下膿瘍, 蜂窩織炎等）（2cm未満）	4		
口腔底腫瘍摘出術			
口腔内消炎手術（智歯周囲炎の歯肉）		1	
口腔内消炎術（歯肉膿瘍等）	6	1	4
口腔内消炎術（骨膜膿瘍, 口蓋膿瘍）	23	33	21
口腔内消炎術（顎炎等 1/3 顎以上）		2	2
口腔内消炎術（顎炎等 1/3 顎未満）	1	6	2
口腔内軟組織異物除去術（深在性）			
口腔内軟組織異物除去術（浅在性）	4	4	1
口唇腫瘍摘出術 1. 粘液嚢胞摘出術	4	10	6
口唇腫瘍摘出術 2. その他のもの	3	2	6
広範囲顎骨支持埋入術（1回）	4	5	6
広範囲顎骨支持埋入術（2回 1次）	1		
広範囲顎骨支持埋入術（2回 2次）	3		
後出血処置	2	3	2
歯の移植手術	2	5	7
歯科インプラント摘出術（人工歯根）	1	3	2
歯牙再植術	5	13	2
歯根のう胞摘出手術（歯冠大）	12	23	23
歯根のう胞摘出手術（拇指頭大）	14	7	7
歯根端切除術 1	7	11	13
歯性扁桃周囲膿瘍切開手術			
歯槽骨骨折非観血的整復術（3歯以上）		1	
歯槽骨骨折観血的整復術		2	
歯槽骨整形手術, 骨瘤除去手術	3	6	8
歯肉, 歯槽部腫瘍手術 1 軟組織	11	7	11
歯肉, 歯槽部腫瘍手術 2 硬組織		1	2
小児創傷処理（6歳未満） （筋肉, 臓器に達しないもの（長径 2. 5cm未満））			
小児創傷処理 1（2. 5cm未満, 深）	1	2	1
小児創傷処理 2（2. 5～5cm, 深）			
上顎洞陥入歯牙の抜去（犬歯窩開さくにより行う場合）		1	
上顎洞口腔瘻閉鎖術（簡単なもの）		1	
上顎洞口腔瘻閉鎖術 2（困難）		1	2

舌腫瘍摘出術 1 (粘液のう胞)		1	3
舌腫瘍摘出術 2 (その他)	5	4	8
頬・口唇・舌小帯形成術	6	3	7
創傷処理 (デブリードマン加算)			
創傷処理 (筋肉, 臓器に達しないもの (長径 5cm 以上 10cm 未満))	1		1
創傷処理 (筋肉, 臓器に達しないもの (長径 5cm 未満))	3	8	6
創傷処理 (筋肉, 臓器に達するもの (長径 10cm 以上))			
創傷処理 (筋肉, 臓器に達するもの (長径 5cm 未満))	1	3	2
創傷処理 (筋肉, 臓器に達するもの (直径 5cm 以上 10cm 未満))		2	1
真皮縫合加算 (創傷処理)			
唾石摘出術 1 (表在性)	1	2	3
唾液腺膿瘍切開術			
乳歯抜歯	21	13	10
前歯抜歯	86	122	109
臼歯抜歯	319	356	384
難抜歯加算	94	120	148
埋伏歯抜歯	372	440	484
抜歯術 5. 埋伏歯下顎完全・水平加算	320	380	417
抜歯窩再搔爬手術		2	1
腐骨除去手術 (顎骨 1 / 3 以上)			
腐骨除去手術 (顎骨 1 / 3 未満)	3	1	2
腐骨除去手術 (歯槽骨に限局)	13	16	9
萌出困難歯開窓術	6	4	3
頬腫瘍摘出術 (その他の物)			
頬腫瘍摘出術 (粘液のう胞)			
頬粘膜腫瘍摘出術	2	8	5
顎堤形成術		1	1
口唇悪性腫瘍手術		2	
歯周外科手術			1
合 計	1,402	1,695	1,784

病理診断科

院内死亡数及び剖検率の推移

	2021	2022	2023
解剖数	4	10	6 (院内5/ 院外1)
死亡患者数	564	603	598
入院患者死亡数	450	431	447

外来死亡患者数	114	172	151
剖検率	0.71	1.65	0.83
死亡退院 剖検率	0.89	2.32	1.12
外来死亡 剖検率	0	0	0

※ 2023 年の剖検率は院内症例数で計算

【言葉の定義】

解剖数：当院で実施した病理解剖数

死亡患者数：死亡退院患者数および外来死亡患者数の合計

入院患者死亡数：死亡退院された患者数

外来死亡患者数：救命救急入院料を算定した外来死亡患者数
(CPA 患者の死亡患者数)

剖検率：解剖数 / 死亡患者数 × 100 (%)

死亡退院 剖検率：死亡退院の解剖数 / 入院患者死亡数 × 100 (%)

外来死亡 剖検率：外来死亡の解剖数 / 外来死亡患者数 × 100 (%)

2023 年診療科別剖検数

診療科	救急集中治療科	総合内科	呼吸器内科	腎臓内科	院外	合計
剖検数	2	1	1	1	1	6

救命救急センター

疾患別

	2021	2022	2023
重篤な脱水（消化管出血など）	10	14	24
脳血管障害	184	202	197
意識障害・痙攣など	49	58	37
呼吸不全	85	73	101
急性冠症候群 ACS	99	95	90
不整脈	35	21	15
心不全（心原性ショック含む）	77	83	81
急性中毒	25	21	12
ショック	93	94	114
代謝障害（腎不全含む）	42	38	46
重症熱傷	4	5	4
多発外傷	11	15	19
その他の外傷	160	143	151
重症感染症（敗血症など）	58	62	71
緊急治療を要する疾患	156	178	187
大動脈疾患	29	15	12
院外心肺停止	109	161	165
合計	1,226	1,278	1,326

(入室患者数のすべてではない)

処置別

	2021	2022	2023
脳血管外科手術	49	81	75
心臓血管外科手術	1	4	1
胸部外科手術	34	22	14
腹部外科手術	53	65	47
その他の手術	19	55	60
PCI	83	72	81
アブレーション	5		2
人工呼吸管理	251	259	255
血液浄化療法	51	33	33
循環補助	23	18	27
低体温療法	10	6	3
TAE等その他の治療	10	23	16
合 計	589	638	614

疾患分類の基準

脳血管障害；外傷以外の脳出血，脳梗塞，くも膜下出血，もやもや病，虚血性心疾患；心筋梗塞，狭心症，心不全その他；心膜炎，弁膜症，心タンポナーデ，先天性心疾患を含む。急性腹症；イレウス，虫垂炎，原因の明らかでない腹痛。

消化管出血；吐血，下血，頭部外傷；頭蓋内血腫，脳震盪，脳挫傷，頭部打撲も含む。不整脈など；心房細動，発作性頻拍等，脈に関するものをさす。

感染症；細菌，ウイルス感染。大血管障害；解離性大動脈瘤，大動脈瘤破裂（腹部，胸部），緊急手術を要する心筋梗塞。内分泌；代謝，免疫，低血糖，高血糖，CPAOA；呼吸停止も含む。喘息；薬剤投与のみ，急性呼吸不全；喘息重積発作，間質性肺炎等呼吸器装着を要する状態をさす。

呼吸不全急性増悪；慢性呼吸不全状態の悪化。腹部外傷；腹部打撲も含む。胸部外傷；胸部打撲も含む。

術後監視；予定手術の入室，予定のPTCA後入室。

その他；CAPDの腹膜炎，一般的腹膜炎，急性アルコール中毒，下肢急性動脈閉塞，アナフィラキシーショック，悪性症候群，マムシ咬傷，意識明瞭な溺水等。

処置別分類の基準

PTCA；緊急PTCA，PTCRをさす。開心術；胸部の解離性大動脈瘤，CABG。穿頭術；穿頭ドレナージ。

血管造影；心カテ，脳アンギオ等検査のみで治療できなかったもの。呼吸器装着；心不全，呼吸不全等で呼吸器装着の必要となったもの。

蘇生；CPAOA，呼吸停止，脳挫傷，脳出血等，意識レベルIII-200~300で救命のために手術，呼吸器装着に至ったもの。

または，救命のために何らかの処置を行うが数日後に死に至ったもの。

その他；急性アルコール中毒，薬物中毒，高血糖，低血糖などセンターに入室を要する疾患であるが，点滴，モニター監視で様子観察したもの。

および，心嚢ドレナージ，血栓除去，虫垂切除，一時ページング等。

救命救急入院料

	2021		2022		2023	
	延日数	人数	延日数	人数	延日数	人数
1 月	232	85	210	99	169	83
2 月	160	46	160	91	161	71
3 月	187	65	144	71	206	75
4 月	153	69	130	83	197	83
5 月	162	73	132	80	185	86
6 月	145	75	109	66	192	89
7 月	171	86	164	94	214	88

8月	169	79	110	59	247	115
9月	170	76	137	58	174	81
10月	168	91	160	66	195	95
11月	196	89	119	63	230	93
12月	195	102	154	68	202	87
年間	2,108	936	1,729	898	2,372	1,046
月平均	175.7	78.0	144.1	74.8	197.7	87.2

月別患者数

月	総数	救急外来より	一般外来より
1	80	78	2
2	62	59	3
3	64	64	
4	73	71	2
5	77	77	
6	81	81	
7	81	80	1
8	102	102	
9	71	70	1
10	83	83	
11	78	78	
12	71	68	3
合計	923	911	12

診療科別患者数

診療科	総数	救急外来より	一般外来より
総合内科	2	2	
消化器内科	11	10	1
呼吸器内科	6	5	1
血液内科	1	1	
糖尿病・内分泌・代謝内科	3	3	
腫瘍内科			
心臓内科	138	133	5
脳神経内科	33	33	
精神科			
小児科	22	21	1
放射線科			
外科（小児外科を含む）	17	16	1
心臓血管外科／呼吸器・乳腺・内分泌外科	7	7	
脳神経外科	139	138	1
整形外科	5	5	
泌尿器科	4	4	

耳鼻咽喉科	2	1	1
形成外科			
皮膚科			
眼科			
産婦人科	4	4	
歯科口腔外科			
麻酔科			
腎臓内科	3	3	
リウマチ・膠原病内科			
救急集中治療科	522	521	1
合 計	919	907	12

周産期母子センター

産科部門

		2021	2022	2023
分娩件数		327	399	326
	単胎	301	366	316
	双胎（内品胎）	26（1）	33	10
分娩児数		354	432	336
	生産児数	352	426	335
	死産児数	2	6	1
（22週以上）早産児数		73	80	35
産科手術	選択帝王切開	79	140	95
	緊急帝王切開	60	70	53
	産後または妊娠子宮全摘術			1
	帝切率	42.5	52.6	45.4
	骨盤位娩出術			
	吸引娩出術	27	29	26
	鉗子娩出術			
	頸管縫縮術	5	7	4
	羊水穿刺術	1	3	2
中期流産（12～21週）		6	3	8
流産手術		29	13	16
緊急母体搬送	受入	78	99	86
	搬出	5	8	5
臨床遺伝外来	出生前遺伝カウンセリング（症例数）	33	56	58
	NIPT（新型出生前検査）検査数	28	44	47
	クアトロ検査数			3

新生児集中治療室 (NICU)

		2021	2022	2023
入院	入院数	290	350	288
	院内出生	210	284	215
	院外出生	280	66	73
	転院入院	7	8	7
	超低出生体重児 (1000g 未満)	3	5	5
	極低出生体重児 (1500g 未満)	9	12	8
	多胎児	53	65	21
	分娩立会	193	271	190
	迎え搬送	10	8	7
治療	人工換気	37	35	29
	経鼻陽圧呼吸	69	70	61
	一酸化窒素吸入治療		1	1
	手術	4	2	1
	網膜光凝固		2	
転帰	転院	6	5	1
	死亡			2
	剖検			
	AI			

血液浄化室

術式別延患者数

	2021		2022		2023	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数
血液透析	196	1,951	171		157	1,375
LDL 吸着						
自己血採血		2		4		
顆粒球除去療法	1	5			3	30
血漿交換	2	12				
※ ECUM	3	5	1	12	7	46

※ 2022 年より統計をはじめた

新規透析導入患者

	2021	2022	2023
血液透析	24	42	36

合併症を有する血液透析

	2021	2022	2023
心カテ, PCI 後	13	9	10

弁置換＋ CABG		3	1
CABG 術後	5	5	2
弁置換	4	2	4
整形手術	13	11	8
外科手術	4	3	2
眼科手術	2	4	1
脳神経外科手術	5	2	
ペースメーカー植え込み		2	4
泌尿器手術		3	3
シャントトラブル	4	2	4
ESD（内科的手術）			
AAA	5		2
アブレーション	2	1	6
肺炎	21	5	6
ASO バイパス	4	3	1
心不全		5	1
感染症	7		2
溢水	3	2	2
高 K	1	1	
消化管出血	2	1	5
脳梗塞	11	6	3
脳出血	4		4
敗血症	7	1	3
血管疾患	3		2
尿毒症（導入）	19	42	36
消化器内科	8		5
※ COVID		11	8
その他	37		32

※ 2022 年より統計をはじめた

血漿交換症例数

	2021	2022	2023
急性肝不全			
血栓性血小板減少症			
血管炎性肉芽腫			
視神経脊髄炎			
重症筋無力症			
その他	3		

薬剤部

処方箋枚数

	2021	2022	2023
院外（外来）	83,681	89,828	90,314
院内（外来）	9,182	9,709	9,694
入院	89,420	87,695	87,499

麻薬使用量

	2021	2022	2023
フェンタニル注 0.1mg2ml (アンプル)	9,131	8,942	9,147
フェンタニル注 0.5mg10ml (アンプル)	4,327	3,850	3,783
レミフェンタニル静注用 2mg (バイアル)	2,293	2,369	2,455
レミフェンタニル静注用 5mg (バイアル)	136	149	140
ケタラル静注用 50mg (アンプル)	451	894	357
ケタラル筋注用 500mg (バイアル)	26	22	1
アンペック坐剤 10mg (個)	69	81	183
塩酸モルヒネ注射液 1% 1ml (アンプル)	1,006	678	625
塩酸モルヒネ注射液 1% 5ml (アンプル)	804	837	593
塩酸モルヒネ注射液 4% 5ml (アンプル)	258	397	89
MS コンチン錠 10mg (錠)	1,980	908	758
MS コンチン錠 30mg (錠)	250	297	100
MS コンチン錠 60mg (錠)	66	432	49
オキファスト注 10mg (アンプル)	75	139	161
オキファスト注 50mg (アンプル)	180	172	1,094
デュロテップMTパッチ 2.1mg (枚)		8	5
デュロテップMTパッチ 4.2mg (枚)		13	
オキシコドン徐放錠 5mg (NX 錠含む) (錠)	3,617	3,868	2,662
オキシコドン徐放錠 10mg (NX 錠含む) (錠)	4,389	4,276	2,254
オキシコドン徐放錠 20mg (NX 錠含む) (錠)	1,575	1,927	1,271
オキシコドン徐放錠 40mg (NX 錠含む) (錠)	715	1,196	499
オキノーム散 2.5mg (包)	2,212	2,178	1,726
オキノーム散 5mg (包)	2,197	1,262	1,487
オキノーム散 10mg (包)	766	1,031	1,034
オキノーム散 20mg (包)	353	744	218
オプソ内服液 5mg (包)	1,488	1,028	449
オプソ内服液 10mg (包)	540	1,252	257
フェントステープ 0.5mg (枚)	525	613	539
フェントステープ 1mg (枚)	656	938	789
フェントステープ 2mg (枚)	510	279	370
フェントステープ 4mg (枚)	207	97	88
フェントステープ 6mg (枚)	40	49	28

フェントステープ 8mg	(枚)		55	
イーフェンバツカル錠 50 μ g	(錠)	34	71	158
イーフェンバツカル錠 100 μ g	(錠)	44	130	51
イーフェンバツカル錠 200 μ g	(錠)	33	78	20
イーフェンバツカル錠 400 μ g	(錠)		10	60
イーフェンバツカル錠 600 μ g	(錠)			34
ナルサス錠 2mg	(錠)	341	1,244	1,765
ナルサス錠 6mg	(錠)	80	749	684
ナルサス錠 12mg	(錠)		728	322
ナルラピド錠 1mg	(錠)	195	1,437	1,510
ナルラピド錠 2mg	(錠)	191	710	479
ナルラピド錠 4mg	(錠)		642	185
ナルベイン注 2mg1ml	(アンプル)	375	903	556
ナルベイン注 20mg2ml	(アンプル)	289	232	84

2021 - 2023 月別

処方箋枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
院外	7,006	6,845	8,120	7,094	7,296	7,679	7,587	7,934	7,316	7,762	7,688	7,987	90,314
院内	821	704	767	695	779	751	866	961	844	812	847	847	9,694
入院	7,151	6,965	6,979	7,339	7,539	7,726	7,196	7,192	6,724	7,599	7,399	7,690	87,499

院外処方箋発行率 (%)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
2021	90.6	91.2	91.4	91.3	89.5	90.8	88.9	87.2	90.1	90.2	90.2	90.4	90.2
2022	89.1	89.5	91.1	90.9	89.8	90.7	89.4	90.2	90.7	90.2	90.1	91.0	90.2
2023	89.5	90.7	91.4	91.1	90.4	91.1	89.8	89.2	89.7	90.5	90.1	90.4	90.3

薬剤管理指導（入院服薬指導）件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2021	347	402	333	119	149	302	322	345	334	326	316	251	3,546
2022	284	384	504	296	257	244	182	250	262	320	256	209	3,448
2023	354	406	409	343	359	383	535	628	563	595	516	544	5,635

無菌製剤処理件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2021	674	638	783	716	700	755	850	779	781	848	693	670	8,887
2022	750	763	878	803	787	980	841	891	759	732	713	763	9,660
2023	711	630	754	729	778	816	724	779	736	842	859	785	9,143

在宅中心静脈栄養管理料

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2021	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
2022	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
2023	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

薬剤情報提供件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2021	380	322	403	376	493	435	581	752	514	473	485	506	5,720
2022	566	499	457	433	498	450	549	552	462	492	454	458	5,870
2023	510	423	430	416	513	441	574	633	551	489	525	555	6,060

中央放射線室

		2021	2022	2023
一般撮影		50,862	53,072	53,449
透視撮影		3,078	3,050	2,899
血管撮影		1,453	1,495	1,503
治療	ライナック	3,666	3,610	4,418
	治療計画	240	213	251
	血液照射			
CT検査		24,743	25,631	25,873
MRI検査		6,932	6,777	6,838
RI検査		1,308	1,457	1,504
骨塩定量		742	851	977
合 計		93,024	96,156	97,712

中央検査室

1. 生化学検査

		2021	2022	2023
血清	TP	74,403	75,881	77,461
	Alb (A/G)	78,807	79,065	80,577
	RF	921	1,133	1,067
	CRP	81,425	82,384	83,619
	Hp	1,181	1,222	1,247
	T-Bil	82,238	84,097	83,742
	D-Bil	24,190	25,352	24,274
	Ch-E	22,038	24,206	21,923
	AST (GOT)	94,322	96,484	97,196
	ALT (GPT)	94,261	96,358	97,041
	ALP	82,692	83,426	84,783

	γ -GTP	79,211	79,988	81,991
	LDH	83,605	84,228	83,675
	CK	48,800	52,361	51,053
	CK-MB	3,525	3,719	3,925
	T-Cho	19,054	19,313	17,890
	HDL-Cho	15,483	16,406	15,504
	LDL-Cho	16,445	17,710	17,716
	TG	19,402	20,349	21,656
	AMY	28,876	31,392	28,722
	リパーゼ	5,284	5,432	5,074
	BUN	94,869	96,876	96,721
	CRE	96,926	98,944	98,749
	UA	43,453	44,743	45,303
	Ca	42,117	44,172	45,463
	IP	18,643	19,024	18,767
	Mg	17,453	18,158	17,218
	Fe	4,205	4,478	4,576
	UIBC	3,004	3,142	3,238
	Na,K,Cl	90,928	92,047	91,869
	IgG	3,677	3,944	4,084
	IgM	2,757	2,997	3,127
	IgA	2,451	2,655	2,835
	C3	1,795	1,893	2,067
	C4	1,791	1,891	2,067
	β 2-MG	1,720	1,681	1,089
	α 1-AG	640	739	688
	CH50	806	730	843
	フェリチン	4,229	4,350	4,442
	プレアルブミン	98	124	323
	グリコアルブミン	957	1,038	930
	浸透圧 (血清)	359	1,368	390
	アンバウンドビリルビン	32	53	37
	亜鉛	1,187	1,615	1,654
血漿	GLU	62,046	63,257	64,825
	浸透圧 (血漿)	60	69	79
尿	尿 AMY	34	14	21
	尿 BUN	5,363	6,402	7,231
	尿 CRE	8,250	9,484	10,289
	尿 UA	2,449	2,906	3,182
	尿 Ca	642	760	536
	尿 IP	2,115	1,981	1,524
	尿 Mg	113	110	67

	尿 Na	5,452	6,422	6,704
	尿 K	3,118	3,785	4,315
	尿 Cl	1,089	1,843	2,305
	尿糖定量	978	956	933
	尿蛋白定量	6,333	7,328	7,967
	尿 β 2-MG	2,236	2,316	2,467
	尿 Alb	1,581	1,647	1,642
	尿 NAG	1,939	1,984	2,095
	浸透圧 (尿)	361	314	288
クリアランス	CC r	67	40	12
	ICG	47	33	26
	U-NGAL		93	81
薬物血中濃度	フェノバルビタール	51	54	58
	フェニトイン	18	10	4
	カルバマゼピン	117	90	84
	バルプロ酸	293	284	276
	バンコマイシン	343	234	234
	ジゴキシン	99	82	54
	メソトレキセート	45	31	37
	タクロリムス	268	297	277
その他	HbA1c	24,400	24,824	24,031
	血液ガス	1,549	2,010	2,384
	血沈	2,442	2,141	2,091
	NH3	1,677	1,680	1,649
尿中薬物スクリーニング	尿中乱用薬物検査	41	16	32

2. 血清検査

		2021	2022	2023
肝炎ウイルス検査	HBs-Ag	8,791	9,214	9,204
	HBs-Ab	2,085	2,147	2,046
	HB c 抗体	947	1,119	1,105
	HBc-Ab	947	1,119	1,105
	HCV 抗体	8,669	9,045	8,978
梅毒検査	RPR	5,190	5,575	5,590
	TP 抗体	4,755	5,183	5,132
HIV 抗体	HIV	652	555	541
	HIV Ag/Ab	652	555	541
甲状腺ホルモン検査	TSH	6,998	7,639	7,032
	FT4	6,776	7,414	6,870
	FT3	872	1,152	958
婦人科ホルモン検査	Prog	818	1,175	1,306
	E2	893	1,279	1,410

	HCG	176	206	261
	LH	285	536	656
	FSH	182	337	393
成長ホルモン	GH	125	172	273
腫瘍マーカー, その他	CEA	11,298	11,785	11,479
	AFP	3,810	3,909	3,852
	CA19-9	7,601	7,977	8,040
	PSA	2,948	3,215	3,265
	NSE	458	449	501
	ProGRP	745	738	859
	PIVKA II	1,440	1,550	1,599
	KL-6	2,215	2,000	2,194
	プロカルシトニン	2,976	2,394	2,198
	トロポニン T	2,230	2,109	1,741
	BNP	10,538	11,057	8,831
	β -D-グルカン	858	729	727
	ACTH	250	525	666
	コルチゾール	297	537	715
	IL-6		114	469
COVID-19 検査	コロナ抗原定量		2,457	3,995

3. 輸血検査

		2021	2022	2023
血液型検査	ABO 式血液型	8,076	8,480	8,384
	Rho (D) 式血液型	8,076	8,480	8,384
	血液型亜型検査	2		1
	Rh・その他の血液型	152	156	119
不規則抗体検査	(件数)	6,403	6,811	6,813
交差適合試験 (検査数)	(本数)	4,492	4,426	4,325
	内 (コンピュータークロスマッチ)	2,803	2,658	2,518
直接クームテスト (DAT)		593	593	464
間接クームテスト (IAT)		59	56	47
輸血精密検査		3,950	3,984	3,932
血液製剤使用量	赤血球製剤 (単位)	6,758	7,084	6,772
	新鮮凍結血漿 (単位)	2,724	2,996	2,400
	濃厚血小板 (単位)	10,290	13,370	14,260
	自己血 (単位)	48	57	93
	クリオプレシテート	45	68	32
	アルブミン製剤 (g)	16,962.5	15,500	11,537.5
血液製剤廃棄量	赤血球製剤	52	46	38
	凍結血漿	20	36	68
	血小板	100	10	50

クリオプレシテート	3	12	6
自己血	21	22	32
アルブミン	2	3	

4. 血液検査

		2021	2022	2023
血液形態・機能検査	血液一般検査 (CBC)	106,700	108,086	106,772
	末梢血液像 (機器分類)	85,788	86,386	86,486
	末梢血液像 (目視)	28,736	23,586	23,632
	網状赤血球数	6,865	5,957	6,105
骨髄検査	骨髄像	329	303	298
特殊染色		933	866	914
フローサイトメトリー	CD 合計	420	414	351
	κ λ	230	213	191
	免疫グロブリン	160	148	41
	T/B 比	426	390	338
骨髄移植	PBSCH	5	8	9
凝固・線溶検査	出血時間	105	80	85
	PT	21,901	21,623	18,752
	APTT	16,489	16,791	15,269
	フィブリノーゲン	5,589	6,836	15,269
	ヘパプラスチンテスト			5,624
	ATIII	1,566	1,050	1,011
	FDP	3,842	3,580	3,329
	Dダイマー	10,787	9,246	8,814
	FMテスト	3	1	4
	血小板凝集能		12	10
CAPD 液中白血球数				2
APTT クロスミキシング試験				7
PIC				342
TAT				362

5. 一般検査

		2021	2022	2023
検尿検査	定性一般検査	37,402	39,179	39,283
	尿沈渣	21,672	22,440	22,156
妊娠反応	hCG 定性	121	130	151
	尿中 hCG 半定量	1		1
尿 Alb/ クレアチニン指数		74	98	129
便検査	寄生虫検査	2	2	
	潜血	4,591	4,735	4,739
鼻汁染色		51	56	50

6. 細菌検査

		2021	2022	2023
一般菌	顕微鏡検査	12,489	11,581	11,304
	培養	12,964	12,002	11,718
	同定	5,171	4,752	4,846
	嫌気性培養	6,779	6,389	5,906
	尿中菌数定量	2,378	2,154	2,058
	感受性試験	3,435	3,220	3,031
抗酸菌	顕微鏡検査（チール染色）	563	661	818
	顕微鏡検査（蛍光染色）	500	603	773
	培養	554	653	822
精液検査		27	43	50
髄液	一般検査	273	234	223
	蛋白定量	266	227	200
	糖定量	253	214	203
	クロール	108	139	105
穿刺液	一般検査	237	253	213
給食検便		437	429	373
感染症迅速検査	インフルエンザ	219	21	785
	RS ウイルス	117	16	15
	A群β溶連菌迅速検査	299	140	197
	アデノウイルス	203	20	26
	CD トキシン	389	306	233
	便ロタ・アデノウイルス	113	74	129
	ノロウイルス	69	49	67
	尿中肺炎球菌莢膜抗原	207	193	252
	尿中レジオネラ抗原	196	189	244
	結核菌 DNA (LAMP)	49	23	31
	マイコプラズマ (LAMP)	25		
	マイコプラズマ抗原	6	6	2
	マイコプラズマ IgM 抗体	27	11	14
	ヒトメタニューモウイルス		82	9
髄膜炎起炎菌抗原検出（パストレックス）		7	17	2
コロナ LAMP	コロナ LAMP（鼻咽頭）	1,059	2,465	4
	コロナ LAMP（喀痰）	6	62	
	コロナ LAMP（その他）	3	2	
新型コロナ抗原定性		1,938	2,406	3,416
院内新型コロナウィルス PCR	院内新型コロナ PCR（鼻咽頭）	2,004	6,738	2,486

7. 生理検査

		2021	2022	2023
心電図検査	心電図 12 誘導	12,356	13,589	12,485
	負荷心電図	876	629	394
	ホルター心電図	404	485	317
	イベントレコード	6	3	
	トレッドミル心電図	11	12	11
	自律神経検査 (R-R 間隔)	477	350	17
	レートポテンシャル	12	11	17
脈波検査		2	2	
脳波検査	脳波	210	170	218
	脳波 (睡眠)	290	311	323
筋電図検査		22	16	21
神経伝導速度		1,804	1,472	1,353
大脳誘発電位		90	144	121
呼吸機能検査	肺活量 (VC)	2,799	3,034	2,959
	努力性肺活量 (FVC)	2,799	3,034	2,959
	最大換気量 (MVV)	22	21	6
	機能的残気量 (FRC)	205	257	245
	DLco	173	193	230
	気道可逆性試験 (メプチン)	175	194	182
超音波検査	超音波検査 (ドック)	1,950	2,012	1,974
	腹部超音波検査	1,842	1,529	1,452
	頸部動脈超音波検査	792	801	731
	甲状腺超音波検査	737	849	904
	その他表在超音波検査	367	635	650
	乳腺超音波検査	1,012	1,157	1,220
	心臓超音波	5,810	5,809	5,339
	末梢血管超音波検査	1,217	1,225	1,149
一酸化窒素ガス分析 (NO)		177	159	157
皮膚灌流圧 (SPP)		95	76	53
眼底写真		1,974	1,971	1,999
眼圧		556	519	582
平衡機能		46	61	47
音声機能		11	16	22
重心動揺検査		48	57	46
ABI		903	782	621
MMEP		4	2	1
新生児聴力検査		441	491	445
ラジオ波		11	8	10
心カテ		528	445	471
アブレーション		199	212	265

術中モニタリング		35	35	64	
皮下連続式グルコース測定				149	
SAP 療法の CGM データ解析		36	38	54	
耳鼻科検査	標準純音聴力検査	279	438	366	
	簡易聴力検査	257	340	281	
	標準語音検査	37	94	88	
	SISI（内耳機能検査）	4	5	7	
	ベケシー（一過性閾値変動検査）	4	12	10	
	ティンパノメトリー	267	362	306	
	SR（耳小骨筋反射）	12	48	27	
	OAE（耳音響放射検査）	25	90	86	
	遊戯聴力検査	4	38	55	
	耳鳴検査	34	51	32	
	音声機能検査	11	16	22	
	耳管機能検査	13	21	17	
	鼻腔通気度	93	105	77	
	味覚検査	ディスク法	12	24	15
		電気刺激法	12	26	16
嗅覚検査	9	27	19		
In Body		1,125	1,320	1,181	
PSG 取り付け		9	6	6	
FGM 導入及びデータ解析		293	342	318	
G6 データ解析				141	

8. 病理検査

		2021	2022	2023
組織診	件数	5,373	5,488	5,449
	検体数	38,684	36,617	36,217
	ブロック数	16,754	16,511	16,473
	迅速診断	97	125	105
	免疫染色	8,297	8,308	7,174
	特殊染色	2,583	2,860	2,357
	蛍光抗体法	94	102	116
	他機関標本診断	128	142	130
細胞診	件数	4,922	5,160	4,968
	総枚数	9,797	10,051	9,371
US 介助		460	386	422
CT 介助		61	87	90
EBUS 介助		26	26	33
大量体腔液処理		51	69	71
ESD 寒天法		91	105	116
外来介助		13	18	18

解剖		4	11	4
免疫染色 4 種類以上加算		426	405	413
がん遺伝子パネル検査対応	*Foundation One	23	27	27
	*NCC オンコパネル			

9. その他

		2021	2022	2023
体外授精	IVF	88	126	194
	AIH	53	87	59
	授精卵凍結	68	58	103
	授精卵融解	88	83	133
	顕微授精	69	98	162
採血業務 ☆		205	245	247
SMBG 指導		15	21	11

☆午前 1 名 中央処置室に採血に出た日数

10. 細菌検査詳細統計

分離株件数

	2021	2022	2023
Aspergillus sp.	4	7	11
Bordetella pertussis			
Candida albicans	819	708	751
Candida sp.	511	413	326
Citrobacter freundii	25	25	21
Enterobacter cloacae	95	106	83
Escherichia coli	666	621	102
Escherichia coli-ESBL	235	143	509
Klebsiella aerogenes	68	39	143
Klebsiella oxytoca	152	139	107
Klebsiella oxytoca-ESBL	32	32	16
Klebsiella pneumoniae	313	336	307
Klebsiella pneumoniae-ESBL	44	26	36
Proteus mirabilis	97	81	52
Proteus mirabilis-ESBL	3		
Proteus vulgaris	8	16	16
Serratia marcescens	44	37	37
Salmonella sp.	1	5	13
Campylobacter jejuni	16	14	6
Pseudomonas aeruginosa	233	246	256
Pseudomonas aeruginosa (MDRP)			
Stenotrophomonas maltophilia	43	45	18

Moraxella catarrhalis	154	108	164
Neisseria gonorrhoeae			
Haemophilus influenzae	60	28	113
Haemophilus influenzae (BLNAR)	26	19	14
Staphylococcus aureus (MSSA)	286	301	299
Staphylococcus aureus (MRSA)	307	288	237
MRCNS	145	127	97
Enterococcus faecalis	209	183	179
Enterococcus faecium	56	57	72
Streptococcus agalactiae	173	193	155
Streptococcus pneumoniae (PSSP)	108	108	100
Streptococcus pneumoniae (PRSP)			
Streptococcus pneumoniae (PISP)	12	7	8
Streptococcus pyogenes	11	3	19

検体別検査件数

	2021	2022	2023
喀痰	1,035	981	1,150
鼻腔	923	965	963
咽頭分泌物	219	53	43
気管支洗浄液	75	114	124
胃液	10	2	2
尿	2,378	2,154	2,058
糞便	466	421	414
膿（開放性）	196	188	181
膿（非開放性）	193	221	190
静脈血	5,315	4,877	4,714
動脈血	412	274	266
腔分泌物	763	823	734
子宮分泌物	26	10	14
耳漏	25	40	42
口腔内	14	35	67
眼脂	20	26	22
髄液	135	110	114
胆汁	58	79	88
胸水	129	162	137
腹水	55	84	62
関節液	65	45	44
カテ先端	50	29	35
IVH 先端	27	28	12
大腸生検	10	15	19
その他	365	266	223
合 計	12,964	12,002	11,718

11. 病理診断科・臨床検査科

	2021	2022	2023
超音波検査	226	227	253
穿刺吸引細胞診	296	245	267
針生検	24	44	33
その他検体採取			
ゲノム検査用 FFPE 評価	18	40	40

リハビリテーション科

科別新患者数

	2021	2022	2023
整形外科	710	955	1,036
脳外科	408	483	346
神経内科	654	403	499
内科	1,562	1,278	942
呼吸器外科・心臓血管外科	300	330	453
形成外科	9	6	1
心臓内科	240	175	112
救急集中治療科	364	409	563
小児科	73	58	71
外科	204	312	340
耳鼻いんこう科	39	58	68
その他	179	115	135
合 計	4,742	4,582	4,566

科別患者数（件数／単位数）

	2021		2022		2023	
	件数	単位数	件数	単位数	件数	単位数
整形外科	15,478	25,068	13,752	22,890	16,311	26,362
脳神経外科	6,973	10,983	9,153	14,681	7,695	12,053
神経内科	11,995	18,855	9,704	15,439	9,460	14,631
内科	22,540	30,601	18,489	25,616	14,757	20,228
呼吸器外科・心臓血管外科	5,126	7,710	4,085	6,227	4,875	7,485
形成外科	326	536	262	352	54	89
心臓内科	3,556	5,069	3,277	5,044	3,057	4,866
救急集中治療科	5,286	7,820	7,855	12,090	9,173	13,516
小児科	563	928	861	1,239	823	1,212
外科	2,602	3,509	3,570	4,673	3,941	5,225
口腔外科	265	381	183	262	112	146
耳鼻いんこう科	259	375	215	322	401	589
その他	2,112	2,853	1,940	2,764	2,241	3,061
合 計	77,081	114,688	73,346	111,599	72,900	109,463

	2021	2022	2023
運動器リハビリテーション	26,981	30,629	27,838
脳血管等リハビリテーション	40,742	48,264	37,808
呼吸器リハビリテーション	14,304	13,335	12,408
心大血管リハビリテーション	9,350	11,110	9,856
がん患者リハビリテーション	5,165	6,528	4,770
廃用症候群リハビリテーション	18,519	19,625	16,714
摂食機能療法	342	78	51
心肺運動負荷試験	32	12	11

栄養管理室

個別栄養指導

	2021	2022	2023
糖尿病	1,369	1,500	1,183
腎臓病	153	146	226
血液透析	14	14	14
その他	1,600	1,896	1,864
合 計	3,136	3,556	3,287

集団栄養指導

	2021	2022	2023
糖尿病教室	74	66	33
両親学級			14

NST 介入者数

	2021	2022	2023
延べ人数	313	207	428

手術センター

診療科	2021	2022	2023
内科	66		
☆総合内科			1
☆消化器内科		19	22
☆心臓内科		53	32
小児科			
外科・小児外科	629		
☆外科		511	516
☆小児外科		85	88
整形外科	922	905	895
脳神経外科	264	248	279

呼吸器・心臓血管外科	596		
☆乳腺・呼吸器・内分泌外科		268	266
☆心臓血管外科		390	367
皮膚科	63	142	128
産婦人科	478	518	507
耳鼻咽喉科	69	97	124
泌尿器科	269	287	277
形成外科	324	241	109
眼科	563	751	847
歯科・口腔外科	159	192	225
麻酔科	10	8	6
脳神経内科	3	3	3
救急集中治療科	122	147	134
合 計	4,537	4,865	4,692

☆ 2022 より診療科名詳細

患者支援センター 医事（公的医療の状況）

国の治療研究事業

旧番号	番号	疾 患 名	2021	2022	新規	削除*	2023
48	001	球脊髄性筋萎縮症					
8	002	筋萎縮性側索硬化症	5	3			3
47	003	脊髄性筋萎縮症	3	3		1	2
	004	原発性側索硬化症		1			1
	005	進行性核上性麻痺	3	4	3	1	6
20	006	パーキンソン病	28	35	7	10	32
	007	大脳皮質基底核変性症	1	1		1	
23	008	ハンチントン病					
	009	神経有棘赤血球症					
	010	シャルコー・マリー・トゥース病					
3	011	重症筋無力症	20	21	3	1	23
	012	先天性筋無力症候群					
2	013	多発性硬化症／視神経脊髄炎	16	19	5	2	22
49	014	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	12	12	1	3	10
	015	封入体筋炎	3	1			1
	016	クロウ・深瀬症候群					
27	017	多系統萎縮症	3	2	2	1	3
16	018	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く.）	1	2	2		4
44	019	ライソゾーム病	1				
45	020	副腎白質ジストロフィー					
52	021	ミトコンドリア病			1		1
24	022	もやもや病	7	7	1		8

38	023	プリオン病					
41	024	亜急性硬化性全脳炎					
	025	進行性多巣性白質脳症					
	026	HTLV-1 関連脊髄症					
	027	特発性基底核石灰化症					
21	028	全身性アミロイドーシス	9	11	2	1	12
	029	ウルリッヒ病					
	030	遠位型ミオパチー					
	031	ベスレムミオパチー					
	032	自己貪食空胞性ミオパチー					
	033	シュワルツ・ヤンペル症候群					
40	034	神経線維腫症	1	2	1		3
15	035	天疱瘡	7	6	2	3	5
28	036	表皮水疱症	3	3			3
29	037	膿疱性乾癬（汎発型）	6	7	1	1	7
54	038	スティーヴンス・ジョンソン症候群					
	039	中毒性表皮壊死症					
13	040	高安動脈炎	1	2			2
	041	巨細胞性動脈炎	3	3	1	1	3
11	042	結節性多発動脈炎	2	2			2
	043	顕微鏡的多発血管炎	8	13	5	1	17
25	044	多発血管炎性肉芽腫症	2	3			3
	045	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	4	3	2	5
19	046	悪性関節リウマチ		1		1	
14	047	パージャール病	2	2		1	1
	048	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	3		1	2
4	049	全身性エリテマトーデス	47	55	8		63
9	050	皮膚筋炎／多発性筋炎	24	25	5	2	28
9	051	全身性強皮症	29	30	6	2	34
34	052	混合性結合組織病	3	4	3		7
	053	シェーグレン症候群	23	25	3	7	21
	054	成人スチル病	9	10	2	3	9
	055	再発性多発軟骨炎	1	1			1
1	056	ベーチェット病	9	9	1		10
26	057	特発性拡張型心筋症	26	22	1	7	16
50	058	肥大型心筋症	7	7		2	5
51	059	拘束型心筋症					
6	060	再生不良性貧血	16	16	1	3	14
	061	自己免疫性溶血性貧血		1			1
	062	発作性夜間ヘモグロビン尿症					
10	063	特発性血小板減少性紫斑病	21	21	2	4	19
	064	血栓性血小板減少性紫斑病					

35	065	原発性免疫不全症候群	1	1			1
	066	Ig A 腎症	33	41	12	20	33
	067	多発性嚢胞腎	6	8	4		12
55	068	黄色靱帯骨化症	9	8	4	1	11
22	069	後縦靱帯骨化症	18	17	6	2	21
30	070	広範脊柱管狭窄症	18	23	8	5	26
33	071	特発性大腿骨頭壊死症	5	3	2		5
56	072	下垂体性 ADH 分泌異常症					
56	073	下垂体性 TSH 分泌亢進症					
56	074	下垂体性 PRL 分泌亢進症					
56	075	クッシング病					
56	076	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症					
56	077	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		1			1
56	078	下垂体前葉機能低下症	10	12	1	2	11
46	079	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）					
	080	甲状腺ホルモン不応症					
	081	先天性副腎皮質酵素欠損症					
	082	先天性副腎低形成症					
	083	アジソン病					
7	084	サルコイドーシス	21	21		5	16
36	085	特発性間質性肺炎	15	8	3	3	8
39	086	肺動脈性肺高血圧症	7	7		2	5
	087	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症					
43	088	慢性血栓栓性肺高血圧症	3	5	1		6
53	089	リンパ脈管筋腫症	2	2			2
37	090	網膜色素変性症	2	2	1		3
42	091	バッド・キアリ症候群					
	092	特発性門脈圧亢進症					
31	093	原発性胆汁性肝硬変	5	5	1	1	5
	094	原発性硬化性胆管炎	1	1			1
	095	自己免疫性肝炎	4	3	2	1	4
17	096	クローン病	23	25	2	2	25
12	097	潰瘍性大腸炎	53	51	12	4	59
	098	好酸球性消化管疾患			1		1
	099	慢性特発性偽性腸閉塞症					
	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症					
	101	腸管神経節細胞僅少症					
	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群					
	103	CFC 症候群					
	104	コストロ症候群					
	105	チャージ症候群					
	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1	1			1

107	全身型若年性特発性関節炎	1	1		1	
108	TNF 受容体関連周期性症候群					
109	非典型溶血性尿毒症症候群					
110	ブラウ症候群					
111	先天性ミオパチー					
112	マリネスコ・シェーグレン症候群					
113	筋ジストロフィー	3	3	1	1	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群					
115	遺伝性周期性四肢麻痺					
116	アトピー性脊髄炎					
117	脊髄空洞症					
118	脊髄髄膜瘤					
119	アイザックス症候群					
120	遺伝性ジストニア					
121	神経フェリチン症					
122	脳表ヘモジデリン沈着症					
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症					
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症					
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症					
126	ペリー症候群					
127	前頭側頭葉変性症	1				
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎					
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症					
130	先天性無痛無汗症					
131	アレキサンダー病					
132	先天性核上性球麻痺					
133	メビウス症候群					
134	中隔視神経形成異常症 / ドモルシア症候群					
135	アイカルディ症候群					
136	片側巨脳症					
137	限局性皮質異形成					
138	神経細胞移動異常症			1		1
139	先天性大脳白質形成不全症					
140	ドラベ症候群			1		1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	1			1
142	ミオクロニー欠神てんかん					
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん					
144	レノックス・ガストー症候群					
145	ウエスト症候群					
146	大田原症候群					
147	早期ミオクロニー脳症					
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん					

149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群					
150	環状 20 番染色体症候群					
151	ラスムッセン脳炎					
152	P C D H 19 関連症候群					
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎					
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症					
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	1			1
156	レット症候群					
157	スタージ・ウェーバー症候群					
158	結節性硬化症	1	1			1
159	色素性乾皮症					
160	先天性魚鱗癬					
161	家族性良性慢性天疱瘡		1			1
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む.）	19	14	5	3	16
163	特発性後天性全身性無汗症					
164	眼皮膚白皮症					
165	肥厚性皮膚骨膜炎					
166	弾性線維性仮性黄色腫					
167	マルファン症候群	3	2			2
168	エーラス・ダンロス症候群					
169	メンケス病					
170	オクシピタル・ホーン症候群					
171	ウィルソン病					
172	低ホスファターゼ症					
173	VATER 症候群					
174	那須・ハコラ病					
175	ウィーバー症候群					
176	コフィン・ローリー症候群					
177	有馬症候群			1		1
178	モワット・ウィルソン症候群					
179	ウィリアムズ症候群					
180	A T R - X 症候群					
181	クルーゾン症候群					
182	アペール症候群					
183	ファイファー症候群					
184	アントレー・ビクスラー症候群					
185	コフィン・シリス症候群					
186	ロスマンド・トムソン症候群					
187	歌舞伎症候群					
188	多脾症候群					
189	無脾症候群		1			1
190	鰓耳腎症候群					

191	ウェルナー症候群					
192	コケイン症候群					
193	プラダー・ウィリ症候群					
194	ソトス症候群					
195	ヌーナン症候群					
196	ヤング・シンプソン症候群					
197	1p36 欠失症候群					
198	4p 欠失症候群					
199	5p 欠失症候群					
200	第 14 番染色体父親性ダイソミー症候群					
201	アンジェルマン症候群					
202	スミス・マギニス症候群					
203	22q11.2 欠失症候群					
204	エマヌエル症候群					
205	脆弱 X 症候群関連疾患					
206	脆弱 X 症候群					
207	総動脈幹遺残症					
208	修正大血管転位症					
209	完全大血管転位症					
210	単心室症					
211	左心低形成症候群					
212	三尖弁閉鎖症		1	1		2
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		1			1
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症					
215	ファロー四徴症					
216	両大血管右室起始症	1	1			1
217	エプスタイン病					
218	アルポート症候群	1	1			1
219	ギャロウェイ・モワト症候群					
220	急速進行性糸球体腎炎	7	7	2	1	8
221	抗糸球体基底膜腎炎					
222	一次性ネフローゼ症候群	22	24	8	9	23
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	1			1
224	紫斑病性腎炎	7	8	2	5	5
225	先天性腎性尿崩症					
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）			1		1
227	オスラー病					
228	閉塞性細気管支炎					
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）					
230	肺胞低換気症候群					
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症					
232	カーニー複合					

233	ウォルフラム症候群				
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く.)				
235	副甲状腺機能低下症				
236	偽性副甲状腺機能低下症				
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症				
238	ビタミンD抵抗性くる病 / 骨軟化症				
239	ビタミンD依存性くる病 / 骨軟化症				
240	フェニルケトン尿症				
241	高チロシン血症 1 型				
242	高チロシン血症 2 型				
243	高チロシン血症 3 型				
244	メープルシロップ尿症				
245	プロピオン酸血症				
246	メチルマロン酸血症				
247	イソ吉草酸血症				
248	グルコーストランスポーター 1 欠損症				
249	グルタル酸血症 1 型				
250	グルタル酸血症 2 型				
251	尿素サイクル異常症				
252	リジン尿性蛋白不耐症				
253	先天性葉酸吸収不全				
254	ポルフィリン症				
255	複合カルボキシラーゼ欠損症				
256	筋型糖原病				
257	肝型糖原病				
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症				
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症				
260	シトステロール血症				
261	タンジール病				
262	原発性高カイロミクロン血症				
263	脳髄黄色腫症				
264	無 β リポタンパク血症				
265	脂肪萎縮症				
266	家族性地中海熱			1	1
267	高 Ig D 症候群				
268	中條・西村症候群				
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群				
270	慢性再発性多発性骨髄炎				
271	強直性脊椎炎	2	3		3
272	進行性骨化性線維異形成症				
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症				
274	骨形成不全症				

	275	タナトフォリック骨異形成症					
	276	軟骨無形成症					
	277	リンパ管腫症 / ゴーハム病					
	278	巨大リンパ管奇形 (頸部顔面病変)					
	279	巨大静脈奇形 (頸部口腔咽頭びまん性病変)					
	280	巨大動静脈奇形 (頸部顔面又は四肢病変)					
	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群					
	282	先天性赤血球形成異常性貧血					
	283	後天性赤芽球癆	3	2			2
	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血					
	285	ファンコニ貧血					
	286	遺伝性鉄芽球性貧血					
	287	エプスタイン症候群					
	288	自己免疫性出血病 XIII	1	1		1	
	289	クロンカイト・カナダ症候群	1	1		1	
	290	非特異性多発性小腸潰瘍症					
	291	ヒルシュスプルング病 (全結腸型又は小腸型)					
	292	総排泄腔外反症					
	293	総排泄腔遺残					
	294	先天性横隔膜ヘルニア					
	295	乳幼児肝巨大血管腫					
	296	胆道閉鎖症					
	297	アラジール症候群					
	298	遺伝性膀胱炎					
	299	嚢胞性線維症					
0	300	I g G 4 関連疾患	1	2	3	1	4
	301	黄斑ジストロフィー					
	302	レーベル遺伝性視神経症					
	303	アッシャー症候群					
	304	若年発症型両側性感音難聴					
	305	遅発性内リンパ水腫					
	306	好酸球性副鼻腔炎	2	5	7	1	11
	307	カナバン病					
	308	進行性白質脳症					
	309	進行性ミオクローヌステんかん					
	310	先天性異常症候群					
	311	先天性三尖弁狭窄症					
	312	先天性僧帽弁狭窄症					
	313	先天性肺静脈狭窄症					
	314	左肺動脈右肺動脈起始症					
	315	ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) / LMX1B 関連腎症					
	316	カルニチン回路異常症					

317	三頭酵素欠損症					
318	シトリン欠損症					
319	セピアプテリン還元酵素 (SR) 欠損症					
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) 欠損症					
321	非ケトーシス型高グリシン血症					
322	β -ケトチオラーゼ欠損症					
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症					
324	メチルグルタコン酸尿症					
325	遺伝性自己炎症疾患					
326	大理石骨病					
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性要因によるものに限る)					
328	前眼部形成異常					
329	無虹彩症					
330	先天性気管狭窄症 / 先天性声門下狭窄症					
331	特発性多中心性キャッスルマン病	1	1	1		2
332	膠様敵状角膜ジストロフィー					
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群					
合 計		685	728	167	134	761

* 死亡を含む

小児慢性特定疾患治療研究事業

番号	疾 患 名	2021	2022	新規	削除*	2023
1	悪性新生物	6	5	2	1	6
2	慢性腎疾患	17	15	5	2	18
3	慢性呼吸器疾患	4	4			4
4	慢性心疾患	47	49	3	5	47
5	内分泌疾患	9	11	3	2	12
6	膠原病	6	3	2	1	4
7	糖尿病	4	4			4
8	先天性代謝異常	5	4		1	3
9	血液疾患	2	1			1
10	免疫疾患					
11	神経・筋疾患	31	31	5	8	28
12	慢性消化器疾患	6	6		1	5
13	染色体または遺伝子に変化を伴う症候群	10	14	1		15
14	皮膚疾患			1		1
15	骨系統疾患			1		1
16	脈管系疾患					
合 計		147	147	23	21	149

* 死亡を含む

医療費公費負担申請状況

	2021	2022	新規	削除*	2023
難病	685	728	167	134	761
小児慢性特定疾患	147	147	23	21	149
身体障害者手帳	248	235	214	235	214
更生医療（心臓・透析等）	54	43	93	88	48
育成医療	3	1	2	2	1
養育医療	1	4	22	26	
精神保健福祉法	88	101	35	28	108
結核予防法	5	1	10	5	6
合 計	1,231	1,260	566	539	1,287

* 死亡を含む

・身体障害者手帳については、更新手続きの把握が難しいため、新規で申請された数字のみ報告。

患者支援センター（がん相談支援センター）

相談事項

		2021	2022	2023
医療関連	高額療養費申請	777	551	568
	医療費支払いに関すること	618	378	294
	健康保険に関すること	64	70	36
	傷病手当金に関すること	81	54	60
	公費制度に関すること	302	215	207
	障害年金に関すること	69	57	59
	医療に関するその他の相談	604	285	485
小 計	2,515	1,610	1,709	
福祉関連	退院援助（施設入所・転院）	9,252	8,766	7,523
	“（在宅介護・社会復帰）	5,007	4,661	4,709
	介護保険に関すること	2,140	2,355	2,658
	生活保護に関すること	249	239	103
	身体障害者に関すること	189	166	169
	精神障害者に関すること	131	78	118
	外来患者に関すること	380	322	274
	入院患者・入院中の援助	85	76	58
	独居患者に関すること	179	111	38
	福祉に関するその他の相談	3,395	2,898	5,721
小 計	21,007	19,672	21,371	
合 計	23,522	21,282	23,080	

患者紹介予約申込件数

	2021	2022	2023
予約件数	8,446	10,387	10,449

がん相談内容別相談件数

大項目	小項目	2021	2022	2023
一般医療情報	がんの治療	523	598	513
	がんの検査	343	438	488
	症状・副作用・後遺症	1,001	773	498
小 計		1,867	1,809	1,499
医療機関の情報	セカンドオピニオン（一般）	42	35	29
	セカンドオピニオン（受入）	22	32	25
	セカンドオピニオン（他へ紹介）	68	59	38
	治療実績	13	14	5
	臨床試験・先進医療	46	52	124
	受診方法・入院	127	128	102
	転院	1,216	1,482	1,136
	医療機関の紹介	43	42	39
	がんの予防・検診	2	1	3
	在宅医療	1,572	1,616	1,732
	ホスピス・緩和ケア	232	157	124
小 計		3,383	3,618	3,357
日常生活	食事・服薬・入浴・運動・外出など	124	101	142
	介護・看護・養育	564	709	1,051
	社会生活（仕事・就労・学業）	82	86	78
	医療費・生活費・社会保障制度	569	399	408
	補完代替療法	8	15	6
	生きがい・価値観	69	60	31
	不安・精神的苦痛	497	365	262
小 計		1,913	1,735	1,978
関係性	告知	28	8	5
	医療者との関係	114	111	90
	患者－家族間関係	357	362	259
	友人・知人・職場の人間関係	13	12	24
小 計		512	493	378
ピア情報	患者会・家族会（ピア情報）	24	15	14
不明	不明	2	1	2
その他	その他	1,043	931	1,757
合 計		8,744	8,602	8,985

健診センター

1. 年齢別受診者数、要精検者数、要治療者数

年 齢	男 性			女 性			合 計		
	受診者	要精検	要治療	受診者	要精検	要治療	受診者	要精検	要治療
- 29	2			5			7		

30 - 39	50	13	2	78	28	6	128	41	8
40 - 49	203	67	4	216	97	4	419	164	8
50 - 59	251	118	1	226	90	2	477	208	3
60 -	552	313	6	419	205	5	971	518	11
合 計	1,058	511	13	944	420	17	2,002	931	30
割 合		48.3%	1.2%		44.5%	1.8%		46.5%	1.5%

当院で最終診断された癌症例

判定項目	最終診断	治療
腹部超音波	左腎癌 (pT1bNOMO)	手術
腹部超音波	右腎癌 (cT1aNOMO)	手術
胃内視鏡	胃癌 (pT1apNxcMx)	手術
胸部 X 線	左甲状腺癌 (pT1bpNxcMO)	手術
CEA	膵尾部癌 (pT1bNO (sn) cMO)	手術
PSA	前立腺癌 (cT3aNOMO)	手術予定
PSA	前立腺癌 (cT2a, GS4 + 3)	手術
CA19-9・AFP	HCC	手術 (岡山大学病院)
便	直腸癌 (pT4aN3M1)	手術
便	直腸癌 (cT3cNOMO)	手術
便	早期大腸癌 (pTiscNxcMx)	手術
尿一般	膀胱癌 (pTis, UC, G2-3)	BCG 療法

病理解剖症例一覧 (2021 年 1 月 ~ 12 月)

剖検番号	年齢	性	診療科	臨床診断	病理解剖診断
986	60	男性	救急集中治療科	肺動脈血栓症疑い, 急性心不全 (重症 AS など)	高度肺水腫・肺うっ血 (左 1680g/ 右 2100g) 1. 大動脈弁狭窄症 + 心肥大 (560g) 3. 小葉中心性幹細胞壊死 (1200g)
987	51	女性	血液内科	成人性 T 細胞白血病リンパ腫 (ATL)	成人 T 細胞性白血病 転: あり 1. 移植関連 TMA 2. びまん性肺出血 (840:800g) 3. 急性尿細管障害 4. 食道・回腸真菌症 5. 膀胱ウイルス感染症 6. 子宮平滑筋腫 7. 胸水 (800:600mL) 8. 腹水 (1900mL)
988	67	男性	救急集中治療科	非閉塞性, 非貫壁性腸間膜虚血症	虚血性腸炎・腸管壊死 ①器質化肺炎 (500:500g) 2. 全身性アミロイドーシス 3. 食道潰瘍 4. 胃潰瘍 5. 慢性肝炎 6. 胆嚢炎 7. 脾梗塞 8. 過形成骨髄 9. 副甲状腺過形成 10. 腸腰筋血腫 11. [両側腎摘出後]
989	72	女性	総合内科	2 型急性呼吸不全, 腎癌 Stage IV (右腸骨転移, 多発肺転移)	腎癌 (淡明細胞癌, 術後) 転: あり ①. Acute lung injury (DAD and AFOP pattern) 2. 糖尿病性腎症 3. 両側胸水 (左 400/ 右 550mL) 4. 腹水貯留 (200mL) 5. 膀胱炎 6. てんかん

医療安全対策室

インシデント・アクシデントレポート（医療安全対策室）

レベル別

事故レベル	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ヒヤリ・ハット	25	26	18	16	7	13	14	8	16	20	29	16	208
レベル 1	95	95	80	112	114	92	99	99	79	119	118	92	1,194
レベル 2	52	37	44	45	44	51	57	47	49	45	53	53	577
小計	172	158	142	173	165	156	170	154	144	184	200	161	1,979
レベル 3a	4	5	5	8	5	4	10	3	3	7	12	5	71
レベル 3b	3	3	3	7	4	6	4	1	2	3	4	2	42
レベル 4		1		1									2
レベル 5													0
小計	7	9	8	16	9	10	14	4	5	10	16	7	115
合計	179	167	150	189	174	166	184	158	149	194	216	168	2,094

職種別

職種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
医師（歯科医含む）	11	12	6	16	16	6	19	7	3	10	14	6	126
医療アシスタント		1		7	2	5	2	4	2	4	2	4	33
小計	11	13	6	23	18	11	21	11	5	14	16	10	159
助産師・看護師	139	130	132	142	140	138	145	125	132	162	174	141	1,700
看護助手			1		1						1		3
小計	139	130	133	142	141	138	145	125	132	162	175	141	1,703
薬剤師	7	6	5	5	2	1	8	12	6	5	5	10	72
栄養士	1	1		3	1		1		1		2		10
調理従事者				4							2		6
診療放射線技師	4	7	2	4	2	3	3		3	4	4		36
臨床検査技師	11	6	1	4	5	3	3	3		2	3	3	44
理学療法士	5	3	3	4	3	4	2	3	1	5	3	1	37
歯科衛生士													0
診療情報管理士								3				1	4
MSW						2							2
臨床工学技士	1	1			2	1	1			2	3	2	13
医療助手						1							1
小計	29	24	11	24	15	15	18	21	11	18	22	17	225
事務職員						2		1			2		5
小計						2		1			2		5
その他									1		1		2
合計	179	167	150	189	174	166	184	158	149	194	216	168	2,094

発生場面別

発生場面		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
指示・情報伝達	1 オーダー・指示出し													0
	2 情報伝達課程	2	2	1	4	3	2	3	2	4	6	2	5	36
	小計	2	2	1	4	3	2	3	2	4	6	2	5	36
薬剤・輸液	3 与薬準備	10	8	9	7	9	13	10	4	8	9	10	9	106
	4 処方・与薬	49	50	46	68	58	66	60	50	50	76	72	44	689
	5 調剤・製剤管理等	14	7	9	10	9	7	1	12	13	11	13	13	119
	6 輸血	6	2	1	1	3		2	1	1	1	1	1	20
	小計	79	67	65	86	79	86	73	67	72	97	96	67	934

治療・処置	7	手術	6	11	5	5	7	4	13	2		4	4	4	65
	8	麻酔	1	1	2	1	3	1	5	1	1			1	17
	9	出産・人工流産					1	1		5				1	8
	10	その他の治療	2		3	2	3	1	3	5	1	2	4	1	27
	11	処置	5	5	2	2	2	1	3	7	5	4	4	3	43
	12	診察	1					2		1	1			1	6
		小計	15	17	12	10	16	10	24	21	8	10	12	11	166
医療用具、チューブ類の使用管理	13	医療用具（機器）の使用・管理	6	2	1	2	3	1	4	3	1	5	4	5	37
	14	ドレーン・チューブ類の使用・管理	24	20	20	17	24	16	25	14	17	19	29	25	250
		小計	30	22	21	19	27	17	29	17	18	24	33	30	287
検査	15	検査	17	26	13	15	17	15	16	21	18	17	19	10	204
		小計	17	26	13	15	17	15	16	21	18	17	19	10	204
療養上の場面	16	療養上の世話	23	14	16	23	11	15	21	11	13	18	24	25	214
	17	給食・栄養	1	7	3	10	4	1	2	1	4	3	7		43
	18	その他の療養生活の場面	3	4	5	5	2	4	3	4	2	1	4	2	39
		小計	27	25	24	38	17	20	26	16	19	22	35	27	296
その他の場面	19	物品搬送									1		2	3	
	20	放射線管理												0	
	21	診療情報管理	2	2	2	7	2	2	2	2	6	3	6	6	42
	22	患者・家族への説明	2	3	3		1	1	2	2	1	1	4	2	22
	23	施設・設備					2	2					1	1	6
	24	その他	5	3	9	10	10	11	9	10	3	13	8	7	98
		小計	9	8	14	17	15	16	13	14	10	18	19	18	171
	合計	179	167	150	189	174	166	184	158	149	194	216	168	2,094	

感染防止対策室

針刺し件数

		2021	2022	2023
職種	医師	6	7	7
	研修医	3	2	
	看護師	19	14	17
	検査技師	1		1
	その他	5	1	5
経験年数	1年未満	11	6	6
	1～5年	10	9	8
	6～10年	5	4	8
	11年以上	8	5	8
発生場所	病室	9	6	9
	スタッフステーション	2		
	I C U ・ N I C U			1
	手術室	6	6	3
	救急外来	5	3	2
	中央処置室	4		2
	検査室	2		1
	中央放射線室	3	3	1

	その他	3	6	11
創傷部位	左手・指	17	8	13
	右手・指	15	16	14
	その他	2		3
使用器材	採血針	3	1	3
	注射針	5	5	5
	インスリン針	5	4	1
	留置針	2		7
	C Vポート針	1	1	
	縫合針	3	2	
	メス	2	5	2
	電気メス			
	ワイヤー	1		
	その他	12	6	12
発生場面・理由等	患者使用中	9	3	10
	縫合時・介助時	3		
	リキャップ時	1	2	2
	抜針時		1	
	安全機能作動時	1		
	廃棄時	2	5	4
	他者が持っていた針等		3	
	分注時			
	その他	16	9	12
	☆未使用	2	1	2
感染症	H B V	3		1
	H C V	3		2
	H I V			
	不明	3	1	4
	なし	25	23	23
手袋	あり	30	21	25
	なし	4	3	5
針刺し発生率		2.9%	2.0%	※ 2.5%

※（針刺し 30 件 ÷ 2023 年常勤換算職員数 1212）× 100

外来治療室

疾患別	2021	2022	2023
肺がん	848	943	1,042
乳がん	365	518	519
食道がん	124	51	104
胃がん	351	404	388

大腸がん	593	535	452
肝がん	47	41	49
胆管・胆のうがん	78	56	38
膵がん	165	203	173
上咽頭がん	11	11	16
前立腺がん	308	264	270
卵巣・卵管がん	150	143	206
子宮（体・頸）がん	63	44	60
慢性骨髄性白血病		27	6
急性リンパ性白血病	7	13	10
骨髄腫	318	348	435
悪性リンパ腫	241	230	168
肺がん・膵がん	2	5	16
ランゲルハンス組織球症			
骨髄異型性症候群	163	105	118
がん以外の治療	11	44	27
その他	89	101	216
合 計	3,934	4,086	4,313

2023 月別

疾患別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
肺がん	98	81	85	80	94	94	72	89	78	91	88	92	1,042
乳がん	40	46	50	45	48	53	37	44	34	38	51	33	519
食道がん	12	10	13	11	13	8	7	7	4	8	6	5	104
胃がん	34	30	34	25	26	33	29	33	37	38	37	32	388
大腸がん	41	47	45	26	38	44	43	32	29	32	39	36	452
肝がん	2	3	3	1	1	3	4	6	9	5	6	6	49
胆管・胆のうがん	4	4	5	7	2	6	3	1	2	2		2	38
膵がん	14	17	26	19	18	18	13	21	10	6	4	7	173
上咽頭がん	2	2	2	2	4	1	2	1					16
前立腺がん	24	30	34	26	24	27	18	21	19	16	17	14	270
卵巣・卵管がん	13	15	16	13	17	23	15	36	17	13	13	15	206
子宮（体・頸）がん	6	3	6	5	4	2	5	2	3	5	9	10	60
慢性骨髄性白血病			2			2			1		1		6
急性リンパ性白血病		1		2		2	2		1	2			10
骨髄腫	34	28	38	37	35	37	45	47	45	36	27	26	435
悪性リンパ腫	14	16	14	7	14	7	19	12	11	17	20	17	168
肺がん・膵がん	1		2	3	8					1	1		16
ランゲルハンス組織球症													0
骨髄異型性症候群	8	6	5	9	5	12	18	14	11	10	10	10	118
がん以外の治療				3	3	5	5	3	1	1	1	5	27
その他	23	10	19	18	18	18	16	15	17	16	22	24	216
合 計	370	349	399	339	372	395	353	384	329	337	352	334	4,313

院内がん登録

1. 経年変化（部位別）

部 位	2021	2022	2023
1 頭	14	10	17
2 眼			
3 耳, 鼻, 副鼻腔	6	6	4
4 口唇, 口腔, 舌	11	12	16
5 咽頭, 喉頭	16	16	19
6 甲状腺	18	16	26
7 気管, 気管支, 肺	141	182	190
8 胸腺	3	10	10
9 縦隔	4	1	1
10 乳房	66	73	72
11 食道	36	42	38
12 胃	96	106	107
13 小腸, 十二指腸	3	3	2
14 大腸, 虫垂, 肛門	166	148	155
15 肝, 肝内胆管	38	21	34
16 胆嚢, 肝外胆管	16	21	16
17 膵	38	41	36
18 腎, 副腎	20	22	36
19 腎盂, 尿管	11	9	12
20 膀胱	43	40	36
21 前立腺	87	85	92
22 その他男性生殖器	3	3	4
23 子宮（頸部, 体部）	81	78	75
24 卵巣, 卵管	24	19	18
25 その他女性生殖器	1	3	3
26 皮膚	56	76	81
27 結合織, 軟部組織	6	3	7
28 骨, 関節, 軟骨	4		3
29 リンパ, 造血組織（白血病を除く）	56	59	60
30 白血病	48	56	75
31 神経（頭蓋外）	2	1	2
32 その他の部位	1		
33 分類不能	3	5	7
合 計	1,118	1,167	1,254

2. 性・年齢・住所別（2023年1月～12月）院内がん登録集計

疾病分類（ICD-O 第3版）	総数	性別		年 齢								登録時住所							
		男	女	0 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 以上	鳥 取 市	八 頭 郡	岩 美 郡	東 伯 郡	倉 吉 市	米 子 市	兵 庫 県	他 県
C00 口唇	1		1					1				1							
C01 舌根部	1	1								1	1								
C02 その他および部位不明の舌	7	4	3			1		3	2		1	4		1	1			1	
C03 歯肉	7	4	3					1	1		5	5		1				1	
C04 口腔底																			
C05 口蓋	1	1							1					1					
C06 その他及び部位不明の口腔																			
C07 耳下腺	1	1							1		1								
C08 その他及び詳細不明の大唾液腺																			
C09 扁桃																			
C10 中咽頭	4	3	1					1	1	1	1	4							
C11 鼻咽頭																			
C12 梨状陥凹	4	4								4		3		1					
C13 下咽頭	3	3							2	1		3							
C14 その他及び部位不明確の口腔、 口腔及び咽頭																			
C15 食道	38	29	9					1	13	19	5	27	4	1	1		1	4	
C16 胃	107	80	27				2	6	28	42	29	69	13	9				16	
C17 小腸	2	2								1	1	2							
C18 結腸	97	61	36		1	1	4	9	25	29	28	62	6	18		2		9	
C19 直腸S状結腸移行部	14	5	9				2	1	2	6	3	11	1	1				1	
C20 直腸	44	35	9			1	1	4	15	15	8	26	5	3	1	1		8	
C21 肛門および肛門管																			
C22 肝および肝内胆管	34	27	7		1		1	3	7	13	9	23	6	1	1			3	
C23 胆のう（嚢）	9	4	5						1	3	5	6	1		1			1	
C24 その他及び部位不明の胆道	8	6	2						2	5	1	2	4		1	1			
C25 膵	36	26	10					3	13	7	13	22	4	3		1		6	
C26 その他及び部位不明確の消化器																			
C30 鼻腔及び中耳																			
C31 副鼻腔	3	2	1					1		1	1	3							
C32 喉頭	7	7								4	3	4						3	
C33 気管																			
C34 気管支および肺	190	135	55				2	8	45	99	36	137	24	12	1			15	1
C37 胸腺	10	4	6			1	1	1	2	3	2	7	1					2	
C38 心臓、縦隔および胸膜	1	1								1			1						
C39 その他及び部位不明確の呼吸器 系、胸腔内臓器																			
C40 (四) 肢の骨および関節軟骨	1		1								1							1	
C41 その他及び部位不明の骨及び関 節軟骨	2	2							1	1		2							
C42 造血系及び細網内皮系	75	52	23	1	1	1	5	4	15	27	21	41	11	6	4	1	1	11	
C44 皮膚	81	43	38		1		2	2	11	23	42	67	7	4	1			2	
C47 末梢神経及び自律神経系	2	1	1						2			2							
C48 後腹膜および腹膜	2	1	1					1	1			1	1						

C49	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	5	3	2				1	1			3	4					1		
C50	乳房	72	1	71				12	16	12	21	11	52	5	4	2	1		8	
C51	外陰	1		1							1		1							
C52	膣	2		2						1		1	2							
C53	子宮頸（部）	49		49		5	14	19	5	3	2	1	43	1	1	1			3	
C54	子宮体部	26		26				2	11	3	7	3	21	2	1		1		1	
C55	子宮， NOS																			
C56	卵巣	15		15			1	2	2	8	2		14						1	
C57	その他及び部位不明の女性性器	3		3				1	2				2						1	
C58	胎盤																			
C60	陰茎																			
C61	前立腺	92	92						4	18	46	24	55	6	5	12	6		6	2
C62	精巣（睾丸）	3	3			1	1	1					1						1	1
C63	その他及び部位不明の男性性器	1	1				1							1						
C64	腎（腎盂を除く）	36	24	12		1		1	4	12	11	7	23	3	3	4	1		2	
C65	腎盂	5	4	1							3	2	3	1					1	
C66	尿管	7	5	2						2	2	3	4	2					1	
C67	膀胱	36	31	5			1		2	6	12	15	20	1	4	7	1		3	
C68	その他及び部位不明の泌尿器																			
C69	眼および付属器																			
C70	髄膜	9		9			1	1	1	1	5		7	2						
C71	脳	8	3	5	2		1	2	1	1	1		6						2	
C72	脊椎、脳神経系のその他の中枢神経系																			
C73	甲状腺	26	14	12	1			6	6	6	6	1	18	4	1		1		2	
C74	副腎																			
C75	その他の内分泌腺及び関連組織																			
C76	その他および不明確な部位	1	1									1							1	
C77	リンパ節	58	27	31			3	2	3	16	17	17	42	6	3	2	2		3	
C80	分類不能	7	5	2						3	2	2	6	1						
	合計	1,254	758	496	4	11	28	70	108	284	442	307	860	124	84	40	19	2	121	4

院内研究会・C P C

(2023年1月～12月)

緩和ケア内科

月 日	講演会・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
7月14日	緩和ケア概論 オピオイドについて	浦川	研修医	カンファレンス室	6名
7月24日	コミュニケーション意思決定支援 ACP, 臨床倫理	浦川	研修医	カンファレンス室	6名

小児科

月 日	講演・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所
6月26日	痙攣発作時の対処法	倉信	看護師	5北カンファレンスルーム
9月26日	小児早期警告システムと小児のアセスメント	田村	看護師	5北カンファレンスルーム
9月27日	気管切開のある医療的ケア児の急変時の対応	田村	看護師	5北カンファレンスルーム
10月10日	成長ホルモン分泌刺激試験	倉信	看護師	5北カンファレンスルーム
10月23日	気管切開のある医療的ケア児の急変時の対応	田村	看護師	5北カンファレンスルーム

歯科口腔外科

月 日	講演・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
2月1日	NSTにおける歯科の役割	山本 葉	NSTメンバー	中会議室	16名
4月25日	新人看護研修	谷口美帆, 山本 葉	新人看護師	トレーニングラボ室	31名
10月17日	嚥下・口腔サポートチーム勉強会	加納優也	嚥下・口腔サポートチームメンバー	中会議室	19名

感染防止対策室

1. 感染対策チーム・感染防止管理委員会主催 院内研修会

月 日	講演・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
1月4日	中途(看護師・保育士)追加研修 ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護師・保育士	カンファレンス室4	2名
1月13日	6南感染対策勉強会 ※汚物処理の飛散状況	江本	6南看護師	6南ナースステーション	10名

1月16日	中途（NA）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	NA	カンファレン ス室5	1名
2月1日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレン ス室4	2名
2月8日	令和4年度第2回抗菌薬適正 使用支援研修会 ※「抗菌薬が効かない」時の考 え方～「肺炎」を例に考 える～	鳥取大学医 学部附属病 院 感染制御部 北浦助教	医師・薬剤師・ 看護師・検査技 師など	多目的ホール	49名
3月1日	中途（看護師）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護師	カンファレン ス室4	2名
3月29日	8北感染対策研修会 ※CVC 関連血流感染対策	岡	8北看護師	スタッフ ステーション	11名
4月3日	転入者（看護補助者・医療助 手）オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者 医療助手	カンファレン ス室4	4名
4月4日	新規採用（転入）職員の研修 オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	全職種	多目的ホール	複数名
4月5日	研修医オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	研修医	会議室1	12名
4月5日	新人看護師研修 ※感染対策研修（基本編）	入江	新人看護師	中会議室	30名
4月5日	既卒新採用者オリエンテー ション ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護師	カンファレン ス室4	3名
5月11日	10北感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	10北看護師	スタッフ ステーション	14名
5月11日	新人看護師研修 ※感染対策研修（実践編）	入江	新人看護師	中会議室	30名
5月22日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレン ス室4	1名
5月23日	リハビリ室感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	リハビリスタッ フ	リハビリ室	28名

5月25日	吸引時の感染対策	朽本	医療技術局	リハビリ室	3名
6月14日	中央処置室・外治治療室 感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	中央処置室 外治治療室 看護師	中央処置室	17名
7月4日	ラダーⅡ研修 ※感染対策	入江	ラダーⅡ 受講者	多目的ホール	36名
7月18日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレン ス室3	2名
7月18日	8北感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	8北看護師	スタッフ ステーション	15名
7月19日	感染管理コース研修① ※標準予防策と感染経路別予 防策について①	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	33名
7月26日	5南感染対策勉強会 ※MRSAと手指衛生	入江	5南看護師	スタッフ ステーション	9名
7月27日	中央処置室・外治治療室 感染対策勉強会2回目 ※手指衛生	入江	中央処置室 外治治療室 看護師	中央処置室	8名
8月1日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレン ス室3	1名
8月16日	感染管理コース研修② ※標準予防策と感染経路別予 防策について②	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	31名
8月21日	看護補助者研修2 ※感染防止1回目	入江	看護補助者	ラボ室	13名
8月28日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレン ス室4	1名
8月28日	看護補助者研修2 ※感染防止2回目	入江	看護補助者	ラボ室	11名
9月1日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレン ス室4	1名
9月8日	10北感染対策勉強会 ※COVID-19防護具	10北岸田	10北看護師	スタッフ ステーション	7名
9月11日, 12日,13日, 14日,15日, 20日	令和5年度第1回全職員対象 感染対策研修会 ※本当の手指衛生してます か？リーダーと一緒に let's 手指衛生	感染対策推 進担当者 研修医	全職員 ※委託業者含む	多目的ホール e-learning	929名 173名

9月11日	中途（看護師・看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護師 看護補助者	カンファレンス室3	2名
10月4日	新人看護師研修 ※感染対策研修（応用編）	入江	新人看護師	多目的ホール	30名
10月10日	6南感染対策勉強会1回目 ※手指衛生	入江	6南看護師	6南スタッフステーション	14名
10月18日	感染管理コース研修③ ※医療関連感染対策について	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	33名
11月1日	令和5年度第2回全職員対象 感染対策研修会＋第1回抗菌薬適正使用支援研修会 ※①薬剤耐性菌の現状と薬剤耐性対策（感染対策＋抗菌薬適正使用） ②鳥インフルエンザ等の新興感染症の現状 ※専門医共通講習に該当WEB講演	浜松医療センター 感染症管理特別顧問 矢野邦夫先生	全職員 ※委託業者含む	多目的ホール e-learning	90名 1010名
11月1日	中途（看護師）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護師	カンファレンス室5	1名
11月1日	エイドアシスタント オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	エイドアシスタント MA	カンファレンス室2	16名
11月8日	10南感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	10南看護師	10南スタッフステーション	8名
11月28日	6南感染対策勉強会2回目 ※手指衛生	入江	6南看護師	6南スタッフステーション	10名
11月29日	感染管理コース研修④ ※微生物検査検体について	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	28名
12月14日	外来感染対策勉強会 34ブース ※手指衛生	入江	外来看護師	34ブースの診察室	9名
12月18日	8北感染対策勉強会 ※手指衛生2回目	入江	8北看護師	スタッフステーション	9名
12月20日	感染管理コース研修⑤ ※抗菌薬適正使用について	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	27名
12月27日	外来感染対策勉強会 33ブースと内視鏡室 ※手指衛生	入江	外来看護師	33ブースの待合室	15名

中央放射線室

月	勉強会	講師
7月	従来のガンマカメラを用いて測定された心筋血流量の臨床的意義について	澤 和宏
8月	Dual Energy CT について	岸本淳一
9月	DWI を基礎から	小山 亮
11月	耳介ケロイド術後照射におけるポーラス材の検討	砂川知広
11月	2層検出器 CT における仮想単色 X 線画像の CT 値に関する検討	上山忠政
11月	2層検出器 CT におけるカルシウム抑制画像の撮影条件による影響の基礎的検討	田中康隆
11月	2層検出器 CT におけるヨード濃度値の精度検証について	前田哲生
11月	アブレーション術前心臓 CT と心臓超音波における左房容積の比較	石賀慎基
11月	MRI における心電図同期撮像を想定した電極貼り付け位置の検討	永原奈菜
11月	MRI 造影検査における後発医薬品の導入と経過について	岡田篤樹
12月	病院の待ち時間について	石田絢菜

中央検査室

1. 中央検査室勉強会

月 日	講演・研修・勉強会	講師	対 象	場 所	参加人数	後日学習人数
1月18日	中央検査室勉強会 出張報告会	岡田早苗 佐々木崇雄 加藤千春 谷口千里 川上智史 前田沙紀 小柴 鷹	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	21名	13名
2月28日	中央検査室勉強会 AS・TAVI について	谷口千里	臨床検査技師 医療助手 事務員	中央検査室	18名	17名
3月15日	中央検査室勉強会 抗がん剤治療関連心筋障害診療における心エコーガイドライン	山本寿恵	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	17名	18名

5月17日	中央検査室勉強会 出生前検査について (クアトロテスト)	福田水貴	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	15名	22名
6月21日	中央検査室勉強会 プレセプシンについて	岡本昌典	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	18名	20名
7月19日	中央検査室勉強会 学会発表予定	川上智史	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	20名	
8月23日	中央検査室勉強会 ウィズコロナ時代の 下水サーベイランス 実証事業	岡田尚子	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	16名	21名
9月13日	中央検査室勉強会 学会発表予定	川上智史	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	20名	
10月25日	中央検査室勉強会 乳房組織生検 CNB と VAB について	木村仁南	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	20名	21名
11月1日	中央検査室勉強会 学会発表予定	川上智史	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	20名	
12月20日	中央検査室勉強会 家族性地中海熱	金光真子	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手 事務員	中央検査室	21名	20名

栄養管理室

NST勉強会					
月 日	講演会・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
1月 4日	褥瘡関連の情報提供	アボット ジャパン	NSTメン バー	中会議室	17名
2月 1日	NSTにおける歯科の役割	岸本歯科衛 生士	NSTメン バー	中会議室	16名
3月 5日	病棟でのNST活動について	安藤看護師	NSTメン バー	中会議室	14名
5月 10日	NST活動について	岡本管理栄 養士	NSTメン バー	大会議室	18名
6月 7日	濃厚流動食「ペプタメンプレビ オ」について	ネスレ日本 株式会社	NSTメン バー	中会議室	18名
7月 5日	NST総論	檜崎医師	NSTメン バー	中会議室	20名
8月 2日	下剤と薬について	中村薬剤師	NSTメン バー	大会議室	13名
9月 6日	refeeding syndrome について	救急集中治 療科 橋本先生	NSTメン バー	中会議室	20名
10月 4日	MCTの有用性について	ネスレ日本 株式会社	NSTメン バー	中会議室	18名
11月 1日	排便コントロールについて	上田看護師	NSTメン バー	中会議室	17名
12月 6日	褥瘡の栄養管理	ニュート リー株式会 社	NSTメン バー	中会議室	18名

薬剤部

開催日	研修・勉強会	講師等	対 象	場 所	参加人数
3月 2日	SMBG 説明会	Life Scan Japan	病院職員	薬剤部 患者指導室	
3月 22日 ～ 28日	ミニレクチャー 『粉碎可否、 剤形について』	各病棟担当 薬剤師	看護師	各病棟	130名
4月	骨粗鬆症の治療薬	濱崎薬剤師	院内職員	中央病院キャン サーボード	40名程度
5月 26日	院内研修会（看護局）	湯口薬剤師	新人看護職 員	中央病院大会 議室	30名程度
6月 12日	褥瘡ケアの概要 (外用薬・創傷被覆材について)	小谷薬剤師	看護師	中央病院5南	8名
6月 29日	医療アシスタント研修	武田薬剤師	新規採用 医療アシス タント	中央病院カン ファレンス室 5	3名

8月9日	NST 担当者会 (下痢と薬について)	中村薬剤師	NST 担当者	中央病院大会 議室	12名
8月29日	インスリン勉強会	山根真弥 薬剤師	看護師	中央病院8南	12名
10月16日	褥瘡に使用する外用薬	小谷薬剤師	看護師	中央病院9南	11名
10月18日	褥瘡に使用する外用薬	小谷薬剤師	褥瘡対策 委員会	中央病院	36名

薬剤部内勉強会

開催日	研修・勉強会	講師等	対象	場所	参加人数
1月10日	他病院視察報告会 (日赤病院)	伊藤薬剤師	薬剤部員	中会議室	15名程度
1月12日、 13日	他病院視察報告会 (鳥根県立中央病院)	浅井薬剤師	薬剤部員	中会議室	15名程度
2月21日	ツイミーグ錠について	住友ファーマ	薬剤部員	大会議室	15名程度
3月23日	ユルトミリス点滴について	アレクシオン ファーマ	薬剤部員	中会議室	15名程度
5月16日	フォシーガ錠について	アストラゼ ネカ	薬剤部員	中会議室	15名程度
5月31日	スピルキットの使用法について	小谷薬剤師	薬剤部員	中会議室	15名程度
6月22日	AI-PHARMA について	木村情報技 術	薬剤部員	中会議室	15名程度
8月22日	他病院視察報告会 (鳥取大学附属病院)	小谷薬剤師 田中玖実 薬剤師	薬剤部員	中会議室	15名程度
8月23日	腹膜透析について	テルモ	薬剤部員	小会議室	15名程度
8月30日	アリケイス吸入液について	インスメッ ド	薬剤部員、 看護師	中会議室	30名程度
9月12日、 14日	病棟薬剤業務実施加算について	浅井薬剤師	薬剤部員	小会議室	25名程度
9月27日	プレアボイド報告について	伊藤薬剤師	薬剤部員	小会議室	15名程度
10月5日	患者支援センターについて	患者支援 センター 皆川副セ ンター長 衣笠副セ ンター長	薬剤部員	中会議室	16名
10月18日	ネキソブリッド外用ゲルについ て	科研製薬	薬剤部員	小会議室	15名程度

10月25日	CHDFについて	源 臨床工 学技士	薬剤部員	大会議室	18名
11月8日	ミキシング業務について	小谷薬剤師	薬剤部員	大会議室	14名
11月29日	薬事委員会について	浅井薬剤師	薬剤部員	小会議室	14名
12月6日	薬品マスタについて	西垣薬剤師	薬剤部員	大会議室	16名
12月19日	がん薬物療法認定薬剤師実務研 修報告会	武田薬剤師	薬剤部員	小会議室	18名
12月20日	レジメンについて	湯口薬剤師	薬剤部員	大会議室	14名

臨床心理士室

月 日	内 容	講 師	対 象	場 所	参加人数
4月4日	新入職員オリエンテーション ※がん相談支援センター	藤松	新入職員	多目的ホール	—
11月11日	がん看護アドバンスト研修	池田, 濱野, 藤松, 橋本, 安達, 樹下, 木下, 中山	看護師	多目的ホール	12名

CPC レポート（第 154 回中央病院 CPC）

研修医氏名：安田遼太，藤岡里奈，名木田優子

CPC 年月日：2023 年 2 月 7 日

解剖番号：A998

診療科：救急集中治療科 主治医・臨床指導医氏名：下原 輔 病理解剖医：徳安祐輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】

35 歳，男性

【主訴】

発熱・悪寒・倦怠感

【現病歴】

8 歳の時に生来もっていた修正大血管転位症に対して他院でダブルスイッチ術や大動脈弁置換術が施行された。その後徐脈性不整脈がでてきたため 10 歳の頃ペースメーカー移植術が施行された。その後は当院心臓内科でペースメーカーのフォロー目的に通院されていた。2020 年に浮腫や体重増加，腎機能障害，貧血，甲状腺機能低下症などの症状がでてきており，当院総合内科や血液内科を受診した。2022 年 1 月には食道静脈瘤破裂で当院の救急外来を受診し肝機能障害を指摘された。2022 年 2 月には当院腎臓内科で慢性腎臓病に対して維持透析療法が開始となった。2022 年 7 月 6 日に発熱・悪寒・倦怠感で救急搬送され，当院救急集中治療科に入院となった。

【既往歴】

修正大血管転位症（ダブルスイッチ術後）

ペースメーカー植込み術後

大動脈弁置換術後

食道静脈瘤破裂

【生活歴】

喫煙：なし 飲酒：なし ADL：自立

【家族歴】

詳細不明

【内服薬】

フロセミド 40mg

カルベジロール錠 1.25mg

ジゴキシン錠 0.0625mg

アスピリン 100mg

ワルファリン 0.5mg

フェブキソスタット錠 20mg

トラニラスト細粒 10%

レボチロキシナトリウム水和物散 75 μ g

ジメチルイソプロピルアズレン軟膏

【入院時現症】

身長：167.8cm，体重：62.5kg，体温：39.9°C，血圧：93/83mmHg，脈拍：70 回 / 分，

SpO₂ : 99% (マスク 5L/min), 呼吸数 : 24 回 / 分

【身体所見】

意識 : GCS15 (E4V5M6) 結膜 : 蒼白なし, 黄染なし 口腔 : 咽頭発赤腫脹なし

頸部 : リンパ節腫脹なし, 頸静脈怒張なし 項部硬直なし

胸部 : 心音整, 呼吸音清, 左右差なし 腹部 : 平坦軟, 鼓音なし, 圧痛なし

四肢 : 左下腿の腫脹あり, 把握痛あり, 熱感著明, 水疱・握雪感なし

【検査所見】

〈血液検査〉

プロカルシトニン 6.04ng/mL, TP 7g/dL, ALB 3.4g/dL, CRP 0.94mg/dL,

T-Bil 3mg/dL, Ch-E 149U/L, AST 19U/L, ALT 14U/L, ALP 135U/L, γ -GTP 117U/L, LDH 292U/L,

CK 33U/L, アミラーゼ 106U/L, BUN 46.4mg/dL, CRE 6.45mg/dL, eGFR 9.1ml/min/1.73 m², Ca 8.8mg/

dL, P 3.4mg/dL, Mg 2.5mg/dL, Na 138mmol/L, K 3.9mmol/L, Cl 101mmol/L, WBC 6.89 × 10³/ μ L,

RBC 3.07 × 10⁶/ μ L, HGB 7.8g/dL, HCT 26.6%, PLT 302 × 10³/ μ L, NEUT 93.5%, LYMP 4.5%,

MONO 1%, PT 70.2%, PT 13.6, PT-INR 1.22, APTT 32.5 秒, フィブリノゲン 297mg/dL,

Dダイマー 2 μ g/dL, FDP 4.4 μ g/dL

〈静脈血ガス〉

pH (T) 7.358, pCO₂ (T) 37.8mmHg, pO₂ (T) 34.2mmHg, cHCO₃-20.6mmol/L, AG15.3mmol/L,

SBE-3.8mmol/L, cGlu78mg/dL, cLac2.4mmol/L

〈髄液一般定性〉

採取量 4.5MI 色調 無色 混濁 - 細胞数 <1/ μ L 単核 : 多形核 <1

糖定量 (髄液) 49mg/dL 蛋白定量 (髄液) 30mg/dL

〈頸部～骨盤部単純 CT〉

頭蓋内に急性期出血は指摘なし。占拠性病変なし。脳溝, 室拡大なし。

修正大血管転位症, VR 後, ペースメーカー留置, 壁に植え込み後。

心拡大, 血管影増強, VC 拡張あり。少量左胸水出現。縦隔リンパ節やや目立つ。

頸部, 骨上窩に有意なリンパ節腫大は指摘なし。

少量腹水貯留。肝は辺縁鈍で慢性肝障害様。両腎萎縮, 慢性腎不全。

胆, 膵, 副腎に特記すべき所見なし。膀胱虚脱。前立腺腫大なし。

左外腸骨域, 両鼠径部の軽度リンパ節腫大は不変。

右外腸骨動脈～大腿動脈術後。

左大腿前面に拡張血管の集簇を認め, 静脈瘤の可能性あり。

【入院時プロブレムリスト】

#1 敗血症

カテーテル関連感染 s/o

左下腿蜂窩織炎 s/o

#2 慢性腎臓病 (血液透析中)

#3 心不全 (修正大血管転位症術後)

#4 肝機能障害

#5 慢性貧血

#6 甲状腺機能低下症

【入院後経過】

救急搬送時は発熱や悪寒はあるものの意識は清明で呼吸状態も酸素投与で維持されていた。血圧が低く敗血症ショックに至っている可能性が否定できないとのことで敗血症治療に準じ、メロペネムとバンコマイシンによる広域抗菌薬投与を開始した。また、もともと透析をされていたため、入院中も持続的血液透析は続けることとなった。同時にエンドトキシン吸着療法も始めた。

ECに入室後、意識状態が悪化し舌根沈下も認められたため、気道確保目的に挿管され、人工呼吸管理が行われた。またバームカスの刺入部に汚染を認められたため、バームカスは抜去後再留置された。同日夜にはカテコラミンも投与開始となっている。

翌日未明には血液培養でグラム陰性桿菌が検出されたためメロペネムのみの抗菌薬投与に de-escalation された。培養結果から感染の focus が腸管である可能性も疑われ 3 日目に造影 CT が撮影された。

この頃から血圧がカテコラミンに反応せず、コントロールがつかなくなっている。入院 4 日目に死亡が確認された。

血液培養に関して入院 3 日目に E.Coli 陽性となった。監視培養も提出され、死後に陰性であったことが確認されている。

2. 臨床的疑問点

- ①最も死因に寄与した病態はなにか
- ② E.coli の感染経路・感染の focus はなにか

3. 病理解剖診断と主な所見

- ①修正大血管転位症（術後）、心肥大（860g）
- ②うっ血性肝硬変
 - ・側副血行路（食道静脈瘤、胸腹壁静脈）
 - ・腹水（400mL；淡血性）
- ③脾腫（560g）
- ④肺高血圧症、左側慢性胸膜炎（左 350g/ 右 370g）
- ⑤軽度の萎縮腎（左 130g/ 右 120g）

4. CPC における討議内容

修正大血管転位症のダブルスイッチ術後であり、右心不全や肺高血圧症のような症状が出て救急搬送前から心機能は悪化していたと考えられる。右心不全の影響でうっ血性肝硬変や腎機能低下の症状が出てきていたのだろう。そのような病態から予備能は低下しており、そこに E.Coli による感染症が重なり敗血症性ショックとなり死亡に至ったと考えられる。

5. 臨床的疑問点についての考察

- ①最も死因に寄与した病態はなにか

最初に本症例の基礎の病態となる修正大血管転位症について述べる。修正大血管転位症は左右の心室が入れ替わり、右房 - 解剖学的左室 - 肺動脈、左房 - 解剖学的右室 - 大動脈の二つの経路が存在する疾患である。治療方法としては、心室中隔欠損症や肺動脈狭窄、三尖弁閉鎖不全など

の合併があれば手術を選択される。術後の合併症としては心不全、導管の狭窄、難治性不整脈があり、難治性不整脈に対してペースメーカー植込み術を行うこともある。本症例で行われた外科手術は心房内血流転換術とラステリ手術を組み合わせ、左心室を体心室とするダブルスイッチ手術である。

本症例で死因に寄与したと考えられるものとして以下の病態が考えられる。

心不全：心不全とは何らかの心臓機能障害、すなわち、心臓に器質的および／あるいは機能的異常が生じて心ポンプ機能の代償機転が破綻した結果呼吸困難・倦怠感や浮腫が出現し、それに伴い運動耐容能が低下する臨床症候群のことである。増悪因子として急性冠症候群、不整脈、感染症、アドヒアランス不良、急性肺血栓塞栓症、薬剤、過度のストレス、ホルモン・代謝異常、機械的合併症があげられる。心不全は大きく分けて急性肺水腫、全身的な体液貯留、低心拍出、低灌流の三つの病態に分けられる。本症例では、心不全の所見として全身のうっ血所見や低血圧がみられる。本症例の入院前の心不全の経過・状態としてはエコーではEFは50%以上が保たれていたが、肺動脈狭窄があり、IVCは拡大し、呼吸性変動は見られなかった。全身のうっ血所見と考えられる。BNP、血圧に関して入院の1年ほど前から経時的に追いかけるとBNPはもともと上昇傾向であり、心不全は悪化していたと考えられる。入院後の経過としては入院1日目と3日目の胸部CTを比較した。入院3日目は入院1日目と比較して心拡大や胸水貯留は進んでおり、心不全の増悪または輸液負荷が原因と考えられる。

救急搬送時、急性心不全を示唆する様な所見はなく、入院加療中に心拡大や胸水貯留が進んでいる。敗血症性ショックによる臓器障害または輸液負荷によるものと考えられる。以上から、心不全は本症例の死因のきっかけではないが、最終的な死因であった可能性はあると考えられる。

敗血症性ショック：敗血症性ショックの診断について診断チャートに則って述べる。本症例は感染症疑いであり、入院時のqSOFAスコアを確認すると収縮期血圧と呼吸数の項目が当てはまるため、qSOFAスコアの合計は2点だった。続いて臓器障害の評価を行う。それにはSOFAスコアが用いられる。入院初日のSOFAスコアは呼吸が2点、凝固系が0点、肝臓が2点、循環系が3点、中枢神経が0点、腎が4点で、計11点だった。以上より本症例は敗血症の診断となる。十分な輸液負荷にもかかわらず、血管収縮薬を使用しており、入院時のLacも2以上で、敗血症性ショックの診断となる。入院4日目のSOFAスコアは17点であり、敗血症性ショックによる臓器障害は経時的に悪化していると考えられる。入院後の経過では敗血症への治療に関して、監視培養は陰性であり抗菌薬は十分に効いていると考えられる。

一方でショックに対してノルアドレナリンやドブタミンを使用しているが、経時的に血圧は低下、Lacは上昇しており治療効果は薄いと考えられる。本症例では全身の臓器障害が見られており、敗血症性ショックは死因である可能性は高いと考えられる。

腎不全：本症例では入院する5ヶ月前に尿量低下と腎機能の増悪があり、画像検査や尿検査、腎エコー検査が行われた。原因はうっ血腎による腎前性腎不全が最も考えられ、利尿剤や血液透析が行われた。実際、死後の病理結果からも本症例の腎不全はうっ血腎と考えて矛盾はなかった。うっ血腎の原因として、心機能の悪化により腎機能も悪化していく病態である心腎関連症候群が考えられる。特に右心不全では腎静脈圧の上昇により腎臓機能低下が見られる。本症例でもこのような病態が起こっていたと推察される。腎不全による死亡原因として考えられるものは体液過剰による溢水や尿毒症である。しかし本症例では透析導入をされており、体液過剰は考えにくく、また入院時の採血上も尿毒症の所見は確認できない。

以上より腎不全は直接の死因ではないと考えられる。

うっ血性肝硬変：肝硬変の定義は肝臓全体に再生結節が形成され、再生結節を線維性隔壁が取り囲む病変である。本症例の病理所見では架橋形成性の線維増生がみられ、肝硬変の状態と考えられる。また、肝門部の高度うっ血もみられ、病態としてはうっ血性肝硬変に矛盾ない。入院時の肝障害度は Child-Pugh 分類で 8 点であり中等度の肝障害で収まっている。食道静脈瘤破裂の既往はあるが、その後も血液検査上の肝機能は正常範囲内であり、非代償性の肝硬変には至っていないと考えられる。入院の半年ほど前からの AST、ALT の変化を追いかけると、異常値を示し始めたのは入院後であり、入院前の肝障害は著明ではない。

次に肝硬変に関する病態として ACLF について説明する。ACLF とは肝硬変などの慢性肝疾患に急性の原因による肝障害が加わって生じる病態のことである。単純な肝硬変の進行に比べて多臓器不全を合併しやすく、短期死亡率が高いとされる。ACLF では感染症や消化管出血などを契機に全身性の炎症が誘導され、肝障害の悪化、門脈圧の上昇、Bacterial translocation の増悪が起こる。それにより SIRS が引き起こされ、敗血症性ショック、多臓器不全へと移行していく。本症例も肝硬変や門脈圧亢進症があり、ACLF 発症準備状態であったと言える。感染症をきっかけに全身性の炎症が加速し、敗血症性ショックからの多臓器不全になったと考える。ACLF の診断基準（案）は Child-Pugh スコアが 5-9 点の肝硬変に、感染症などの要因が加わって、28 日以内に高度の肝機能異常に基づいて、PT-INR が 1.5 以上ないし PT 活性が 40%以下で、血清総 Bil が 5.0mg/dL 以上を示す肝障害を ACLF と診断する、とされている。本症例では、Child-Pugh スコアは 8 点であり、感染症もともなっているが、入院時の採血では PT-INR は 1.22、PT 活性は 70.2%、総 bil 3.0mg/dl で基準を満たさなかった。死亡直前の採血でも同様だった。本症例では、ACLF の臓器障害の項目としては腎臓と循環器の障害が該当する。診断基準は満たさないが、ACLF のような病態が本症例の多臓器不全に関与したと考えられる。肝硬変による死因としては肝機能の低下、食道・胃静脈瘤破裂、肝がん、ACLF などがあげられる。直接的な死因ではないが、状態悪化に寄与した可能性はある。

硬膜下血腫：入院 3 日目の CT で入院時の CT にはなかった硬膜下血腫が出現していたが、明らかな脳ヘルニアはなく、意識レベルへの影響はほとんどないと考えられる。入院時の採血で血小板減少や凝固機能の低下がみられ、硬膜下血腫の原因は肝硬変や透析による出血傾向であると考えられる。ただ脳幹の圧排がみられないことなどから硬膜下血腫が死因である可能性は低いと考えられる。

まとめ：修正大血管術後の合併症である心不全が原因でうっ血腎やうっ血性肝硬変となり、予備能は低下していた。その状態で感染が起き、コントロール不良の敗血症性ショックで多臓器不全に至り、死亡したと考えられる。また、ACLF の診断には至らなかったが、これに類似した病態の関与の可能性もある。

② E.coli の感染経路・感染の focus はなにか

まず、E.Coli について述べる。培養結果で検出された E.coli は腸管内に常在するグラム陰性桿菌で、生じうる代表的な感染症としては肝胆道感染、尿路感染、腹腔内・骨盤内感染症、カテーテル血流感染、新生児髄膜炎などが挙げられる。我々は E.coli が原因菌となりやすい感染巣と身体所見から推測される感染巣を考慮し、focus について 7 つの感染経路を挙げた。

尿路感染：本患者は透析患者であり、今回は透析患者に関する尿路感染にフォーカスをあてて調べた。透析患者に発症する感染症のうち、尿路感染は 11 ~ 25%程度である。透析患者では 28 ~

45%に膿尿が見られる。透析患者における感染症からの検出菌は、由来臓器に限らずグラム陽性球菌からグラム陰性桿菌まで多様である。無症候性細菌尿は透析患者であっても抗菌薬治療の適応とならず、症状を有する急性増悪時にのみ抗菌薬の投与がなされる。透析患者の尿路感染は膿尿、細菌尿の証明、自他覚所見で診断する。透析患者では尿検体が採取困難な場合も多く、診断が困難な場合は多いとされる。治療は複雑性尿路感染に準じて行う。血液透析患者の尿路感染について追跡した論文があったため提示する。慢性透析患者 236 名を対象に 1 年間追跡した。感染症に罹患したのは合計で 83 例であり、そのうち 42 例は尿路感染であったと報告されている。透析患者の尿路感染の罹患率が高いことがうかがえる。本患者では腎機能障害が高度であり排尿がなかったため、尿検査は施行することができなかった。また、尿路感染を示唆するような自覚症状もなく CT で水腎や膿瘍などの所見もみられなかった。病理所見上も感染を示唆する所見はない。たしかに疫学や血培からは尿路感染が最も考えやすいが、臨床所見をふまえると尿路が感染源である可能性は低いと考えられる。

カテーテル関連血流感染症：カテーテル感染症の臨床症状は発熱、悪寒、戦慄などでありカテーテル抜去のみで解熱する場合もあるが、重症例では全身性炎症反応症候群に基づく臓器障害を合併することもまれではない。代表的な原因微生物としては、coagulase negative Staphylococcus, S. aureus, Candida 属, Enterococcus, グラム陰性桿菌が挙げられる。カテーテル関連血流感染症の原因菌の割合について確認するとやはり先ほど述べたように coagulase negative Staphylococcus が 37%と多くを占めるが E.coli も 2%と決して少ない割合ではない。カテーテル関連血流感染症の診断基準は少なくとも 1 セットの皮膚から採血した血液培養とカテーテル先端培養から同じ微生物が検出される、または経皮的血液採取とカテーテルから採血された血液培養を持って決定される。悪性腫瘍など全身状態悪化例では陰性桿菌起因率は上がり、刺入部の発赤などあればより疑わしい。本患者は内頸静脈のバームカス留置部に汚染を認め、2 セットの血液培養で E.coli が陽性となったが、カテーテル先端培養などは施行されず、診断基準は満たさなかった。透析患者における血流感染の原因菌と菌種について調べると、血管内感染の項目はやはり S. aureus が圧倒的上位を占めるが E.coli の割合も先ほどの円グラフ同様、決して少なくない割合である。以上のことよりカテーテル感染が感染の直接の原因である可能性は高いと考える。

感染性心内膜炎：本患者では血液培養で E.coli が陽性、病理所見では疣贅や心内膜炎の所見はなかった。抗菌薬投与後は速やかに解熱している。血液培養に関して E.coli 陽性の報告はごく少数である。感染性心内膜炎の診断基準として今回は修正 Duke 診断基準を用いる。本患者において大項目は一つも満たさなかった。つづいて小項目では、本患者では先天性心疾患があり、38 度以上の発熱。血液培養陽性炎症所見も認めた。診断基準と照らし合わせると小基準 3 つを満たすものの 4 日以内の抗菌薬投与後の手術時または剖検時に IE の病理学的所見を認めないという項目に合致するため感染性心内膜炎である可能性は否定的であるといえる。以上より本患者の感染が感染性心内膜炎であった可能性は低いと考える。

肝胆道感染：入院時の身体所見で腹部の圧痛など特記所見はなかった。血液検査では胆道系酵素の上昇がみられるが入院前と数値に大きな変化はなく、CT 上でも疑わしい所見はなかった。また、病理結果も肝胆道系の感染を示唆する所見はなかった。以上より、肝胆道感染が感染源になった可能性は低いと考える。

左下腿の蜂窩織炎：来院時の身体所見としては左下腿の腫脹、把握痛、熱感があった。来院時 CT 所見では皮下脂肪織混濁を認める。深部の筋間隙の脂肪織混濁やガス像などは目立たない。臨床

所見やCT所見からは蜂窩織炎が疑われる。壊死性筋膜炎の診断予測スコアとしてLRINECスコアがあり、本患者ではヘモグロビンとクレアチニンの項目で入院時は4点であった。カットオフ値は6点であり壊死性筋膜炎の可能性は高くないと考えられる。スペインで行われた蜂窩織炎で入院した成人患者の合併症と死亡率に関連する要因についての研究では、蜂窩織炎患者の基礎疾患として、肝硬変、心不全、静脈うっ滞が高い割合を占めている。本症例では基礎疾患に肝硬変と心不全があり、また入院1週間前の心臓血管外科外来で静脈不全の可能性が指摘されている。蜂窩織炎を起こしやすい状態であったと考えられる。同じ研究で蜂窩織炎の起因菌についても調べられており、E.Coli陽性率は7%だった。また様々な文献をあたったが、蜂窩織炎の血培陽性率は2-21%だった。以上より本症例において左下腿の蜂窩織炎が感染源である可能性は高いと考えられる。

中枢神経系感染：中枢神経系への感染は主に髄膜炎や脳炎が考えられる。髄膜炎の症状は発熱、頭痛・嘔気などの頭蓋内圧亢進症状、項部硬直などの髄膜刺激症状があげられる。脳炎の症状は前述した三つに加えて、意識障害、精神症状、異常行動、見当識障害、興奮、錯乱、けいれん、麻痺がある。診断は髄液検査で行う。本症例でも髄液検査は行われたが感染所見はなく、髄液培養も陰性だった。中枢神経系感染症である可能性は否定的である。

bacterial translocation：Bacterial translocationとは絶食や腸管粘膜の破綻、免疫の低下などにより腸管内細菌が粘膜バリアを通過して体内に移行することである。腸管細菌叢の変化、腸管粘膜の脆弱化、宿主免疫能の低下などの要因によって引き起こされる。本症例のbacterial translocationのリスクについて考察する。まず腸管粘膜の脆弱化についてだが、病理解剖では腸管の静脈拡張や淡血性腹水などはみられるものの腸管粘膜は正常だった。

次に腸管細菌叢の変化についてだが腸管細菌叢が変化する原因として本症例ではSIRS、肝硬変、臓器不全などがある。最後に宿主免疫能の低下に関してだが本患者は肝硬変、血液透析、慢性心不全、貧血などを抱えており免疫能は著しく低下していたと考えられる。以上より本症例には腸管細菌叢の変化と宿主免疫能の低下がありbacterial translocationを引き起こしやすい状態であったことがわかる。今回の死因のきっかけではないが病態悪化を加速させる要因であったと考えられる。

まとめ：本患者の感染経路・感染のfocusとしてカテーテル関連感染と左下腿の蜂窩織炎の可能性が高いと考えられる。

本症例の考察

本患者は修正大血管転位症術後の心不全によるうっ血性肝硬変、うっ血腎などの影響で予備能は低下していた。そこに敗血症性ショックによる多臓器不全が重なり、死に至ったと考えられる。感染のfocusについてはカテーテル関連血流感染症と左下腿の蜂窩織炎の可能性が高いと考えられる。

本症例のまとめ

修正大血管転位症のダブルスイッチ手術後で敗血症を機に多臓器不全となった一例を経験した。元々右心不全や肺高血圧症の症状があり、肝硬変や腎不全も起こっており予備能は血汁しく低下していたと考えられる。先天性心疾患は手術をしても根治に至らなかったり、術後20年以上経つと循環がうまく働かなくなったりすることもあるようだ。そうなった場合の対象療法以外の治療

が確立されることが期待される。また元々予備能が低下していた方の感染は感染経路がはっきりしなかったり、非特異的な微生物が検出されたりすることもあるため、様々な可能性を考慮して診察に当たる必要がある。

【参考文献】

ICU 患者における腸内細菌叢 清水健太郎

モダンメディア 65 巻 11 号 2019 「腸内細菌叢」

ACLF と門脈圧亢進症 - 消化管出血に起因する ACLF の病態 - 瀬川誠 石川剛 坂井田功

医学の歩み Vol.272 No.7 2020.2.15

健康な成人に発症し、Bacterial translocation の関与が想定された敗血症の 1 例

川崎市立川崎病院リウマチ科 同感染症科 同内科 慶應義塾大学中央臨床検査部

大曾根康夫 小花光夫 小井戸則彦 秋月哲史 松岡康夫 小林芳夫

JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017—敗血症およびカテーテル関連血流感染症—

カテーテル関連血流感染症の実態と対策・治療

—第 61 回日本透析医学会学術集会・総会シンポジウムより—

村上穰 降旗俊一 池添正哉

JAID/JSC 感染症治療ガイドライン—呼吸器感染症—

JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015—尿路感染症・男性性器感染症—

修正大血管転位症 厚生労働省

知っておきたい循環器病あれこれ 心臓と腎臓の深い関係 - 心腎連関症候群 -

公益財団法人 循環器病研究振興財団

心不全患者で腎機能の障害を来す 新たな機序の解明

心不全では『腎臓の血液渋滞=腎うっ血』に要注意

血液透析患者の尿路感染症 高松赤十字病院泌尿器科 高知高須クリニック

Factors Associated with Complications and Mortality

in Adult Patients Hospitalized for Infectious Cellulitis

Published online: 5 March 2003

CPC レポート (第 155 回 中央病院 CPC)

研修医氏名: 山崎佳大, 山本直希, 中島潤哉

CPC 年月日: 2023 年 4 月 25 日

解剖番号: A996

診療科: 総合内科 主治医・臨床指導医氏名: 永水恭介 病理解剖医: 小田晋輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】

82 歳, 女性

【主訴】

意識障害

【現病歴】

20XX年6月6日、家族から見て体調不良な様子があり、顔面、四肢、体幹に痒みを伴わない突然発症の紅斑があった。6月7日、同居の家族が出張に出かけ自宅で1人となっていた。6月8日、患者本人と連絡が取れないため家族が警察に連絡したところ、こたつで横になって倒れている患者本人を発見し救急要請となった。それまでの自宅での生活状況・ダニへの暴露歴は不明。

【既往歴】

真性多血症（当院血液内科で加療中）、2型糖尿病、高血圧、手術歴なし

【生活歴】

喫煙：なし 飲酒：なし ADL：自立

【家族歴】

特になし

【内服薬】

ハイドロキシウレア 500mg/1000mg、カンデサルタン 8mg

【入院時現症】

身長：155.0cm、体重：52.9kg、体温：37.9℃、血圧：120/56mmHg、脈拍：116回/分、SpO₂：100%（room air）、呼吸数：16回/分

【身体所見】

意識：JCS I -1、GCS：E4V4M6

頭部：結膜に蒼白・黄染なし

頸部：項部硬直なし、リンパ節触知せず

胸部：呼吸音減弱左右差なし、心音整、明らかな心雑音聴取せず

腹部：平坦・軟、圧痛はつきりせず、腸蠕動音の亢進/減弱なし

四肢：浮腫なし、関節炎症所見なし

皮膚：手指、足背に末梢性チアノーゼあり

膝関節の上下部に網状皮斑あり

顔面、体幹、上下肢に散在性の紅斑あり

明らかな刺し口は確認出来ず

大陰唇、肛門12時方向にわずかなびらん形成あり

Osler結節なし、Janeway発疹なし

splinter hemorrhageなし

【検査所見】

〈血液検査〉

プロカルシトニン 6.82ng/mL、心筋トロポニン T 0.048ng/mL、TP 6.2g/dL、

ALB 2.6g/dL、CRP 20.31mg/dL

T-Bil 0.8mg/dL、AST 153U/L、ALT 80U/L、ALP 92U/L、 γ -GTP 18U/L、LDH 577U/L、CK 1013U/L、

CK-MB 16U/L、アミラーゼ 106U/L、BUN 76.7mg/dL、CRE 2.54mg/dL、eGFR 14.6ml/min/1.73

m²、Ca 8.2mg/dL、Na 129mmol/L、K 4.8mmol/L、Cl 93mmol/L、WBC 9.29 × 10³/ μ L、RBC 3.60

× 10⁶/ μ L、HGB 14.3g/dL、PLT 142 × 10³/ μ L、NEUT 95.2%、LYMP 3.0%、MONO 1.3%、PT

77.2%、PT 12.9、PT-INR 1.15、APTT 37.9秒、フィブリノゲン 191.4mg/dL、D-dimer 129.0 μ g/

dL、

〈尿検査〉

色調 黄色 混濁 1+ 比重 1.015 p H 5.5 尿蛋白 2+ 尿糖 - ケトン体± 尿潜血 3+
ウロビリノーゲン正常 ビリルビン - 亜硝酸 - 白血球反応 1+

〈胸部レントゲン〉

肺野は全体的に透過性低下し、すりガラス影を認めた。心拡大、胸水は臥位のため評価困難だった。

〈12 誘導心電図〉

洞性頻脈と心室性期外収縮を認めた。ST-T 変化は認めなかった。

〈頭部～骨盤部単純 CT〉

頭部：年齢相応の脳萎縮を認めるのみで、明らかな異常所見は認めなかった。

胸部：吸気条件によると思われる、両肺の含気低下を認めた。すりガラス影、血管影の増強、気管支壁肥厚は含気の低下の影響を考えるが、気管支炎やうっ血肺なども考えられた。縦隔および肺門リンパ節の腫大を認めなかった。

少量の心嚢液貯留を認めた。心拡大、胸水貯留を認めなかった。

腹部および骨盤部：

肝の吸収値がやや低下しており、脂肪肝や肝障害が疑われた。胆嚢、膵臓、脾臓、副腎、腎臓に特記所見を認めなかった。下行結腸と左腰筋間に卵巣嚢腫と思われる 3cm 大の嚢胞構造を認めた。著明な膀胱拡張を認め、尿閉や神経因性膀胱が疑われた。リンパ節腫大は認めなかった。腹水も認めなかった。

【入院時プロブレムリスト】

- #1 日本紅斑熱
- #2 敗血症性ショック
- #3 血球貪食症候群
- #4 DIC

【入院後経過】

6月8日

CTで熱源不明であったが、初期評価でSOFAスコア、SIRSの基準を満たしたため、敗血症の状態と判断して治療を開始した。初期評価の段階で発熱・全身性の紅斑・6月がマダニの活動時期であるという季節性から日本紅斑熱も疑われた。初期治療として輸液 2000mL を負荷、EC病棟入室しノルアドレナリンの持続投与を開始した。また熱源不明の敗血症に対し抗生剤はカルバペネム、バンコマイシンを開始した。その後、血圧は一時回復したが再度血圧低下あり、腎機能障害も改善しなかった。

6月9日

日本紅斑熱を疑い、検体を保健所に提出しミノサイクリンを開始した。

午後、保健所からの日本紅斑熱陽性の報告で確定診断となった。

エキスパートオピニオンだが重症日本紅斑熱に対しニューキノロンとテトラサイクリン併用療法で治癒した症例報告もあるためLVFXを追加投与した。

AST/ALT、LDの高値に加えて、同日未明の血液検査で血小板が14万から7万に減少していた

ことから、血球貪食の可能性を考慮して骨髄生検を実施した。

フェリチンの増加や血球貪食像が散見され、血球貪食症候群と確定した。

23 時頃に高 K 血症とアシドーシスの進行があり、CHDF を開始した。

同時に輸液負荷と血管透過性亢進による肺水腫、呼吸数増加があったため気管挿管を行い、人工呼吸管理となった。

6 月 10 日

血液データが増悪し血球貪食症候群に対しステロイドパルス療法と血漿交換療法を実施した。

しかし血液データが急激に悪化し、高 K 血症とアシドーシスを CHDF high performance 下で制御できない状態となった。家族へICを行い、臓器障害が不可逆的な状態になっていることを説明し、治療強化を終了、BSC の方針となった。

6 月 11 日

午前 11 時 58 分に死亡確認。

入院時採取の血液培養は陰性。

2. 臨床的疑問点

1. 日本紅斑熱以外に把握できていない病態はなかったか
2. この症例が重篤な経過をたどった理由
3. 来院時からの意識障害の原因

3. 病理解剖診断と主な所見

【主病変】

〔日本紅斑熱〕 微小血管炎, DIC, 血球貪食症候群

【副病変】

- ・ 心筋炎 (290g)
- ・ 肺水腫 (左 400g: 右 500g)
- ・ 胃潰瘍
- ・ 過形成性骨髄
- ・ 腔水症 左胸水 700mL, 右胸水 1000mL, 腹水 400mL

4. 臨床的疑問点についての考察

①日本紅斑熱以外に把握できていない病態はなかったか

日本紅斑熱の診断は末梢血検体による PCR, またはペア血清による診断で行う。本症例では保健所に提出した末梢血検体で PCR 陽性であり、日本紅斑熱は確定診断となっている。日本紅斑熱は確定診断だが、その他の感染の合併について考察した。一般細菌の合併について、各種培養結果が陰性であることから否定的であった。同じダニが媒介するツツガ虫病の感染だが、採血でツツガ虫抗体陰性であり否定的であり、また手掌や足底にも紅斑が及んでおり皮疹の特徴としてもツツガ虫病は一致しない。皮疹+発熱の鑑別疾患としてデング熱, チクングニヤ出血熱, ジカウイルス感染症, 麻疹などがあがるが渡航歴がないため否定的と考える。薬疹・薬剤熱の可能性だが、常用薬は真性多血症に対する内服薬のみで少なくとも直近 1 年間で薬剤変更歴ないことから否定的と考える。二次性の血球貪食症候群の原因として多いウイルス感染は、病勢

のコントロールが優先され詳細に検索できていないため完全には合併が否定できていないが、周囲の感染状況や、接触歴からは否定的と考える。その他原因となる寄生虫・真菌感染、悪性腫瘍は培養検査、病理所見から否定的と考える。全体として、病理診断結果でも他病態の合併を示唆する明らかな所見がなく、本症例は日本紅斑熱および血球貪食症候群を主とする病態で矛盾無かったと考える。

②重篤な病態をたどったのはなぜか

リケッチア感染は未治療の場合は致死性であり、適切な抗菌薬治療が著効するため、リケッチア感染を疑った場合には早期の抗菌薬治療が必要である。本症例では比較的早期にリケッチア感染を疑い、受診 16 時間後にはテトラサイクリンの投与を開始したが結果として救命に至らなかった。推測になるが、おそらく感染・発症から数日が経過しており、受診時にはすでにリケッチア感染による血管炎、DIC を起こし、病勢が治療でコントロール出来ない状態まで進行していたことが考えられる。また稀ではあるがリケッチア感染により血球貪食症候群が発症し、より重篤な病態となってしまったと考えた。日本紅斑熱に関して、治療の開始時間と予後について有意な相関関係があるという研究は調べた中では見つからなかった。日本紅斑熱の原因となる *Rickettsia japonica* と同じ *Rickettsia* 属に所属する *Rickettsia rickettsii* が媒介するロッキー山紅斑熱に関して治療の遅れと疾患の重症度との間に有意な相関関係を示したコホート研究があったので引用する。アリゾナ州の医療機関でロッキー山紅斑熱と診断された 205 症例のうち、ドキシサイクリンによる治療開始時期によって予後に有意差があった。ドキシサイクリンの投与が、致命的症例では中央値 7 日目から開始、非致命的症例では中央値 3 日目から開始しており、致命的症例で有意にテトラサイクリンの投与開始が遅いという結果が出ている。致命的症例では 6 日～9 日の幅があり、少なくとも 5 日以内に投与した群では死亡例が報告されなかった。家族からの話によると 6 月 6 日の時点で全身性の紅斑を認めており、症状発生から 3 日でテトラサイクリンの投与を開始している。このことから本症例では 6 月 6 日以前から症状が出た可能性や、日本紅斑熱に血球貪食症候群が合併したことでより重篤な経過となった可能性が考えられる。

③意識障害の原因

病理解剖ではご家族の意向もあり中枢神経の解剖は出来ておらず、日本紅斑熱および血球貪食症候群の中枢神経への影響は病理学的に明らかになっていない。意識障害に至った原因としては図に示した病態が考えられた。1 つ目にリケッチア感染による血管内皮細胞障害から血管炎が起こり、組織因子が誘導され、凝固因子消費・易出血性となって、多発微小脳梗塞および出血が誘発され、意識障害に至ったと考えた。2 つ目に日本紅斑熱や血球貪食症候群から DIC が起こり、同様に多発微小脳梗塞・出血から意識障害に至ったと考えた。3 つ目にリケッチア感染によって脳炎・髄膜炎を起こし意識障害に至ったと考えた。

本症例のまとめ

日本紅斑熱が重症化した一例を経験した。本症例は日本紅斑熱を原因として血管炎、血球貪食症候群、DIC を引き起こした。比較的早期に日本紅斑熱を疑い適切な抗生剤治療を行いたが、受診時すでに発症から時間が経過しており、かつ血球貪食症候群の合併も起こしていたことから救命に

至らなかったと考えた。

日本紅斑熱は治療開始が遅れると重症化し致命的となる疾患であり、救命のためには早期診断、早期治療開始が重要となる。本症は全身性の紅斑と発熱を見たときに疑う。日本紅斑熱の場合、紅斑は手掌足底まで及ぶことが多く、痒みを伴わないことが特徴的である。

【参考文献】

国立感染症研究所 HP

国立感染症研究所 HP IASR Vol.41 p133-135: 2020 年 8 月号

感染症発生動向調査

Pathogenesis of Rickettsial Diseases: Pathogenic and Immune mechanisms of an Endotheliotropic Infection

Lancet. 2014 Apr 26;383 (9927) :1464

Clin Infect dis.2015 Jun 1;60 (11) :1650-8

CPC レポート（第 156 回 中央病院 CPC）

研修医氏名：福田真由，鈴木隆将，大坪直人

CPC 年月日：2023 年 9 月 4 日

解剖番号：A999

診療科：救急集中治療科 主治医・臨床指導医氏名：宗村佑人 病理解剖医：徳安祐輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】

75 歳男性

【主訴】

意識障害

【現病歴】

2021 年 9 月より上肺野優位型肺線維症 PPFE (Pleuroparenchymal Fibroelastosis) として米子医療センターで 3 ヶ月に 1 回フォローされていた。

2022 年 7 月 23 日 13 時頃から孫の試合を冷房の効いた体育館で応援していた。15 時頃、帰宅しようと駐車場まで歩いていた際に、路上に上向きに転倒、目撃した人が救急要請した。救急隊接触時も転倒した状態であり、反応が悪く血圧も低かったためショックと判断された。酸素 10L/分投与、20G 確保し補液しながら当院搬送となった。

【既往歴】

膀胱癌術後

間質性肺炎

【生活歴】

喫煙：なし 飲酒：あり ADL：自立

【家族歴】

詳細不明

【内服薬】

なし

【入院時現症】

身長：167.8cm, 体重：62.5kg, BT：39.5°C（直腸温）, BP：133/96mmHg, HR：147/min
RR：30/min, SpO2：94%（リザ付き酸素 10L）, GCS：12（E3V4M5）

【身体所見】

結膜：蒼白なし, 黄染なし

口腔：咽頭発赤腫脹なし

頸部：リンパ節腫脹なし, 頸静脈怒張なし, 項部硬直なし

胸部：rhonchi（+）

胸部, 腹部, 四肢：網状皮斑（+）

【検査所見】

〈血液検査〉

〈静脈血ガス〉

〈頸部～骨盤部単純 CT〉

【入院時プロブレムリスト】

#1 Ⅲ度熱中症

#2 間質性肺炎急性増悪

#3 脱水症

【入院後経過】

IVC 虚脱, 血液濃縮は外液負荷により徐々に改善した。外液負荷, 酸素 10L/分投与継続し, EC 入院となった。

Ecbolic に入室後, 大量の泡沫痰を認め, ショックとなった。吸引と 100%酸素投与を要する状態であり, 気管挿管され, 人工呼吸器管理が行われた。挿管後の胸部 X 線では, 両肺の透過性低下, 肺炎像が認められ, 肺水腫を来していると考えられ, フロセミド投与された。また, 入院時 CT より, 間質性肺炎の急性増悪も考えられ, ステロイドパルス, メロペネム開始となった。この際の血液培養は 1 セットのみ MSSA 陽性であった。入院時 q SOFA は意識障害のみの 1 点で, エコー, CT で疣贅や膿瘍などの感染源は認めなかったことからコンタミの可能性が高いものの, 真の菌血症として監視培養を行いながら真の菌血症として対応することとした。また, 急性 DIC スコア 5 点であり, リコモジュリン投与した。

第 4 病日, PPFE の既往あり, 肺の状態は悪く, 早期の呼吸器離脱は困難と判断され, 意識覚醒目的, 誤嚥予防も考慮し, 気管切開が施行された。

第 5 病日に呼吸器内科にコンサルタントしたところ, 間質性肺炎よりは PPFE に重症熱中症による肺水腫を合併している可能性が高いと考えられた。ステロイドは早期減量の方針となり, フロセミド 1A 投与となった。

第 6 病日にステロイドパルス後の画像評価を行ったところ, 入院時 CT と比較して両側胸水増加あり。フロセミドに追加で hANP iv, 右胸腔穿刺施行された。黄色透明胸水を 650mL 排液した。胸水検査では漏出性胸水であり, 熱中症による肺水腫として矛盾しない結果であった。また, MSSA に関して感受性は広く sensitive であり, 炎症反応も低下傾向であったためセファゾリンに de escalation とした。

第 10 病日に右胸痛の訴えあり。同部位に皮下気腫あり，CT で両側気胸を認めた。また，胸水はほぼ消失していた。気胸は軽度であり，トリロジの圧を下げて経過観察の方針となった。

第 15 病日頃から安静時頻呼吸を認めていた。また，経過中呼吸器との同調は得られておらず，リハビリテーションも進んでいない状態であった。

第 16 病日 9 時頃から血圧 70-100mmHg 台と低く 11 時頃，黒色便を中量認めた。出血源検索のために造影 CT とったところ，造影 CT 後に心肺停止となった。2 サイクルで ROSC し，ROSC 後のエコーで心収縮は良好であった。造影 CT で造影剤の血管外漏出は認めなかった。肺の所見としては両肺ですりガラス影，胸水の増悪は認めなかったものの，両側の気胸は前回からやや増強していた。また，右肺下葉背側に浸潤影を認め，誤嚥性肺炎が疑われた。さらなる出血源精査のため上部消化管内視鏡も施行されたものの，明らかな出血は認めず，非閉塞性腸管虚血 NOMI (Non-Occlusive Mesenteric Ischemia) が考えられた。BSC の方針となり，BT < 37°C で管理，ミダゾラムで鎮静を行った。また，努力呼吸を認めたため，モルヒネ開始した。

同日深夜より血圧，脈拍低下し，第 17 病日 5 : 55 死亡が確認された。

2. 臨床的疑問点

- ①入院時の病態について
- ②死因に寄与した病態
- ③病理で DAD パターンが見られたのはなぜか

3. 病理解剖診断と主な所見

- ① PPFE，急性間質性肺炎，急性肺胞性肺炎
- ②小腸～直腸の虚血性障害
- ③腎臓の急性尿細管障害
- ④慢性甲状腺炎
- ⑤食道の急性潰瘍

4. CPC における討議内容

入院時の病態について議論が及んだ。

救急搬送当日，患者は体育館で試合観戦・応援をしていた。2 時間後に試合から出た後転倒し，救急隊到着時まで倒れた状態が続いたが，夏期は室内や短時間でも熱中症になる例が報告されており，患者が試合途中でふらつきを訴えていたことから熱中症であることは強く疑われた。他の意識障害を来す疾患として不整脈や脳血管疾患も鑑別にあげるべきであったが，入院後心電図では不整脈はなく，脳血管疾患を疑うような身体所見や CT 所見がないことから否定的であった。

5. 臨床的疑問点についての考察

- ①入院時の病態について

入院時の病態として，PPFE そのものの悪化によるものであったのか，重症熱中症による呼吸不全であったのかについて検討した。

最初に本症例の基礎疾患であった PPFE について述べる。PPFE とは病変主座が両側上肺野にあり，Ⅰ. 病理学的につぶれた肺胞に由来する胸膜下弾性線維の帯状あるいは楔状の集簇，Ⅱ. 肺胞隔壁を取り巻くように弾性線維が増生し，肺胞内に膠原線維が充満している像，Ⅲ. 硝子

化した膠原線維による胸膜の肥厚，などの所見を有する慢性線維化性間質性肺炎である。本症例では入院前の経過としてCT上でPPFEの慢性的な進行がみられていた。しかし，入院時のCTで線維化の増悪所見がみられなかった事，病理でPPFE自体の変化は上葉の胸膜側にとどまっており，急性の組織学的変化はみられなかった事，PPFEに他の間質性肺炎が合併した像は見られなかった事からPPFEの悪化は否定的であった。

次に熱中症について考える。熱中症の重症度分類は以下のようになっている。

I度（軽症）めまい，立ちくらみ，生あくび，筋肉痛，意識障害を認めない（JCS=0）

II度（中等症）頭痛，嘔吐，倦怠感，虚脱感，集中力や判断力の低下（JCS ≤ 1）

III度（重度）中枢神経症状（JCS ≥ 2），肝・腎機能障害，血液凝固異常

本症例では13時から体育館での試合観戦・応援をしており，15時あたりからふらつきを自覚，帰宅しようと屋外にて転倒し，その後通行人の発見，救急隊到着までアスファルトの上で倒れていた状態が続いた。夏のアスファルトの温度は65℃にもなりうるため，高温下で脱水が進行し，III度熱中症になったと考えられた。熱中症により呼吸不全になった機序として，熱中症による高サイトカイン血症が起こり，血管透過性亢進，さらに輸液負荷も相まって肺水腫となり呼吸不全となったと考えられた。

②死因に寄与した病態

最も死因に寄与した病態として，基礎疾患としてあったPPFE，入院中に起こった誤嚥性肺炎，NOMIについて検討した。

PPFEについて，前述しているが病変主座が両側上肺野にあり，I. 病理学的につぶれた肺胞に由来する胸膜下弾性線維の帯状あるいは楔状の集簇，II. 肺胞隔壁を取り巻くように弾性線維が増生し，肺胞内に膠原線維が充満している像，III. 硝子化した膠原線維による胸膜の肥厚，などの所見を有する慢性線維化性間質性肺炎である。

20XX-7/23入院時CTで両肺尖部，上葉中心に浸潤影，両肺底部中心のすりガラス影，間質の炎症や線維化を認めていたが，20XX-8/7のCPA直前のCTではすりガラス影悪化は見られず，浸潤影も著変無かった。病理でもPPFE自体の変化は上葉の胸膜側にとどまっており，急性の組織学的変化はみられなかった。そしてPPFEに他の間質性肺炎が合併した像もみられなかった。これらの事よりPPFEは直接の原因である可能性は低いと考えられた。しかし，換気機能は悪化していたと考える。

次に誤嚥性肺炎について検討した。誤嚥性肺炎の定義として感染症治療ガイドラインではADLや全身機能の低下，脳血管障害等による嚥下機能低下を背景に起きる肺炎とされている。経過では，8/1よりたびたび誤嚥の指摘があり，8/2時点のCTでは誤嚥の所見はなかったものの8/7時点で右下葉背側に浸潤影あり，病理では誤嚥性肺炎の所見がみられた。誤嚥性肺炎は，右下葉背側に限局していたものの，元々PPFEやARDSにより肺の予備能は低下しており，その状態で誤嚥性肺炎が起こる事により肺に炎症・障害を来しCO₂貯留による臓器障害，血管拡張や血管透過性亢進によるショック，心停止が起こったと考えられた。これらのことから直接の死因となった可能性は高い。

最後にNOMIについて検討した。

まずNOMIの定義について，末梢動脈疾患ガイドライン2022では器質的な血管閉塞は存在しないものの，主幹動脈の開存にも関わらず腸管虚血をきたし腸管壊死にも至る予後不良な疾患と

されている。心不全、ショック、脱水、維持透析、周術期低拍出量症候群などが誘因となる場合が多く、低灌流状態が一定期間持続すると末梢辺縁動脈の交感神経が反応して血管攣縮を引き起こし、腸管虚血が生じる。

NOMIの診断基準について、低心拍出量例や心原性ショック例、血管収縮剤が投与されている症例では、臨床症状から診断としてNOMIを考慮するとしている。また、NOMIが疑われる症例では最も信頼できる診断検査法としてCTA（CT angiography）や血管造影を考慮する。

NOMIの病態としては、腸管粘膜傷害によるbacterial translocationとそれによる炎症誘発性サイトカインにより血管透過性が亢進し、循環血液量が減少する。さらに炎症や出血により循環血液量が減少し、ショックへと陥る。また、循環不全による低酸素状態により、体内では嫌気性代謝がおこり、乳酸が蓄積し代謝性アシドーシスとなる。本症例では20XX/8/1以降Hbの減少、BUNの上昇がみられており、黒色便もあったため出血はあったものと考えられる。病理所見では小腸粘膜に広範の発赤を認め、結腸・直腸にもやや発赤を認めたが、粘膜筋板や固有筋層は保たれており、NOMIの所見としては軽度であった。20XX/8/7のCPA直前の静脈血ガス所見ではpH：7.269、pCO₂：69.7mmHg、pO₂：82.0mmHg、HCO₃：26.6mEq/L、cLac：0.7mmol/Lと呼吸性アシドーシスではあったものの、乳酸蓄積はしておらず代謝性アシドーシスにはなっていない。これらの事から病理所見は軽度であり、虚血による粘膜傷害により出血はあった可能性はあるが、代謝性アシドーシスには至っておらず、ショックや臓器障害による結果としてたびたびNOMIが発症したと考える。結果、直接の死因であった可能性は低いと考えるが、出血によるHbの減少により全身の予備能低下を来しており、またCPA直前に臓器障害の結果としてNOMIが発症し、ショックが進んだ可能性は十分に考えられた。

以上3つの病態について検討したが、結論としてPPFEは直接的な死因ではなかったものの呼吸状態や循環状態が崩れやすい状態であった。その状態で誤嚥性肺炎が起こり、CO₂貯留による臓器障害・血管透過性亢進によるショック、心停止が起こった。NOMIはその過程で起き、Hb減少による全身臓器予備能低下を来し、さらにCPA直前では臓器障害の結果としてNOMIが発症し、ショックが進んだと考えられる。蘇生によりROSCは得られたが、呼吸・循環動態が戻ることはなかった。

③病理でDADパターンがみられたのはなぜか

20XX/8/7のCTで肺の血管透過性亢進の所見が無かったにも関わらず、病理ではDADパターンの所見が見られた事に対して考察していく。

まずDADパターンについて説明する。DADパターンとはARDSの病理組織像であり、肺胞上皮細胞・血管内皮細胞の障害発生から順に、大きく3つの病期に分類される。早期は透過性亢進を伴う滲出性病変と硝子膜形成を特徴とする急性滲出期、約3日目ごろからは間質内の線維芽細胞の増生とⅡ型肺胞上皮の過形成を特徴とする亜急性増殖期、約10日後からは膠原線維の沈着による肺構造のリモデリングがさらに進行する慢性線維化期がある。本症例の病理では実際に腹側から尖部側の肺には肺胞道の拡張と肺胞の虚脱、部分的な硝子膜の形成がみられ、早期/発症1～2日のDAD patternの所見がみられた。20XX/8/7のCTでは肺うつ血像やすりガラス影は悪化が見られなかったが、その時点では誤嚥性肺炎により全身の血管透過性亢進はあり、肺うつ血や肺水腫は無かったものの、著明な腸管浮腫は認めている。その後、循環不全・臓器不全の結果として急速に肺に炎症が生じ肺水腫が出現したものと考えられる。

結果として死後、病理では早期の DAD パターンが見られたとして矛盾無い。

本症例のまとめと考察

重症熱中症による呼吸不全で救急搬送され、その後死亡した一例を経験した。

基礎疾患として PPFE があったものの、呼吸状態が悪化した原因は重症熱中症によるもので矛盾無かった。

PPFE は直接的な死因ではなかったものの入院後は呼吸状態や循環状態が崩れやすい状態であった。その状態で誤嚥性肺炎が起り、CO₂ 貯留による臓器障害・血管透過性亢進によるショック、心停止が起こった。NOMI はその過程で起き、Hb 減少による全身臓器予備能低下を来し、さらに CPA 直前では臓器障害の結果として NOMI が発症し、ショックが進んだと考えられる。蘇生により ROSC は得られたが、呼吸・循環動態が戻ることはなかった。

今後重症熱中症の診療に当たって、呼吸不全が起きることを念頭に適切な補液や呼吸管理を行う必要がある。また、循環動態が不安定な患者は NOMI のリスクを常に考え、腹痛やショック、血便が現れたときには早急に対応する必要がある。

【参考文献】

- ・ 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 2022 日本呼吸器学会
- ・ ARDS 診療ガイドライン 2016 Part1 日本呼吸器学会, 日本呼吸療法医学会, 日本集中治療医学会
- ・ 末梢動脈疾患ガイドライン 2022
- ・ 感染症治療ガイドライン - 呼吸器感染症 -
- ・ 熱中症診療ガイドライン 2015 日本救急医学会

CPC レポート (第 157 回 中央病院 CPC)

研修医氏名: 岡田哲毅, 大濱志之, 塩崎紀子

CPC 年月日: 2023 年 11 月 14 日

解剖番号: A997

診療科: 救急集中治療科 主治医・臨床指導医氏名: 萩原尊礼 病理解剖医: 小田晋輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】

67 歳男性

【主訴】

左不全麻痺

【現病歴】

2022 年 5 月 2 日に心筋梗塞で当院入院歴あり。

同年 6 月 14 日に岩美病院受診し、血糖 30 台であり、インスリンを朝 1 回に減量されていた。同日 16 時頃、近所の温泉に入り帰宅したところ、自宅で転倒しブドウ糖摂取した後、症状改善した。翌日の 4 時にトイレに行き再度転倒し、頭部全体の痛みと全身倦怠感あり。その場で横になって

いた。9時頃にトイレで倒れているところを息子が発見し、ブドウ糖とジュースを飲ませるも体動困難であったため救急要請された。

【既往歴】

慢性C型肝炎、糖尿病、高血圧、高尿酸血症、右膝痛風関節炎、貧血、急性心筋梗塞、慢性心房細動、慢性腎臓病

【アレルギー歴】

なし

【家族歴】

詳細不明

【生活歴】

喫煙：current smoker 10本/日 46年間

飲酒：数年前より禁酒

【内服薬】

岩美病院より

ランソプラゾールOD錠15mg、クロピドグレル錠75mg、アゾセミド錠30mg、フェブリク錠20mg、オルメサルタンOD錠20mg、リピトール錠10mg、メインテート錠2.5mg、サイレース錠1mg、ワーファリン錠0.5mg、エクア錠50mg、トリーバ注フレックスタッチ朝14単位、マイクロファインプラス、フェブリク錠20mg、モーラステープ20mg、プレガバリンOD錠

【入院時現症】

身長：161cm、体重：63.5kg、BT：33.9°C、BP：110/83mmHg、HR：40/min

RR：22/min、SpO2：触知困難（8L）、GCS：15（E4V5M6）

【身体所見】

頭部：蒼白なし、黄染なし、口腔内乾燥＋、頸静脈怒張

胸部：心音整、明らかな雑音－、呼吸音減弱、頻呼吸、左右差－、明らかなラ音－

腹部：膨隆－、軟、圧痛なし

四肢：末梢冷感＋、CRT延長－、下腿浮腫＋

【検査所見】

〈血液検査〉

TP 6.5g/dl、ALB 3.4g/dl、A/G 1.10、CRP 0.93mg/dl、T-Bil 0.4mg/dl、AST 56U/L、ALT 33U/L、ALP (IFCC) 201U/L、 γ -GT 53 U/L、LD (IFCC) 429 U/L、CK 114 U/L、T-CHO 69 mg/dl、HDL-C 32mg/dl、LDL-C (計算) 25.2mg/dl、TG 59mg/dl、アミラーゼ 96U/L、BUN 63.1mg/dL、CRE 4.23mg/dL、eGFR 12.03ml/min/1.73m²、Na 140mmol/L、K 6.0mmol/L、Cl 105 mmol/L、血糖 254mg/dL、HbA1c (NGSP) 6.5%、WBC 5.93*10³/ μ L、RBC 3.56*10⁶/ μ L、HGB 10.3g/dL、HCT 35.5%、PLT 144*10³/ μ L、NEUT 76.1%、LYM 17.0%、PT-INR 1.34、APTT 37.0秒、Dダイマー 25.6 μ g/mL、HCV抗体判定(+)、HCV抗体INDEX 6.87S/CO、BNP (CLIA法) 400.1pg/mL

〈静脈血ガス〉

T 37.0°C、pH (T) 7.143、pCO₂ (T) 43.2mmHg、pO₂ (T) 22.1mmHg、Na⁺ 140mmol/L、cK⁺ 5.7mmol/L、cCl⁻ 111mmol/L、cCa²⁺ 0.95mmol/L、Anion Gap、K⁺、c 20.8mmol/L、cHCO₃⁻ (P, st)、c 12.7mmol/L、ABE、c -13.9mmol/L、SBE、c -13.1mmol/L、ctHb 10.9g/dL、

Hct 33.5%, cGlu 250mg/dL, cLac 5.9mmol/L, ctBil 0.4mg/dL, cCrea 4.74mg/dL

<頭部 CT>

頭蓋内に明らかな出血病変なし.

<胸部～骨盤部単純 CT>

心拡大あり. SVC・IVC 緊満を認め、心不全を疑う.

肺血管影増強は前回より軽減している. 心嚢水貯留している.

両肺背側に認めた濃度上昇は改善し、気管支内の軟部影も消失. 両下葉に癒痕様索状影散在. 胸水貯留は認めない. 甲状腺両葉に石灰化結節あり.

右第 3-5 肋骨骨折後. 左鎖骨骨折, 術後疑い. 一部偽関節を疑います.

少量腹水出現. 肝は辺縁鈍で慢性肝障害様である.

胆嚢壁浮腫状肥厚疑い, 腫大は目立たない.

両腎周囲軟部影陽性. 前回同様で非特異的な変化の可能性もあり. 腎盂腎炎を疑う.

脾・副腎に特記所見はなし.

腹水貯留, 傍大動脈リンパ節腫大は認めない.

左腸骨に術後変化を疑う所見あり. 結腸肝彎曲付近に憩室散在, 周囲脂肪織混濁あり. 憩室炎を疑う.

食事摂取していない割には, 胃に拡張と残渣貯留が目立ち, 十二指腸球部, 下行脚付近の狭窄を疑う.

膀胱は萎縮様, 体尾部に石灰化散在し, 慢性膀胱炎の可能性あり.

【入院時プロブレムリスト】

- #1. 尿毒症
 - #. 代謝性アシドーシス
 - #. 慢性腎障害
- #2. 肝硬変
- #3. 結腸憩室炎の疑い (肝彎曲付近)
- #4. 十二指腸狭窄の疑い

【入院後経過】

11 時 45 分に酸素 8L/分 で EC 入室した. 腎性と思われる極度のアシドーシスに対して CRRT 導入した. さらに high performance に変更したが, 循環動態低迷するためノルアドレナリン持続静注開始した. アシドーシス, 循環動態の改善なく near CPA になりかけたため V-AECMO 導入の方針となり, 挿管し PC-BiPAP での管理となった. フェンタニル, ミダゾラムで鎮静も開始した. V-AECMO 導入後, NOMI の疑いで試験開腹施行し, 腹腔内は悪臭, 混濁腹水なく腸管の壊死・虚血は認めなかった. ECMO 導入後しばらくは pH7.256-7.281 のアシデミア, 乳酸値 10 弱と高値続くものの心機能低下はなかったが, 18 時ごろ急激に循環動態悪化しドブタミン持続静注開始, IABP 導入となった. IABP 導入後は pH7.325-7.467 とアシデミア改善し, 乳酸値の低下も見られた. 動脈血ガスは大きな変化なく経過し, 循環動態も安定しており血圧低下に注意しながら ECMO の回転数, 流量を減少させていき回転数 2000, 補助流量 0.75, 酸素流量 0.5 まで下げるも血圧 114/69 と保たれていた.

第 3 病日に V-AECMO 抜去の方針となった. ECMO 回転数 2300, 流量 0.97 で稼働中のところ送血クランプし一時的に収縮期血圧 90 台となるも平均血圧 60 以上保持できているため予定通り抜去

とした。V-AECMO 離脱後回収血 500mL 返血の予定だったが、フィルターの詰まりにより 50mL 返血したところで中止となった。(抜去前血圧 144/56) 抜去後急速に血圧 72/39 まで低下、AF 波形見られオノアクト投与、DC110J 施行しアドレナリン投与、ドブタミン増量したが循環低迷変わらず死亡確認され。

2. 臨床的疑問点

- ①代謝性アシドーシスに至った原因は何であったか
- ②補助循環離脱後に右心負荷が急激に増大した要因は何であったか
- ③直接的な死因は何であったか

3. 病理解剖診断と主な所見

急性～亜急性右室・心尖部心筋梗塞＋陳旧性左室心筋梗塞 (620g)

甲状腺乳頭癌 (右葉) : apT1a,NX,MX

急性腎皮質壊死・尿細管障害, 腎硬化症 (左 150g : 右 142g)

急性肺炎 (誤嚥性 s/o), DIP 様変化 (左 400g : 右 440g)

鬱血肝 (1200g)

鬱血脾, 脾動脈瘤 (120g)

脾線維化 (130g)

胃潰瘍

低異型度管状腺腫 (上行結腸, 直腸)

腔水症 (左胸水 300mL : 右胸水 300mL : 心嚢水 300mL)

4. CPC における討議内容

主訴が左不全麻痺で搬送されていたが、心原性の脳梗塞などは考えられないかということに議論が及んだ。

搬送時の主訴は左不全麻痺であるが、搬送時に明らかな脳神経障害を疑うような所見は得られなかった。第 3 病日の心エコーでは心腔内に血栓も見られているが、第 2 病日の心エコーでは明らかな心腔内血栓などは認められてはいない。しかしながら脳の病理解剖は行っていないため否定することはできないが、臨床所見上の経過としては、心原性脳塞栓症よりは急性心筋梗塞による経過と考えた方が自然であるとの結論に至った。

また右室から心尖部の新規心筋梗塞について、いつ発症したかについても議論が及んだ。

右室から心尖部の心筋梗塞について、病理解剖では急性から亜急性期の変化であり、経過としては数日から一週間程度の経過であることから、搬送数日前から死亡した日までの間に心筋梗塞が起きたものと考えられる。

確かに、搬送後の経過の中で心筋梗塞になった可能性も否定はできない。しかしながら本症例は搬送時の循環不全が病態に大きく影響を与えていると考えられるため、搬送前に循環不全になっていたと考えると経過とも矛盾ない。本症例で最も循環不全の原因として考えられるものが、右室から心尖部の急性 / 亜急性心筋梗塞であり、発症は搬送前に起きていたものだと考えられる。

臨床的疑問点についての考察

- ①代謝性アシドーシスに至った原因は何であったか

代謝性アシドーシスは大きく分けて AG 開大する AG 開大性アシドーシスと AG が開大しない高 Cl 性アシドーシスに分類される。

本症例では搬送日の血液ガス検査で AG 15.1, 補正 AG は 16.6 と開大しており AG 開大性の代謝

性アシドーシスがあると考えた。また重炭酸イオンは 12.7, 補正しても 15.8 と低値であり, 高 Cl 性アシドーシスも併存していると考えた。

AG 開大性アシドーシスについては以下のような原因が考えられた。

ケトアシドーシスについてだが, 血糖は 250 と高値であり前日に低血糖となりインスリンの減量, インスリンなし, ブドウ糖とジュースのみ摂取したなどの現病歴からはケトアシドーシスなども鑑別に挙げると考えられた。生理的ストレスとしても心筋梗塞を契機にケトアシドーシスが起きたと考えても矛盾はなかった。しかし搬送時の症状として嘔気・嘔吐などの消化器症状がないこと, 口渇もそれほど強くはなく, 血糖値も 250 と比較的高くないことから存在しても軽度だと考えた。

乳酸アシドーシスは Lac 5.9 と高値であり, 乳酸アシドーシスは存在していると考えた。また腎機能は eGFR12.03 と低値であり尿毒症によるものも存在していると考えた。その他外因性によるものはサリチル酸やメタノールなどの摂取によるものだが現病歴から否定的であった。

以上より乳酸アシドーシス・尿毒症性アシドーシスの 2 つが AG 開大性アシドーシスの原因になり得ると考えた。

高 Cl 性については以下のような原因が考えられた。

下痢や消化管ドレナージなどの消化管からのアルカリ消失は現病歴からは否定的であった。アミノ酸の過剰摂取などによる酸過剰摂取も可能性としては低いと考えた。腎臓でのアルカリ喪失が起きているのであれば, 近位尿細管障害による K の低値などが見られるが, 搬送時の L/D からはむしろ高 K で低 K などなかった。次に腎臓での酸排泄障害についてだが, 薬剤性などは否定的であった。また病歴からも慢性腎不全によるものと考えて矛盾ないと考えた。よって腎での酸排泄障害による高 Cl 性アシドーシスであると考えた。

以上のことから循環不全や腎機能低下による AG 開大性アシドーシスと腎不全増悪や IV 型尿細管障害などを契機に起きた高 Cl 性アシドーシスが併存しており, 急激に代謝性アシドーシスが進行したものだと考えた。

搬送時の状態としてはアシデミアになっており, CHDF を導入し High Performance mode でも全身状態が改善しなかった。その後循環が低迷し, NAd や DOB を入れても改善せず, V-AECMO・IABP を導入したことによって全身状態・L/D が改善したことからも循環動態が病態に大きく影響していると考えた。そこで腎不全増悪や乳酸アシドーシスになった原因として考えられる循環動態について考察する。

搬送前の循環動態についてだが, 16 年前にも心筋梗塞となっており, 同年の 5/2 に当院にて AMI で入院し, #6, #9, #13 に対して PCI が行われた。#8 も 100% 閉塞だったが, IABP 導入し経過良好であり, IABP は血行動態も維持できていることから 5/5 に抜去した。その後 5/7 に VF となり #8 に対して緊急 PCI を施行, リハビリで全身状態良好となり岩美病院でフォローされていた。病理所見では左室梗塞は陳旧性変化を認め, 16 年前の心筋梗塞, もしくは 5/2 ~ 入院となった急性心筋梗塞によるもの, 右室から心尖部にかけての梗塞は急性~亜急性梗塞の梗塞巣であり 6/15 からの入院に関する急性心筋梗塞によるものだと考えた。

以上のことより, 今回の病態は 5/2 から入院となった心筋梗塞によって心機能が低下していたところに RCA の新規梗塞が起きて, 循環不全に陥り, その結果ラクテートが上昇し乳酸アシドーシスに至ったと考えた。加えて元々高 Cre 血症がある CKD の患者でもあったため循環不全によって腎機能が悪化し代謝性アシドーシスに至ったと考えた。

上記の病態の重なりにより急激に重度の代謝性アシドーシスに至ったと考えた。

②補助循環離脱後に右心負荷が急激に増大した要因は何であったか

まず搬送時の状態だが、前述したようにV-AECMOやIABPなどの補助循環装置やノルアドレナリンやドブタミンなどを用いることで、循環動態を維持している。本症例の補助循環離脱前の補助流量は0.95L/minで、クランプテストの際は血圧一時的に90台に落ちるもmeanBP \geq 60mmHg, HR141bpm, ScvO₂ 69%で離脱した。補助循環離脱後、フィルターのつまりのため回収血は500mL投与予定のところ50mL投与で終了した。その後、血圧72/39mmHg, HR121/minとなりアドレナリン投与、ドブタミン増量をしたが循環低迷変わらず、心エコーにて右心内に凝固が生じていることを確認した後、死亡確認となった。これらの経過から補助循環離脱後に右心負荷が増大したと考えた。

補助循環離脱後の右心負荷増大の原因として最も考えられるものとして右心梗塞とV-AECMO離脱による心負荷の増大が挙げられる。

まず右心梗塞についてだが、5/2の造影検査の段階でRCAには75%の狭窄が見られていた。病理所見では右室から心尖部にかけての急性期～亜急性期の心筋壊死、肉芽形成を認めており、急性～亜急性の心筋梗塞であると考えられた。これらの情報から新規にRCAに梗塞ができたものと考えた。循環動態への加療としてV-AECMOやIABPなどの補助循環装置は用いていたが、RCAに対するPCIなどは行っていなかった。また、V-AECMO離脱後の心エコーで右室の容量が6/16のエコーと比較して大きく変化していなかったこと、回収血が十分に戻せなかったことを考慮すると右室の循環量を保てなかったことも右心機能の悪化の要因の一つであったと考えられた。

ECMO離脱による心負荷についてだが、本症例におけるV-AECMOは循環補助として導入されていた。従ってV-AECMO離脱時には心負荷は増大するのだが、本来であれば離脱による右心負荷の増大は病態的には問題ないものである。しかしながら本症例においては、上述の右心負荷による右心機能の低下も重なり、離脱による右心負荷に耐えられなかったものだと推察した。

V-AECMO離脱の基準だが、確立されたものはなく、各施設において症例ごとに離脱の可否を判断している。V-AECMO装着により循環動態が安定しており全身灌流量が保たれている、カテコラミンが少量もしくは減量できている状況であれば心機能を確認しながら離脱を考慮する。また離脱を考慮する具体的な数値として、V-AECMOの補助流量を0.5Lずつ1.0～1.5L/分まで減量し、自己肺の酸素流量を2L/分まで減量した状態で、動脈圧波形での脈圧の確認、平均動脈圧60mmHg以上、混同静脈血酸素濃度(SvO₂)60～65以上、血中乳酸値2mmol/L以下を確認できれば離脱を考慮する。また可能であればV-AECMO装着後48-72時間で離脱を行うことが望ましく、それ以降では生存率が低下するといった報告もある。

本症例ではV-AECMOやIABPといった補助循環装置装着後の循環動態は改を認め、回転数を下げても血圧の低下などなく状態は安定していた。また下肢の末梢冷感が残るもののチアノーゼなどは改善しており全身灌流量は保たれていると考えられ、さらに使用薬剤もNA0.1 γ 、DOB3 γ など高用量ではあるが補助循環装置装着直後の容量、NA0.3 γ 、DOB5 γ と比較して減量できていた。また、離脱直前の評価としてはV-AECMOの補助流量0.95L/分、自己肺酸素流量は約5L({40-21} *350*15/79)、ScvO₂ 69%、Lac 2.2であった。以上のことから離脱考慮できギリギリの状況であったが、導入後3日目であり48-72時間経過しているため抜去するという判断となった。

その他の原因についてですが、エコー所見から右心負荷を起こすような弁膜症は認めず、ASDなどの器質的疾患も認めません。肺高血圧症や肺塞栓症は6/16と6/17の心エコーを比較して明らかな右室肥大などは認めず、病理所見からも一部に肺水腫や肺胞出血は認めますが、炎症によるものだと考えられた。その他の肺高血圧症や肺塞栓症などは病理所見からも見受けられませんでした。以上より上記のような疾患による右心負荷の増大は否定的だと考えた。

以上のことから元々循環動態も不安定であり、新規梗塞や補助循環の離脱などの右心負荷増大の要因が発生し、循環動態の改善が不十分であったことが重なったことにより、補助循環離脱後に循環動態を保つことができなかつたと考えられた。

③直接的な死因は何であったか

臨床医の推察としては頻回の虚血性疾患に対してカテーテル治療を受けており、今回も心不全の極期故に多臓器不全に陥ったものだと推察された。また病理医の診断は主病変として急性～亜急性右室・心尖部梗塞と陳旧性左室梗塞、および甲状腺乳頭癌（右葉）apT1a,NX,MXとなっている。甲状腺乳頭癌はリンパ節転移や遠隔転移は不明ではありますが、リンパ節転移・遠隔転移がなかったとするとT1aN0M0となり超低リスク乳頭癌に分類され、本症例のように突然の死因に直結するとは考え難い。これらの臨床経過や病理所見から直接的な死因は心筋梗塞による循環不全であると考えた。

最後に病理所見からは様々な副病変も上がっており急性腎皮質壊死などの腎疾患や急性肺炎などの肺疾患も可能性として考えられたが、循環不全による影響として考えて矛盾なく、経過とも一致することからも否定的だと考えた。

本症例は元々慢性腎不全、心不全、心筋梗塞の既往があり循環動態としては不安定であった。その状況で右室～心尖部に虚血が起きたことを契機に循環動態が破綻し、全身状態が不良に陥った。様々な補助装置を用いて循環を保っていたが、虚血となった右室への治療は行っておらず、右心負荷増大となるイベントが発生したことで循環が保てなくなり死に至ったと考えた。

【参考文献】

坂口悠介．代謝性アシドーシス．日本内科学会雑誌 111 巻：949-956, 2022

小尾口邦彦．こういうことだったのか!! ECMO・PCPS, 2020

日本循環器学会．フォーカスアップデート版 PCPS/ECMO/ 循環補助用心内留置型ポンプカテーテルの適応・操作：20, 2023

業績集規約

【誌上発表，研究業績】

1. 当院職員が当院在職中に発表した業績を対象とする。
2. 重複する目録は筆頭者の所属のみに掲載とする。
3. 〈誌上発表〉〈学会発表〉〈講演・講義・研修会〉〈新聞・テレビ・ラジオ〉〈学会の主催〉を対象とする。

4. 書式・表記法

〈誌上発表〉…論文：タイトル（改行） 著者（改行） 雑誌名． 巻数：頁 - 頁， 発表年（西暦）
著書：タイトル（改行） 著者（改行） 書籍名（出版社名）． 巻数：頁 - 頁， 発表年（西暦）

※雑誌名は医学中央雑誌に準ずる。

〈学会発表〉…タイトル（改行） 演者（改行） 学会名． 発表場所， 発表年（西暦）． 月

〈講演・講義・研修会〉…タイトル（改行） 演者（改行） 講演名． 発表場所， 発表年（西暦）． 月

〈新聞， テレビ， ラジオ〉…タイトル（改行） 演者（改行） メディア名． 発表年（西暦）． 月

〈学会・研究会の主催〉…学会名（改行） 主催者名． 発表場所， 発表年（西暦）． 月

- ・ 著者・演者の数が多く省略するときは「〇〇， 他」， 「〇〇， et al.」と表記する。
- ・ 発表場所は， 東京都， 鳥取市， 八頭町などと表記する。
- ・ 著者・演者名はその途中で改行されないようにする。

【臨床統計】

1. 手術統計は診療報酬点数表をもとにつくることを原則とする。
2. 点数表にない手術もしくは学術的に名称が妥当でないものについては各部署の責任者の判断とする。
3. 統計は3年分を時系列で掲載する。

【共通事項】

1. 校正は著者の責任においておこなうこととする。
2. 原稿の返却， 訂正， 掲載の適否， 順序は委員会において決定する。
3. フォントはMSPゴシック． 文字サイズは業績目録 10.5pt， 臨床統計 10pt， 見出し 14pt.
4. ページ設定はA4， 余白は上下左右いずれも 25mm， 40行 / 頁， 45文字 / 行を原則とする。
5. ; : は全角とする。 。 、 は使用しない。
6. その他の書式や表記法については本文参照。

研究業績集 第42集

発行 令和6年12月

発行者 鳥取県立中央病院長 廣岡保明

編集 業績編集室

発行所 鳥取県立中央病院

鳥取市江津730番地

☎0857-26-2271

印刷所 有限会社 螢光社 ☎0857-22-5565

